

# 大東京圖帳

THE PICTORIAL OF TOKYO

Y994

J8149



Y994

J8149

大東京寫真帖目次

▲▲東京市公會堂からみた日比谷附近の展望  
▲▲復興せる帝都を御巡幸の御召自動車馬場

▲▲▲金、金、金の日本橋  
▲▲▲株式取引所と白木屋



I 種

W



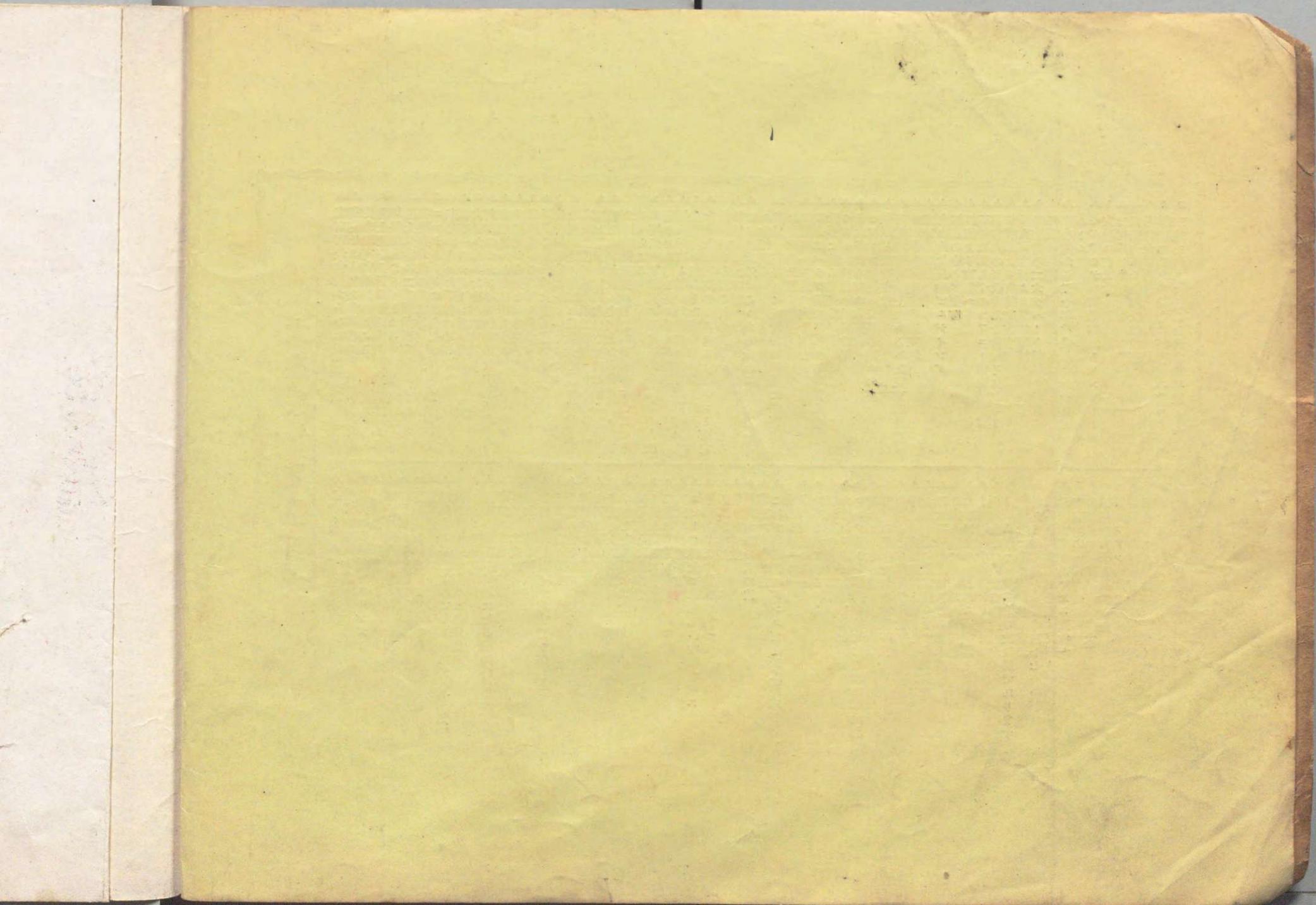
\*1200801171474\*

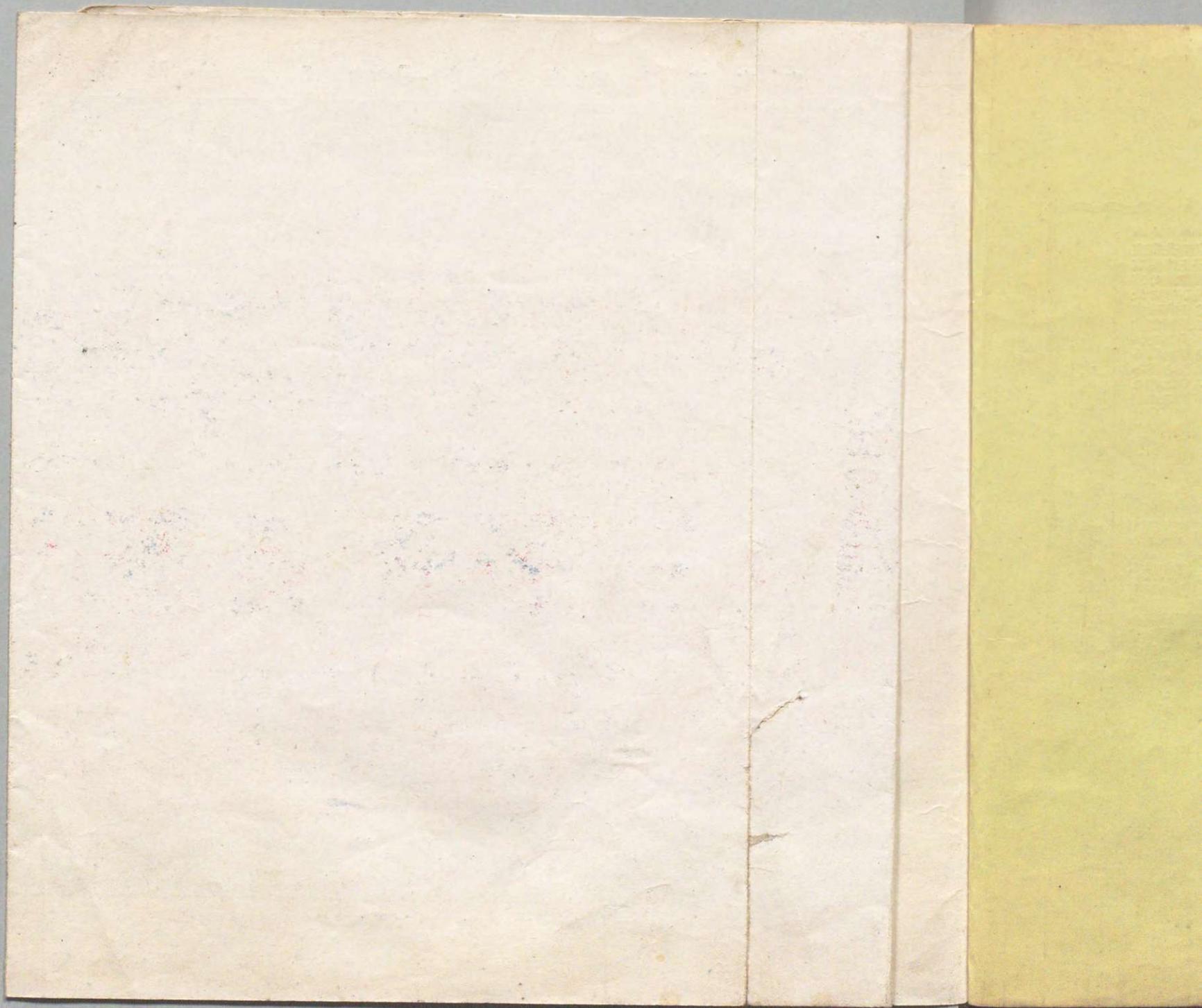
大東京寫真帖目次

東京市公會堂からみた日比谷附近の展望  
 復興せる帝都を御巡幸の御召自動車馬場  
 先上野公園西郷銅像前展望所から  
 聖廟の二重橋前帝都復興完成式典  
 復興祭の二重橋前帝都復興完成式典  
 コングリートの現代化された向島の言問  
 新橋からみた帝都の心臓銀座通り  
 日本橋からみた夜の銀座通り  
 東京のピカデイリ銀座尾張町附近の夜景  
 飛行機から見た日本橋附近の鳥瞰圖  
 飛前橋から見た日本橋方面を望む  
 蔵前橋の近代美を隔て、淺草方面を望む  
 淺草の陸軍記念堂大行進・街頭清掃  
 復元祭の陸軍記念堂大行進・街頭清掃  
 市上民衆の陸軍記念堂大行進・街頭清掃  
 聖廟の陸軍記念堂大行進・街頭清掃  
 公園の陸軍記念堂大行進・街頭清掃  
 馬場先門前歡喜の群集上野公園前の人波  
 假裝行列の墨田川遊船の萬燈行列  
 珍趣向を凝らした廣告祭の假裝行列  
 宮城前奉祝のイルミネーションと東京  
 市聯合青年團の提灯行列  
 松影清き二重橋の提灯行列  
 日本橋の政治はこゝから生れる霞ヶ關一帯  
 春秋の花祭りに近代庭園美に新舊混淆  
 日比谷公園の近代庭園美に新舊混淆  
 日比谷から丸の内を望む  
 當分はバラックで我慢する現議事堂  
 世界に誇る建築の首相官邸  
 モダイン建築の先驅帝國ホテル  
 日比谷内幸町の先驅帝國ホテル  
 東京市役所の表裏からみた東京驛附近  
 東京市役所の表裏からみた東京驛附近  
 丸の内代表のビルディング  
 銀座の中心尾張町  
 銀座の中心尾張町  
 不景気の知らずのカフェー商賣  
 都會人の近代生活を語るカフェー  
 新橋驛より有樂町方面を望む  
 日比谷方面より數寄屋橋を望む  
 銀座の二大デパート松屋と松坂屋  
 銀座の二大デパート松屋と松坂屋  
 鹿鳴館から五十年、盛んになつたダンス  
 ホール  
 モガの歡樂郷たるダンスホール  
 東京の交差点  
 お江戸日本橋  
 東京一日本橋  
 明治座の内部  
 髮結さんは昔、今は美容院の世の中  
 三越を中心に眺めた日本橋界限

金、金、金の日本橋  
 株式取引所と白木屋  
 婦人の新職業マネキンガール  
 永代橋  
 東京の問屋町  
 隅田川を飾る新二橋  
 江戶橋から京橋方面  
 橋の趣き  
 震災前の姿をとめてゐる日本橋の藥研類  
 淺草橋附近からみた金座通り  
 モダナな濱町公園  
 富豪岩崎家の寄附になる清澄公園  
 帝都の工場地帯  
 震災記念堂  
 梅太鼓響く國技館  
 本所錦糸堀より深川方面を望む  
 上野野原の鳥瞰圖  
 上野野原の鳥瞰圖  
 博覽會の海と空の博覽會  
 上野野原の鳥瞰圖  
 新装野原の鳥瞰圖  
 ゆかしき上野の風景  
 動物園と西郷銅像  
 東野公園と西郷銅像  
 口野の風景  
 スピード時代に相應しい安値なバス  
 駒形通りより淺草雷門へ  
 淺草六區の人の波  
 淺草の食傷新道  
 これが新時代のダンスだと云ふ淺草松竹  
 歌の夜に舞臺面  
 新茶屋の青物集散地  
 九段より神田方面を望む  
 九段クリート舗道も近代化された九段坂  
 創られた九段坂を祀る靖國神社  
 護國神社の聖域を祀る靖國神社  
 代々木宮の聖域を祀る靖國神社  
 明治神宮の聖域を祀る靖國神社  
 乃木將軍の英靈を祀る乃木神社  
 武勳永遠に輝く乃木大將邸  
 山手銀座の輝く乃木大將邸  
 赤坂離宮の輝く乃木大將邸  
 赤坂離宮の輝く乃木大將邸  
 放送室に於ける放送局であります  
 増上寺の横門と泉岳寺四十七士の墓所  
 江戶の藝術の精華を遺す芝増上寺の靈廟  
 東船場の一丁目芝浦  
 早稲田の第一高等學府帝國大學  
 野球場の血を沸かす早慶戦  
 鏡球の血を沸かす早慶戦  
 昔ながらの木橋に凝望する早慶戦  
 新東名木橋に凝望する早慶戦

終





た 日 比 谷 附 近 の 展 望



日比谷公園運動場、正面が萬音樂堂、樹林を越してその向うには帝劇、東京會館等の諸建築がある。その右は日比谷交又點、中央の大建築が帝國ホテル、その右は元の有名なライト氏の設計で我國の建築界にも一大センセーションを與へたもの、高さは割合に低いが三階建て、大谷石を使用した點が特徴である。在京外人のホテルとしてインには、銀座方面、朝日新聞、松屋、松坂屋等の建築が聳立してゐる。

東京市公會堂から見た日比谷附近の展望



Hibiya Park. left, Hibiya Park;  
Marunouchi; centre, the Imperial  
Hotel.

寫眞は、東京公會堂樓上からみた日比谷界隈で、左が日比谷公園運動場、正面が萬音樂堂、樹林を越してその向うには帝劇、東京會館等の諸建築がある。その右は日比谷交叉點、華族會館、往時の鹿鳴館である。帝國ホテルは世界的に有名なライト氏の設計で我國の建築界にも一大センセーションを與へたもの、高さは割合に低いが三階建て、大谷石を使用し、又宴會場として使はれてゐる。その向うのスカイラインには、銀座方面、朝日新聞、松屋、松坂屋等の建築が聳立してゐる。

東京市公會堂から見た日



A view of Hibiya vicinity, from Tōkyō Pab'ic Hall in Hibiya Park. *left*, Hibiya Park; *upper-left*, the Imperial Theatre and great buildings at Marunouchi; *centre*, the Imperial Hotel; *right*, the Peers' Hall; *upper-right*, Ginza directions.

寫眞は、東京公會堂樓上からみた日比谷界隈で、左が日比谷公園遊  
華族會館、往時の鹿鳴館である。帝國ホテルは世界的に有名なライ  
て、又宴會場として使はれてゐる。その向うのスカイラインには、



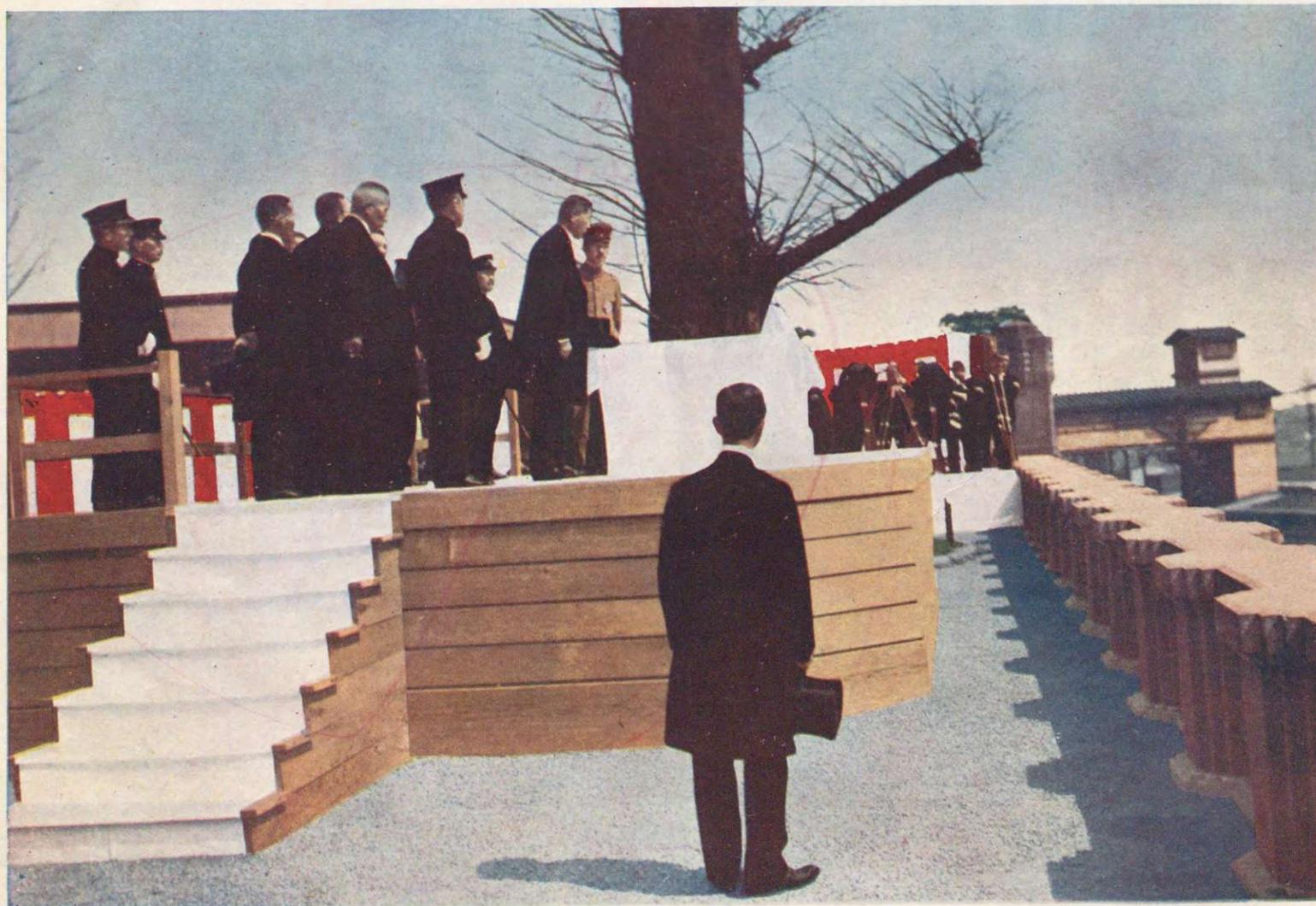
復興帝都御巡幸の御召自動車馬場先奉祝門御通過のところ





The right page of the notebook is mostly blank, showing signs of age and wear. There are several faint, illegible red markings scattered across the page, which appear to be bleed-through from the reverse side. The paper is off-white and has some creases and discoloration, particularly near the bottom edge.

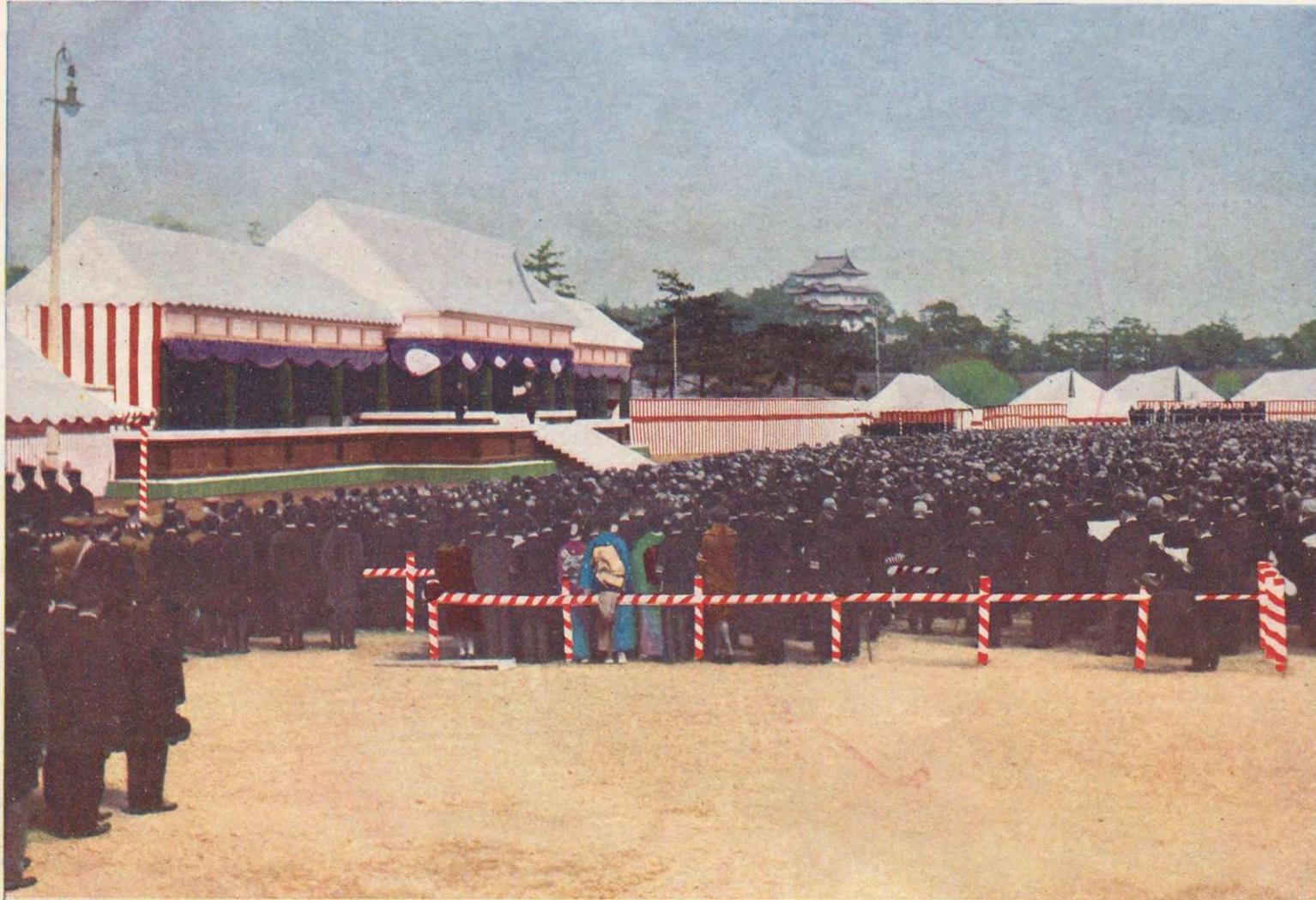
聖上陛下上野公園西郷銅像前展望所から御展望遊さるゝところ



御説明申上げてゐるのは堀切市長



聖上臨幸の二重橋前帝都復興完成式典



御前に祝辭を奉讀せるは安達内相・參列の市民代表は六萬五千人



復 興 祭 奉 祝 の 花 電 車





こ含めて計畫され  
眞は、隅田川公園  
る。

コンクリートに現代化された向島の言問



Mukōjima Kototoi, with a distant view of Asakusa, beyond the River Sumida.

隅田公園は向島を中心として、隅田川の西南にひろがり、幾多の史蹟情趣に富む由緒ある舊蹟を含めて計畫され一般市民への水の公園として、兩岸を連絡するものとしては言問橋を利用する様になつてゐる。寫眞は、隅田川公園向島側より言問橋を隔てて浅草方面を望んだ所。右方の伽藍は観音堂、その左方には五重塔が見える。



整理のオー・ストツ  
はこゝである。

新橋からみた帝都の心臓銀座通り

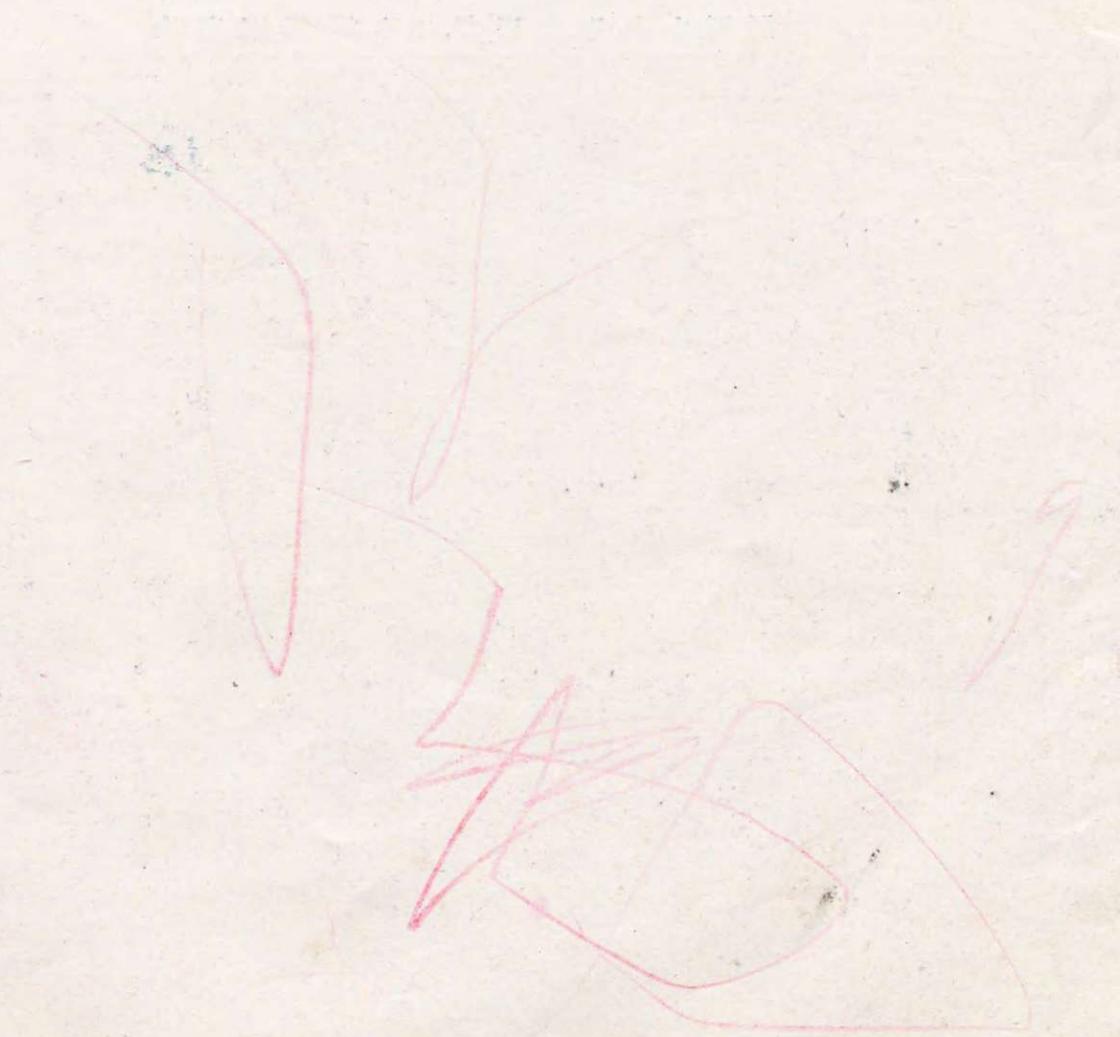


Ginza Street, the heart of  
Tokyo, from Shinjuku.

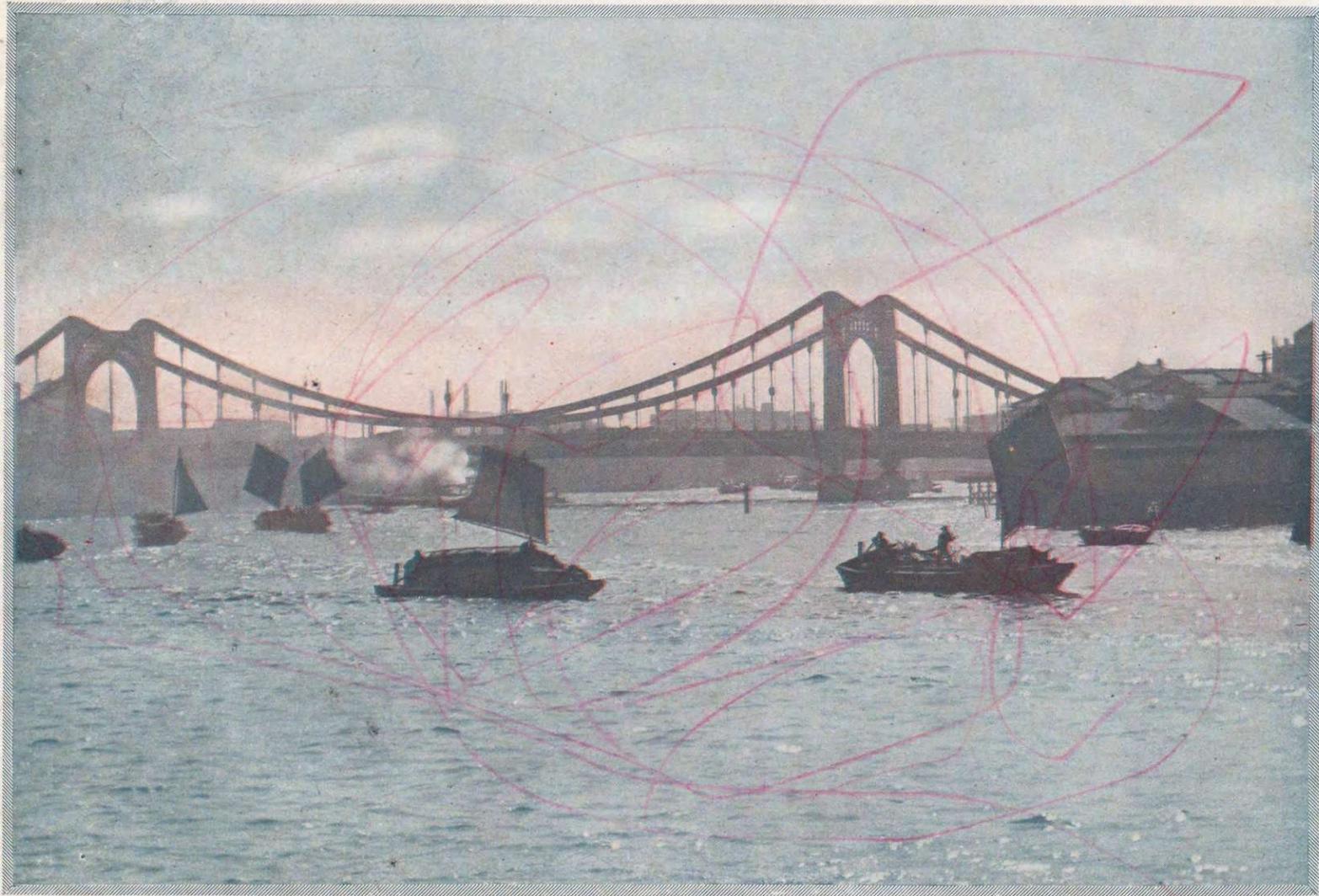
銀座は東京の心臓である。レヴェー時代の中心地だ。自動車の警笛、オートバイの爆音、交通整理のオー・ストツ  
ブ、赤・青、人間の氾濫、男—女、男—女、何處からか流れて来る蓄音機、「昔戀しい銀座の柳」—はこゝである。



もの、清洲橋はその  
それに餘り装飾が



日本一のモダン橋・清洲橋の朝



The new style Bridge of Kiyosu, viewed in the morning glow.

隅田川十六橋梁の内、清洲、藏前、駒形、言問の四橋は東京市民の投票によって命名されたもの、清洲橋はその内で最新式なモダン橋とされてゐる。やさしく空中からアーチを吊り下げた様に作られてゐる。それに餘り装飾がしてないところに近代的な前素を表してゐる。

京橋からみた夜の銀座通り

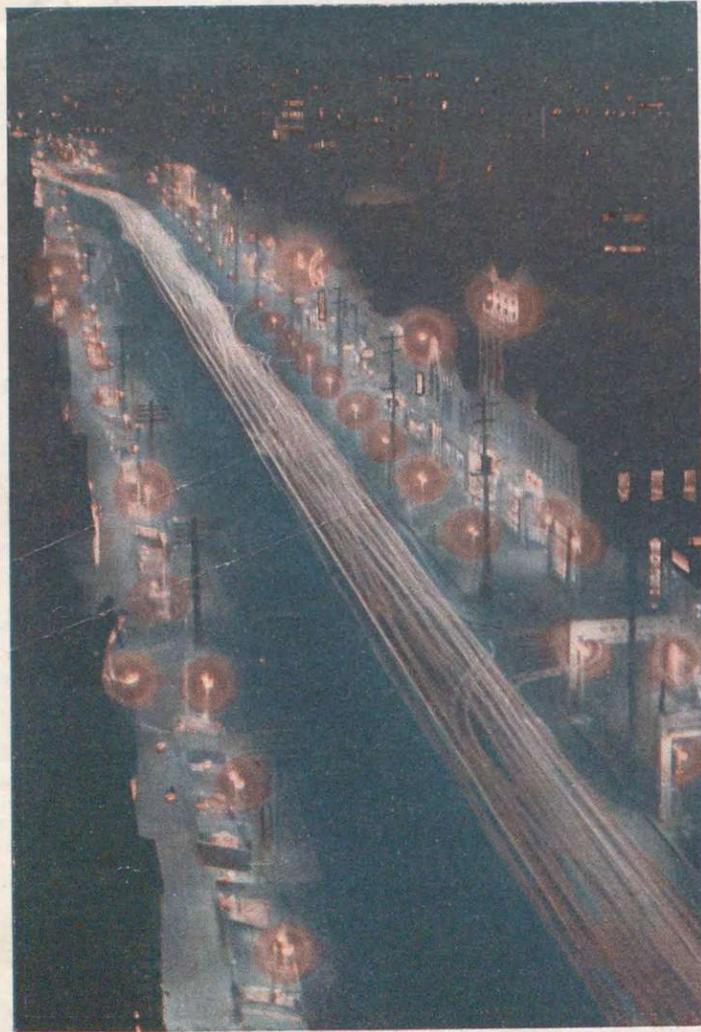


A night-scene at Ginza, from the Kyōbashi quarters.

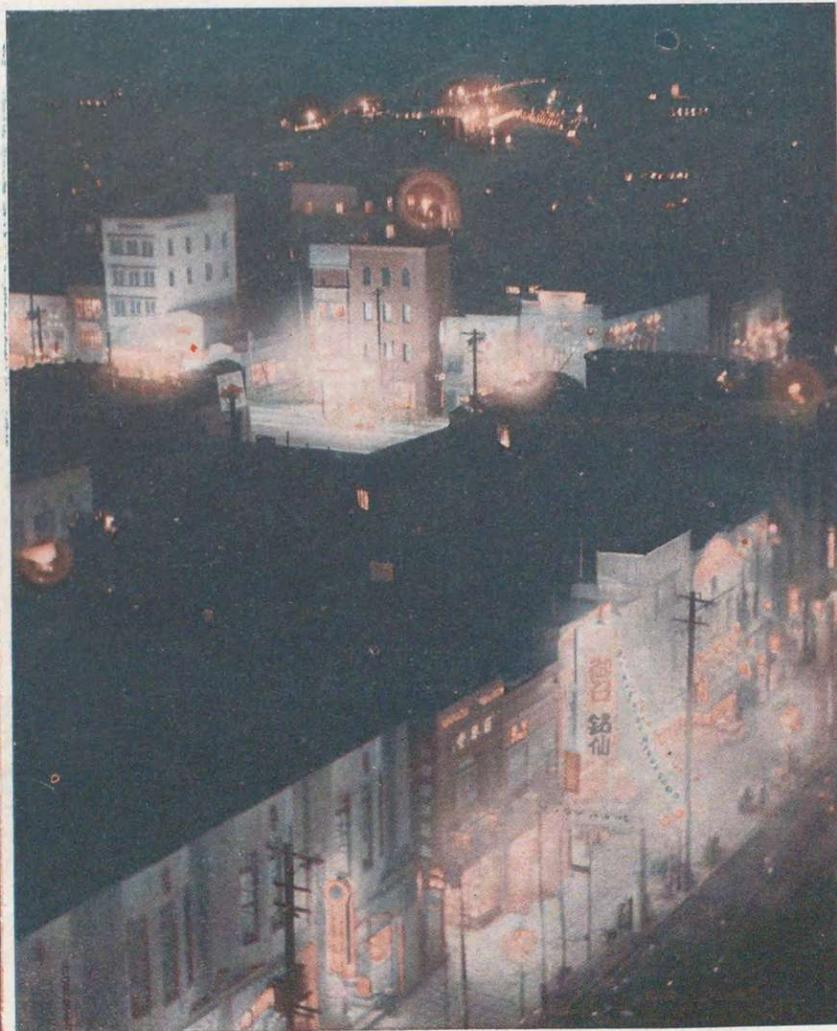
新橋をわたつてはじまる銀座通りの光と音の交錯は、尾張町を経て京橋まで続く、この写真は京橋方面から銀座通りをみた所。

のきらめき、ペ

東京のピカデイリ銀座尾張町附近の夜景



A night-view of Ginza, the Piccadilly of Tōkyō.

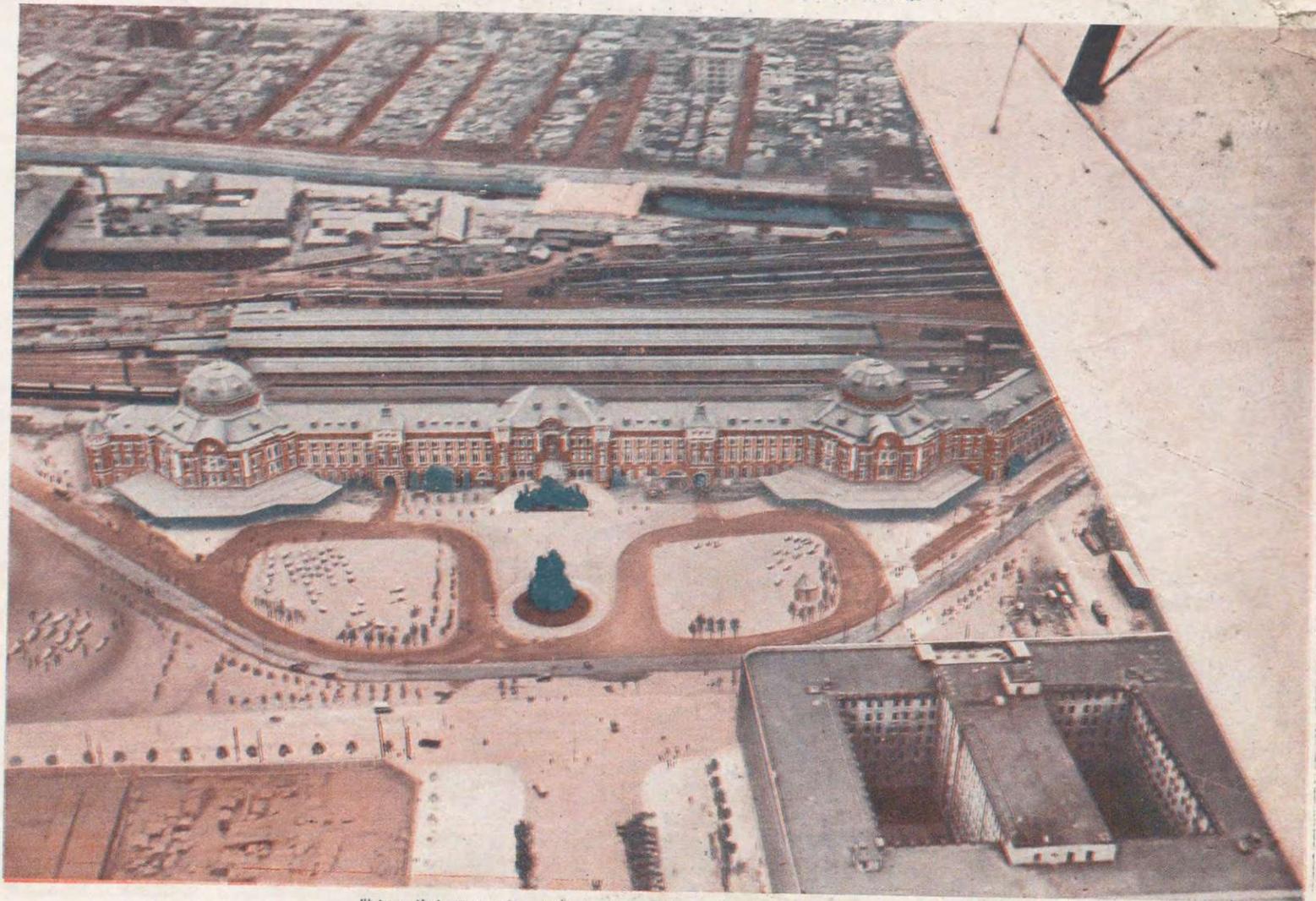


夜の銀座、彼が特有の魔性……? を發揮する夜の銀座である。廣告塔の點滅、ショーウインドウのきらめき、ページメント一杯に嬉々として交錯する音と光、寫眞は銀座通りの中心尾張町の夜景である。



A night-scene at the Kyōbashi quart

飛行機から俯瞰した丸の内東京驛附近



An aroview of the environs  
of Tkyō Station.

幾年か前までは三菱ヶ原を云つて、草茫々たる空地であつた。狐が化かす、人殺しがあつた等と氣味の悪い流言が東京の人をこはがらせたのも東の間、大正三年に東京驛が出来て、世人の瞻つたまを奪つた……かと思ふと、又もやまたくうちに、丸ビル、海上ビル……そして今ではアメリカ方式の巨大なビルディングが軒々ちやない、屋上庭園をならべて立つてゐる。寫眞は飛行機からみた東京驛を中心とした丸の内界隈。



の第一幹線道路の  
心である。寫眞は  
葉が三越。

飛行機から見た日本橋附近の鳥瞰圖



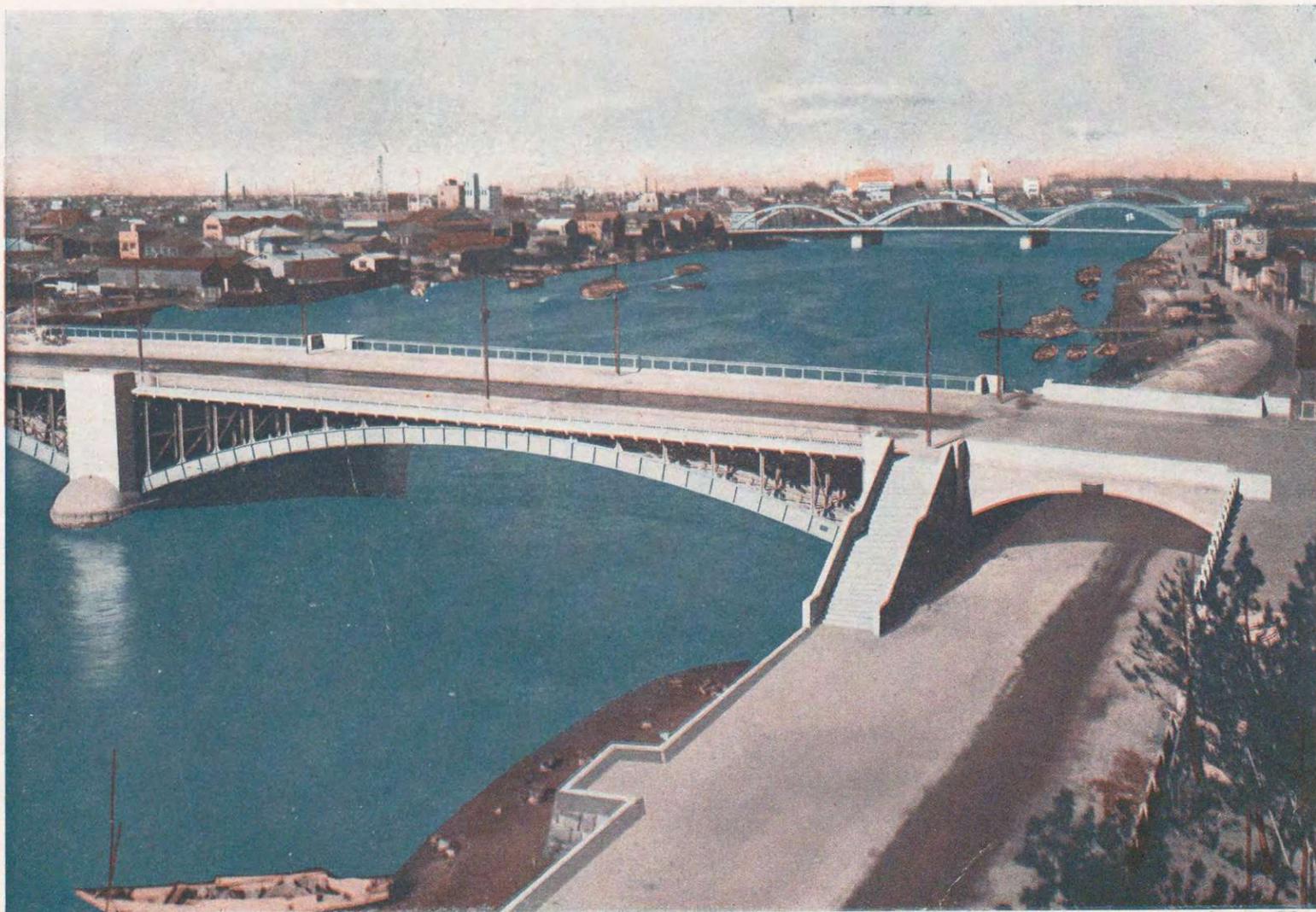
A bird's-eye-view of the Nihombashi quarters. *centre*: The Shirokiya, *upper*: The Mitsukoshi.

「お江戸日本橋七つ立ち……」昔からお江戸の中心地として歌はれてゐたが、復興した新東京の第一幹線道路の中心は、三越、白木屋をはじめとして新式のデパートや、江戸時代からの老舗が軒をならべて並んでゐる。写真は飛行機から見た日本橋交差点を中心とした附近の鳥瞰圖、日本橋の角が白木屋、上方中央の大建築が三越。



An aerierview of  
of Tokyo Station.

蔵前橋から厩橋を隔てて浅草方面を望む



The Asakusa quarters from Kuramae bridge, beyond Umayabashi bridge.

蔵前橋は、清洲橋と同様新しく隈田川中流に架設されたモダン橋であるが、清洲橋とは異り何處までも在來の型をとり、しかも近代的な裝飾を取入れたもの、浅草蔵前片町と本所横綱とを繋いで附近の住民の爲には非常に重寶がられてゐる。寫眞は蔵前から浅草方面をみた所で、ほろかに浅草觀音の伽藍がみえ、すぐ向う隣の橋は厩橋、その先は駒形橋。

大鼓や、玉や鐘の  
なけれ、鐵筋のア

橋梁の近代美に昔も夢の兩國橋



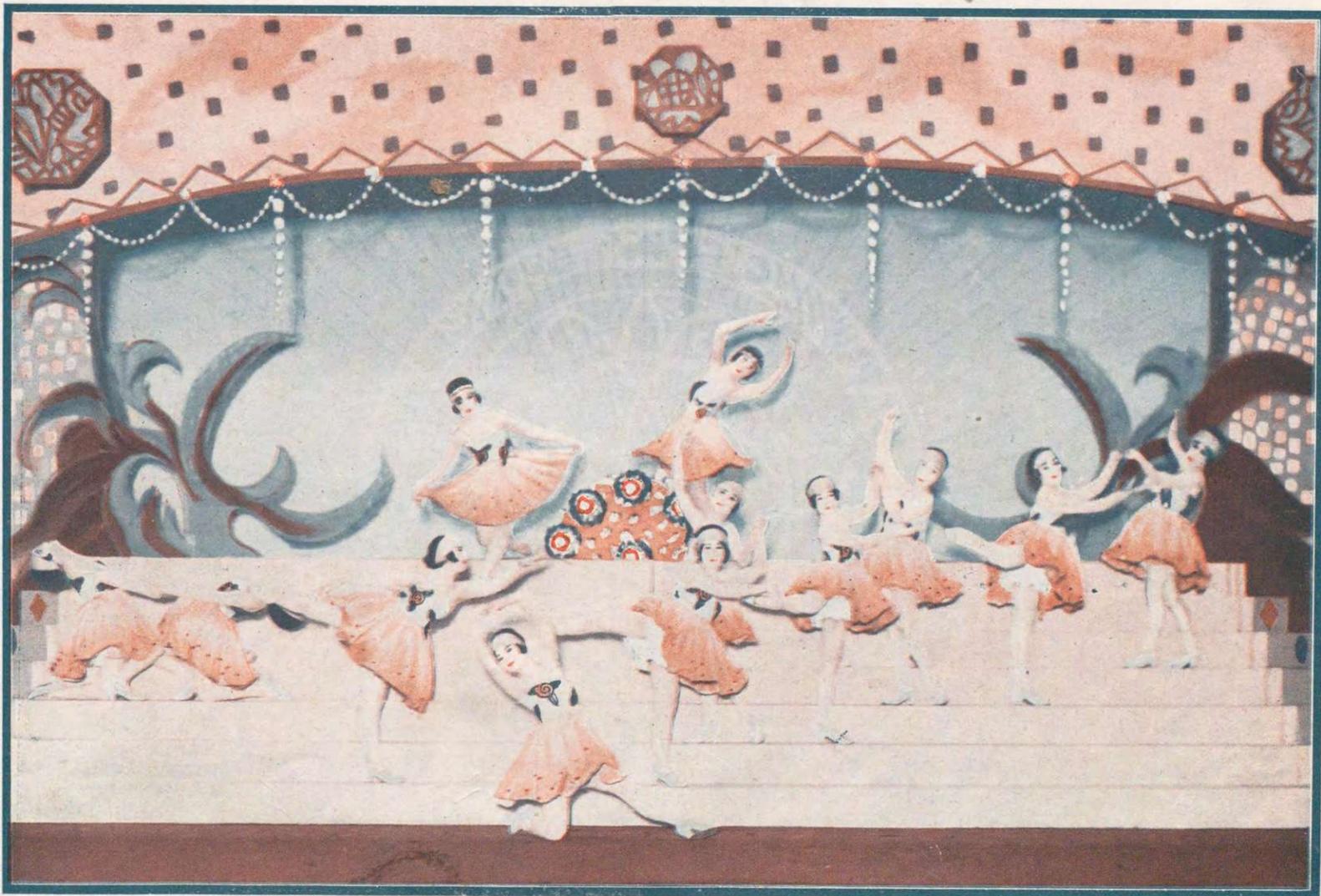
A nocturne of the rebuilt  
Bridge of Ryugasaki.

兩國橋と云へば、すぐに櫓太鼓と花火を想ひ出す。毎年一月と五月にひらかれる大角力の櫓太鼓や、玉や鍵の  
歌聲緩やかな大川の流れにこだます——のは昔の夢、今では、清洲、永代の如くモダン橋でこそなけれ、鉄筋のア  
ーチが空に聳えて、力強い新東京の一風景を表はしてゐる、寫眞は兩國橋の夜景。



The Asakusa q  
Kuramae bridge, be  
bashi bridge.

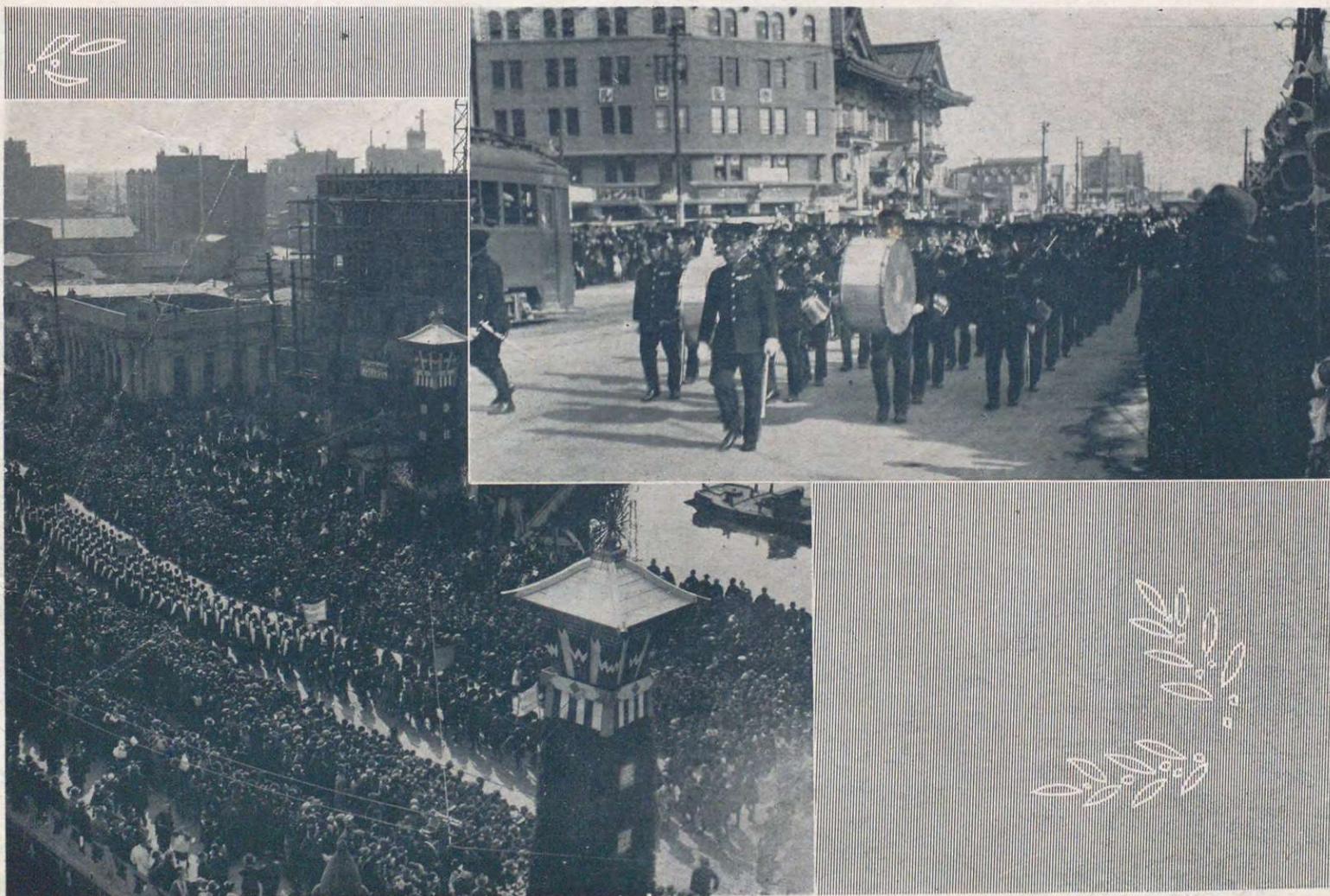
浅草松竹座のレビューダンス



A Review stage of the Shōchikuza Theatre, at Asakusa.

モンパリー、ダンスパリー等と云ふレビュー映画がフランスから多く輸入されたのを、日本も一つ實物をお目にか  
け様と云ふので、近頃は何處の映画館でも十七八から廿位のきれいな娘さんが半裸體で小手をかしげて映画を通じ  
てのパリー仕込みのダンスを踊る。寫眞は浅草松竹座のレビューダンス。

復興祝賀の陸軍軍樂隊大行進



街頭清掃市民公德運動隊の示威行列。

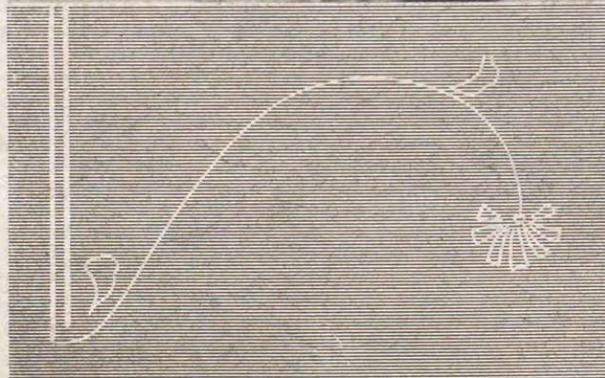
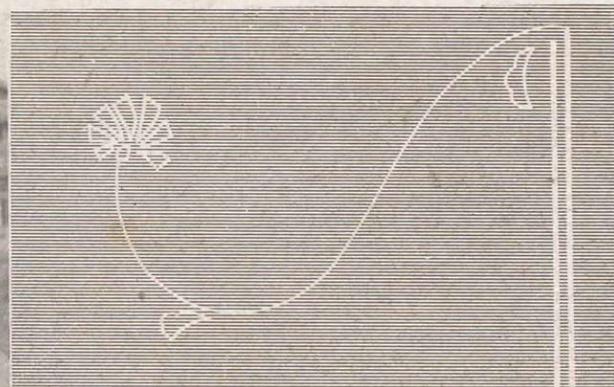


- A Review stage  
chikuza Theatr, a

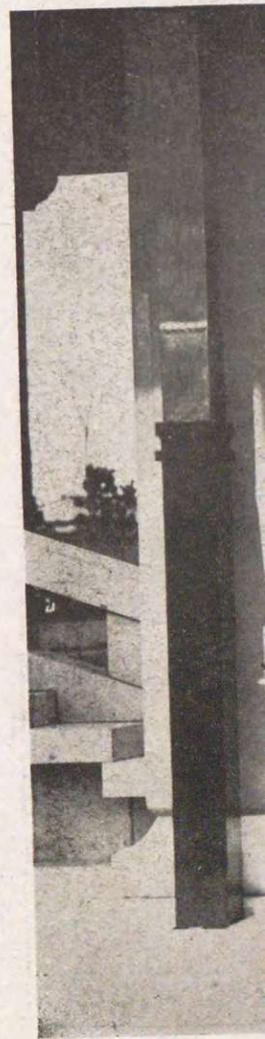
ろ  
聖上陛下震災記念堂を弔はせ給ふ



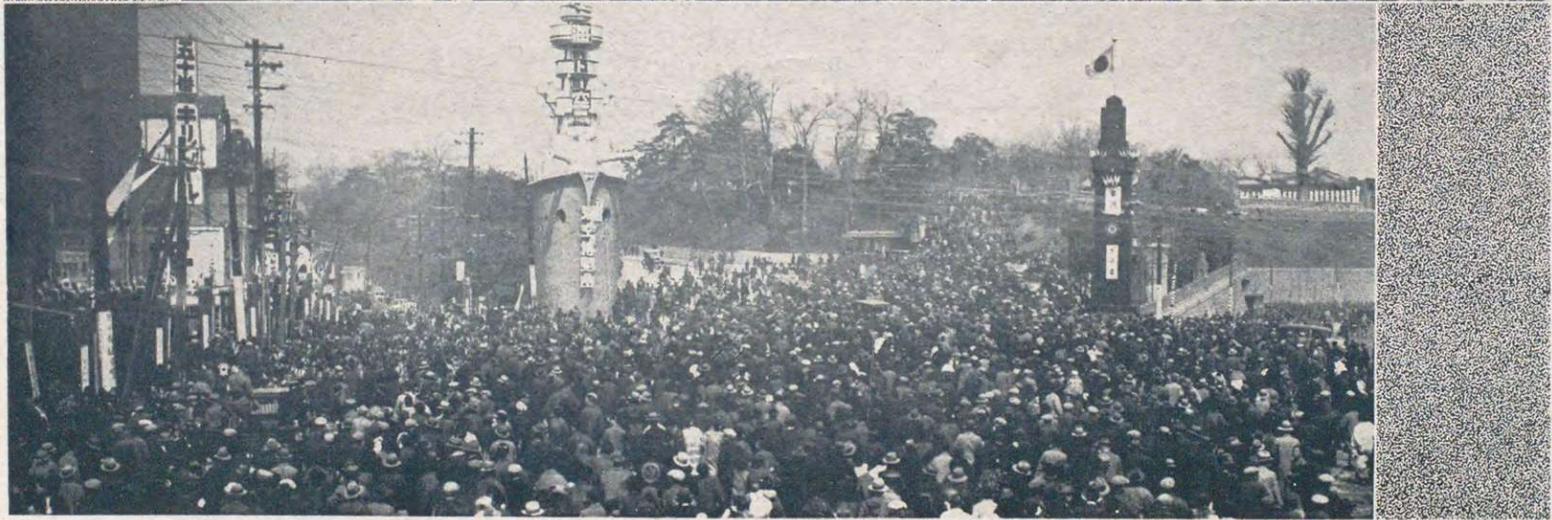
聖上陛下九段田安門内から御展望・隅田公園着御玉歩を墨堤の遊歩道へと進ませらるゝところ



御説明は中川復興局長官奉仕



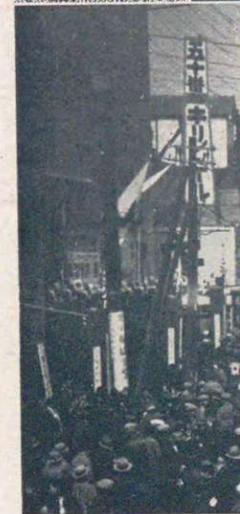
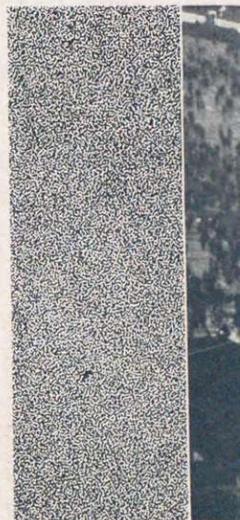
馬場先門前歡喜の群衆(上) 上野公園前の人波(下)



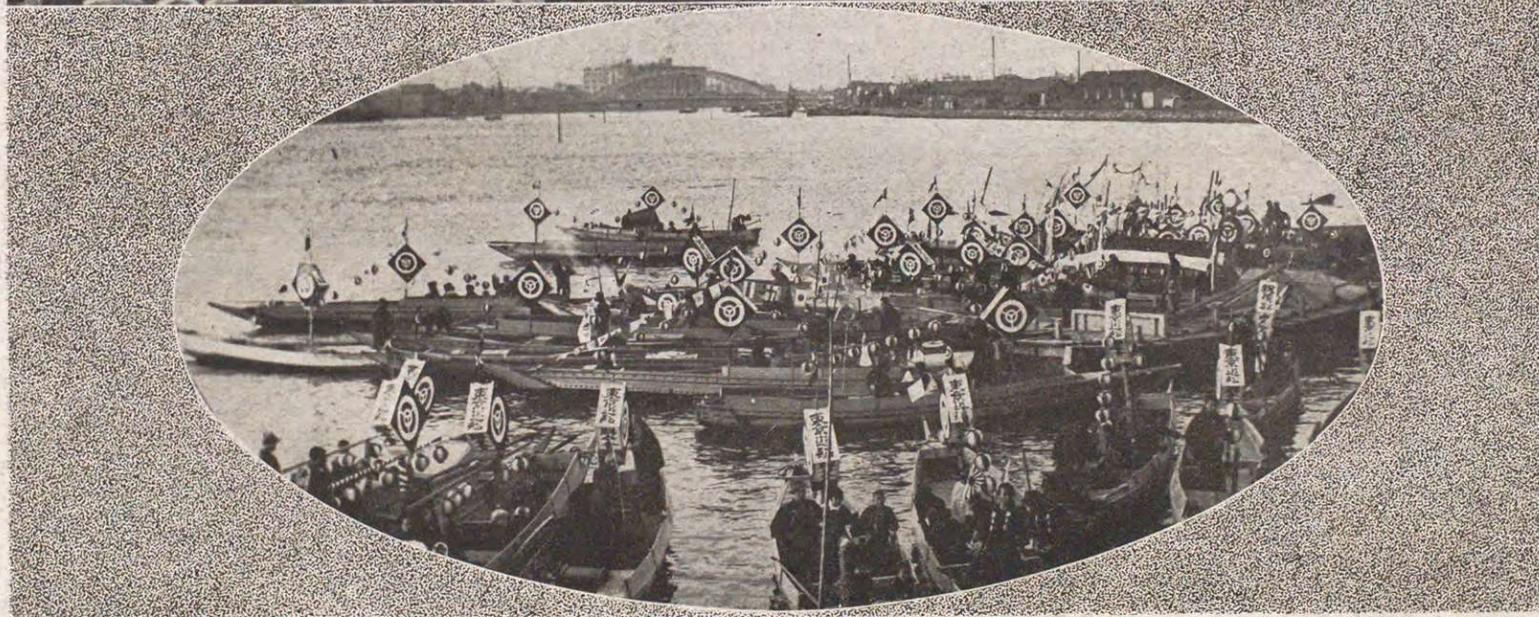
花電車を練り歩く全市の甦生



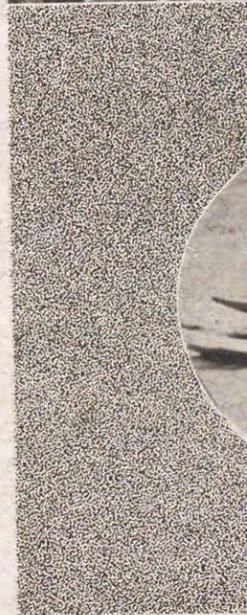
奉祝花電車は復興に相應しい「音楽車、聖壽萬歳、天の岩戸、光輝、花咲く春、復活、復興節」の七臺で目覺ばかり華やかなもの、それが七臺列んで市内を行進する様は頗る美觀である。



假裝行列と隅田川遊船の萬燈行列



珍趣向を凝らした廣告祭の假裝行列

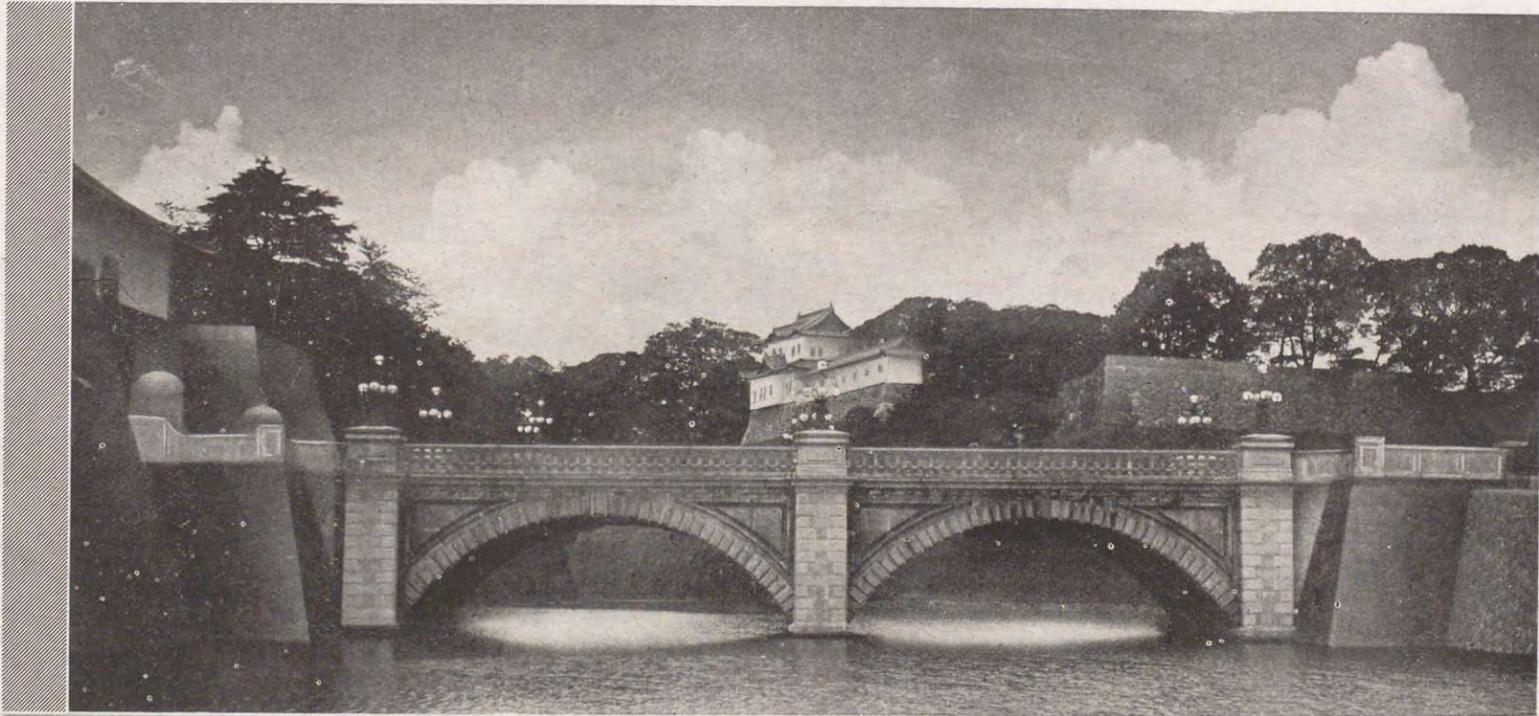


宮城前奉祝門のイルミネーションと東京市聯合青年團の提燈行列



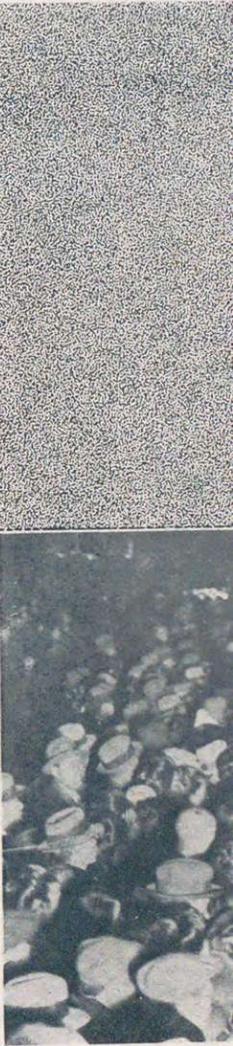
出来た、此の中央  
神々しい姿で、又

松 影 清 き 二 重 橋

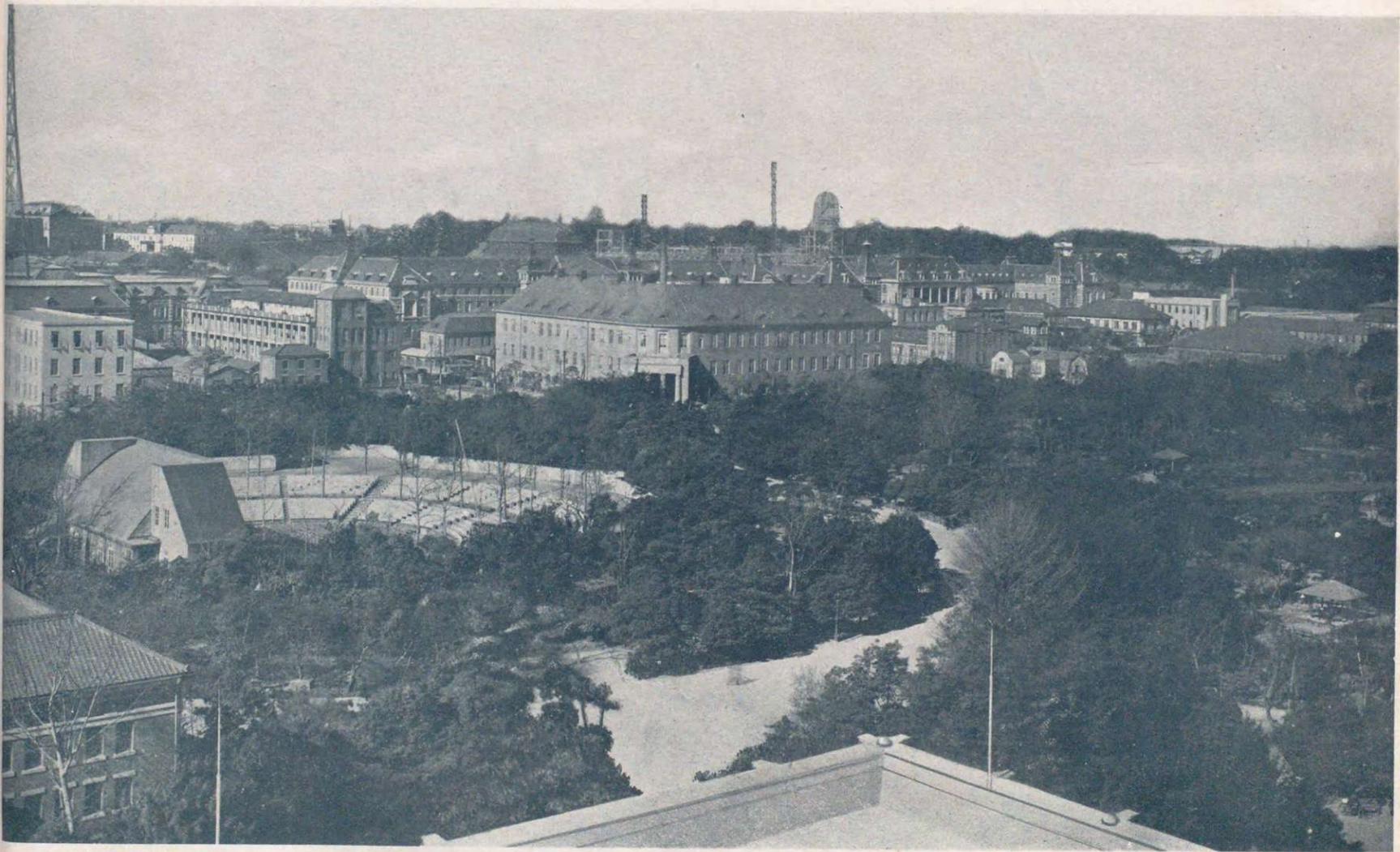
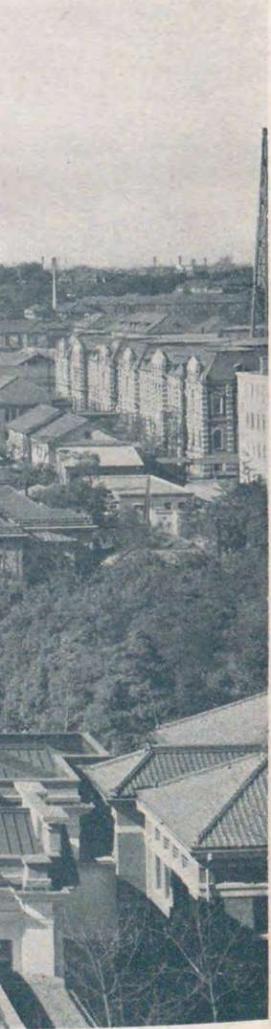


*upper:* The Double Bridge in front of the Imperial Palace.  
*under:* The bronze statue of Nankō, the great loyalist.

震災の東京は復興した。ビルディングに橋梁に、遺憾なく新しい力の近代美を表現することが出来た、此の中央に方って尊厳なる宮城は、金剛無缺の我が國體が萬古不易である如く、嚴として明治大帝以來、神々しい姿で、又懐しくもわが市民の頭上に聳えてゐる。寫眞(上圖)は宮城二重橋。(下圖)は大楠公の銅像。



れる霞ヶ關一帯の官衙街



この全景は「お役所の東京」を一眸の裡に収めたものである。復興の東京は中央官廳を霞ヶ關一帯の地域に纏める計畫で着々と建築工事は進んでゐる。

寫眞右頁 前方が日比谷公園の一部で新音樂堂が見える。中央の建物は東京區裁判所で、その背後に司法省、司法大臣官邸、大審院、控訴院、地方裁判所と検事局があり、右端は參謀本部から三宅坂、こゝに陸軍省、櫻田門外の警視廳建築場がある。

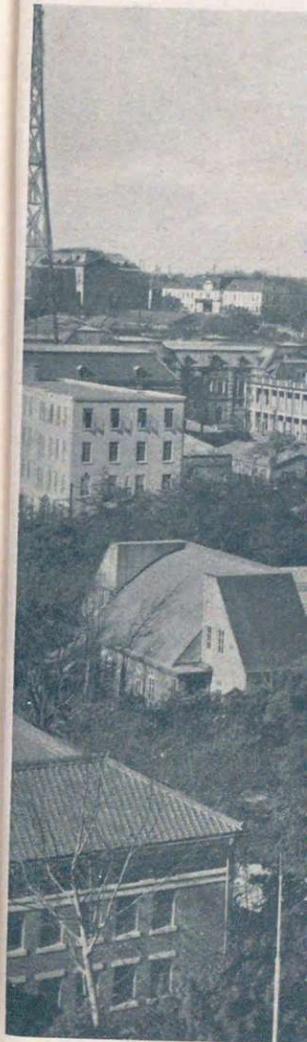
右頁に連つて左頁を眺めると、前方右端が東京日比谷圖書館、中央の道路を中心として右に聳える鐵塔が海軍省の大アンテナで、その下に海軍省、貴衆兩院議長官舎があり、中央の大建築が新議事堂である。海軍省の前側に外務省がある。道路の左側は現在の貴衆兩議院である。

日本の政治はこゝから生



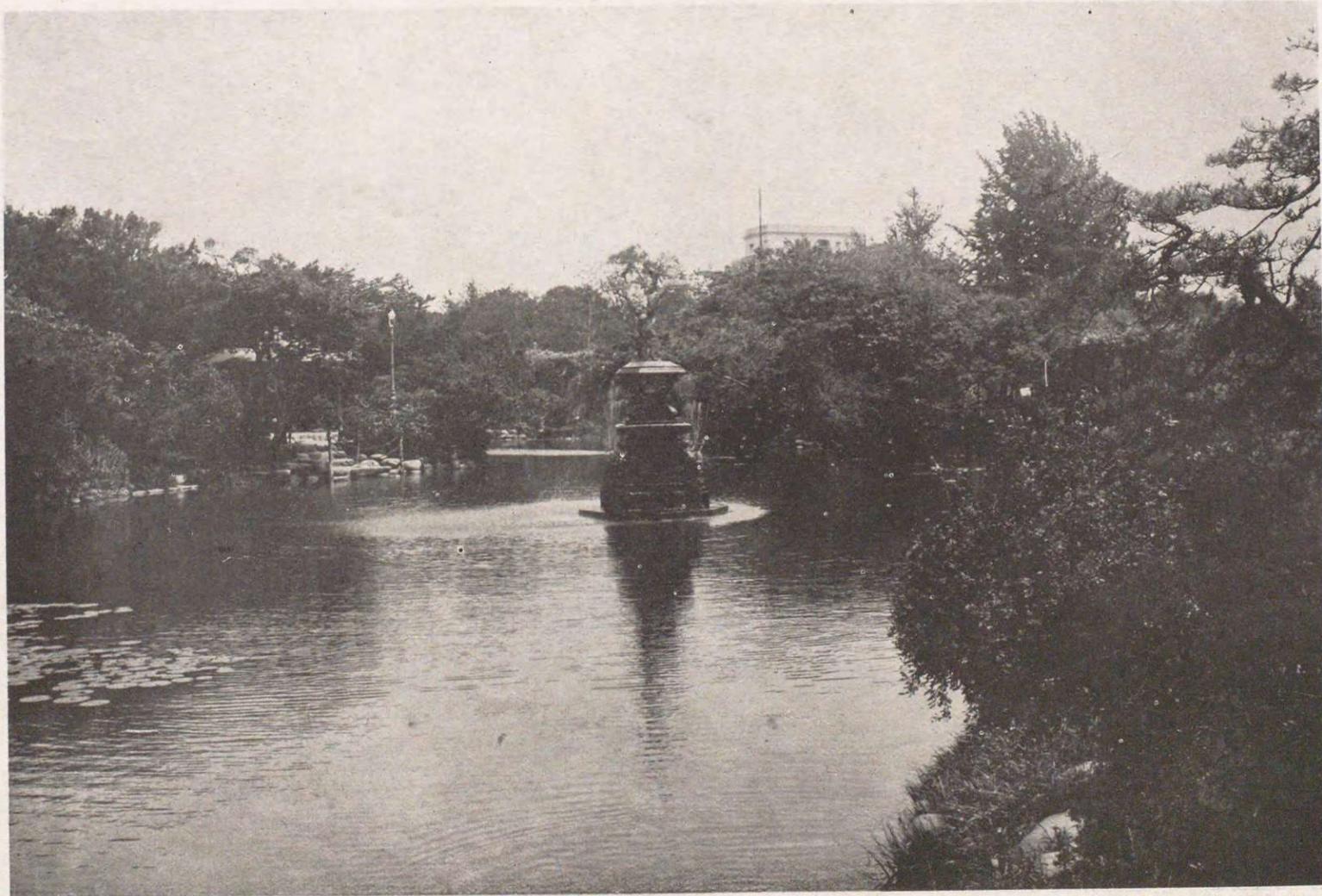
The many Government Office's in the tract of Kasumigaseki. *right page:* The Hibiya musical hall and the Court houses. *left page: upper-right,* The new Houses of the Diet under construction and the antenna pole of the Naval Department; *under-right,* The Hibiya Library. *left word.* The Houses of the Diet.

れる霞ヶ



この全景は「お役所の」  
寫眞右頁 前方が日比谷  
があり、右端は参謀本部が  
右頁に連つて左頁を眺め  
あり、中央の大建築が新議

春秋の花祭りに、近代的庭園美に新舊混濁の日比谷公園



The crane's fountain in Hibiya Park, one of the four large parks in Tokyo.

日比谷公園は昔から上野、芝、浅草等と共に東京四大公園のうちに数へられてゐた。併し今では各々別々な發展をとげたが、中でも近代都市の庭園美を發揮してゐるものは日比谷公園であらう。丸の内の會社員の野球庭球等、近代スポーツの縮圖を見得べく、春は花至り、秋は菊花の展覧に、さながらの日比谷公園を表す。寫眞は公園の中央にあるおなじみの鶴の噴水。

廣場の正面は日比  
等、御濠の土手を

日比谷から丸の内を望む



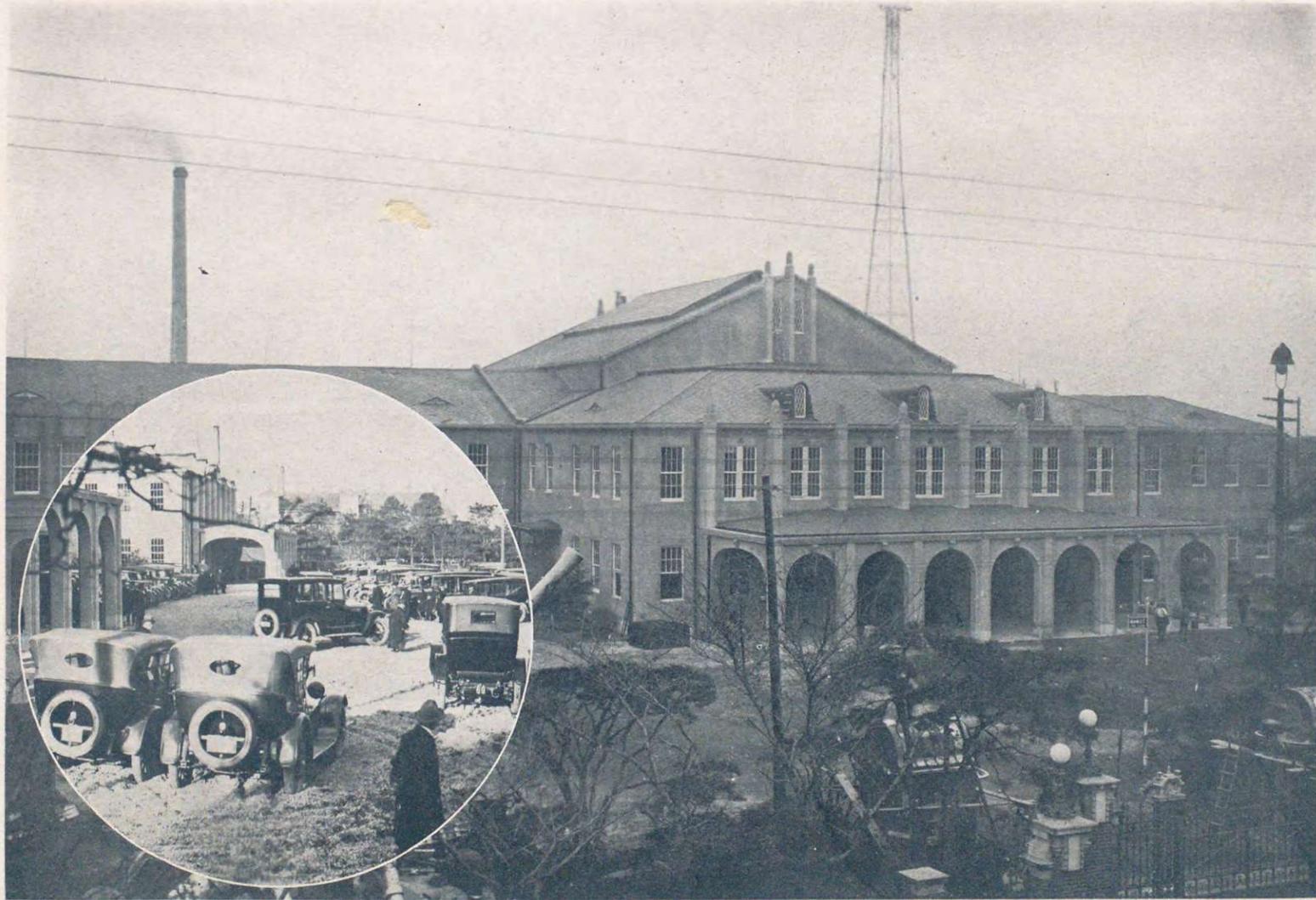
A distant view of Marunouchi from Hibiya Park.

日比谷公園の一角にたてられた東京市公會堂から日比谷、丸ノ内方面をみた所、近景の中央の廣場の正面は日比谷公園舊音樂堂、右方に密集する大建築は昭和ビル、時事新報社、郵船ビル、海上ビル、丸ビル等、御蔭の土手を越してみえるパラツクは警視廳假舎。



The crane's foot in Hibiya Park, one of the parks in Tōkyō.

當分はバラックで我慢する現議事堂

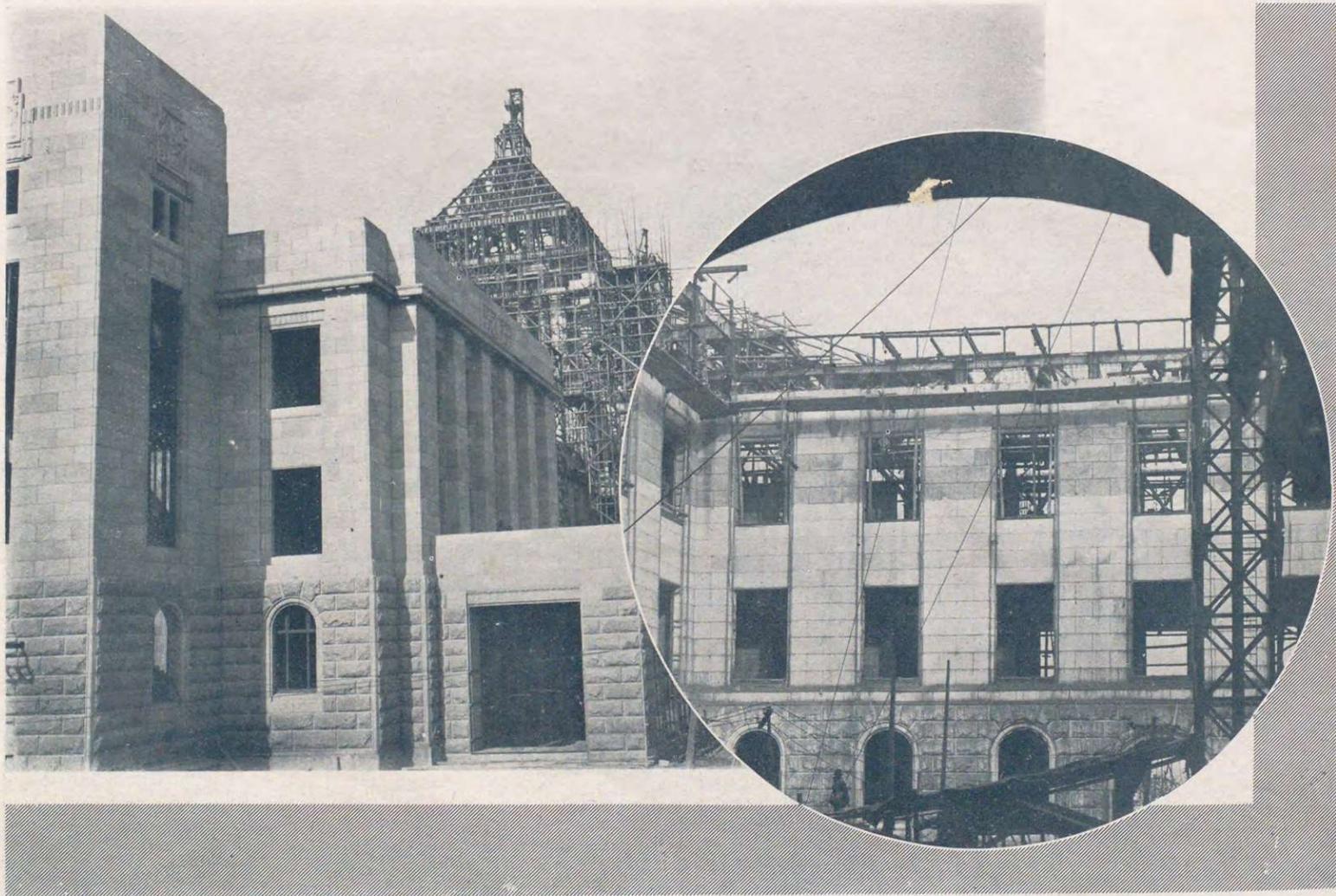


The Houses of the Diet and  
the convoked Imperial Diet.

麹町内幸町の一角を占めてゐる、世にこれを日比谷座と云ふ。立廻りと陰謀専門の大劇場である……等と云つてはいけぬ。神聖なる國家の政事を討議する我が國會議事堂はこれだ。數年前火災の厄に逢ひバラックのままで、毎年一回の議會は今でも此處で開かれる。「馬鹿野郎」呼はりや、怪しげな疑獄事件等を起さない様にさへすれば、バラックでもなんでも立派な國會議事堂たるを失はないのだが……。

に建造中の國會議  
、外觀、内部とも  
々使用する事が出

世界に誇る建築中の新議事堂



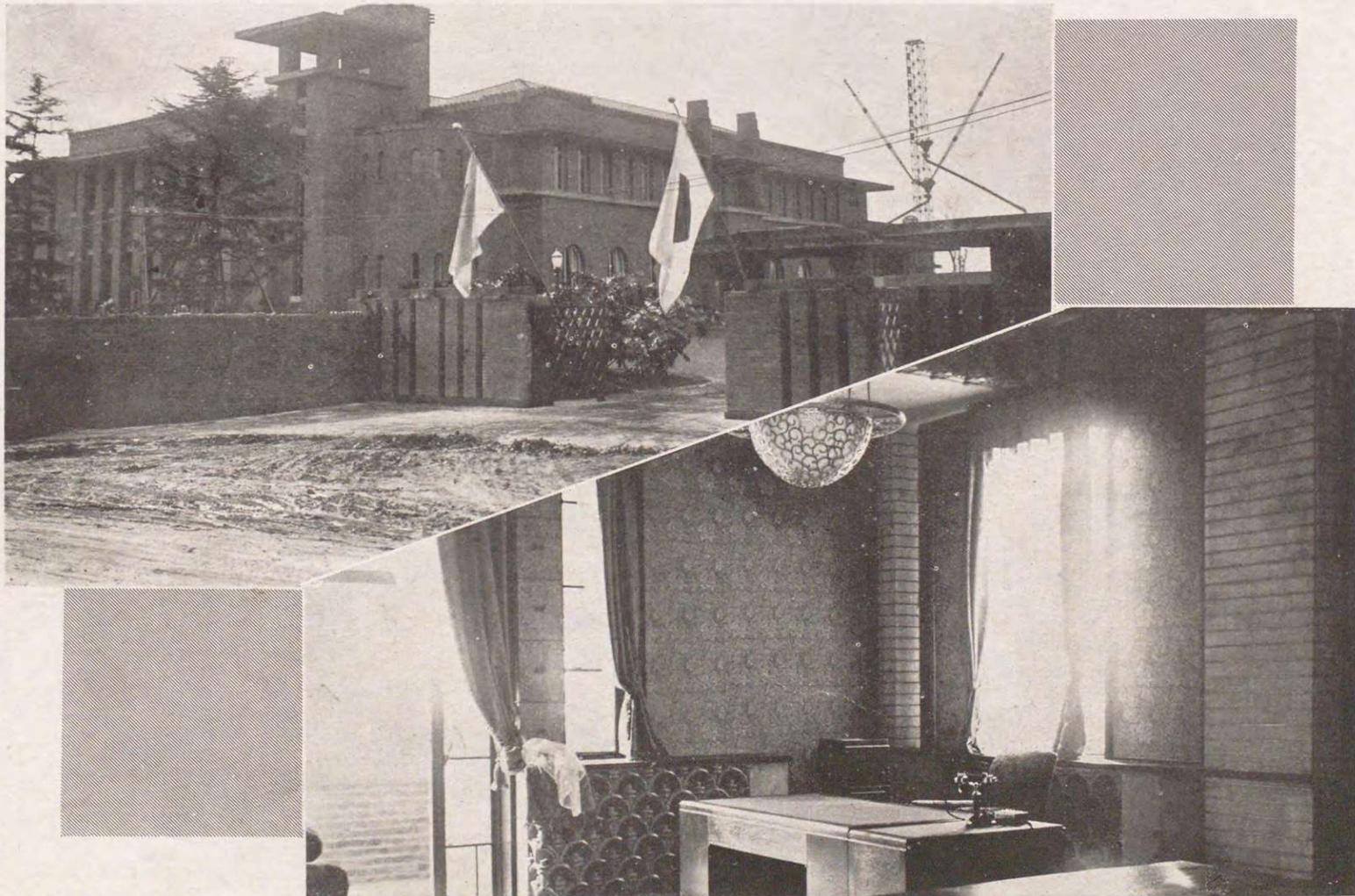
The new Houses of the Diet  
under construction.

「神聖なる國政を議する議會がバラックではどもならん...」と云ふので今や盛んに麹町永田町に建造中の國會議事堂がこれ。何しろ建築費は三千萬圓、鐵骨と御影石とコンクリートで固めたガツリした造り、外觀、内部ともに壯麗な設計で天晴れ帝國議事堂として世界に誇るべき建物である。昭和六年暮の議會からは愈々使用する事が出来ると云ふが、容れ物ばかりよくても中味の議員さん等がさてどんなものか...?



The Houses of  
the convoked Imp

モダン建築の首相官邸

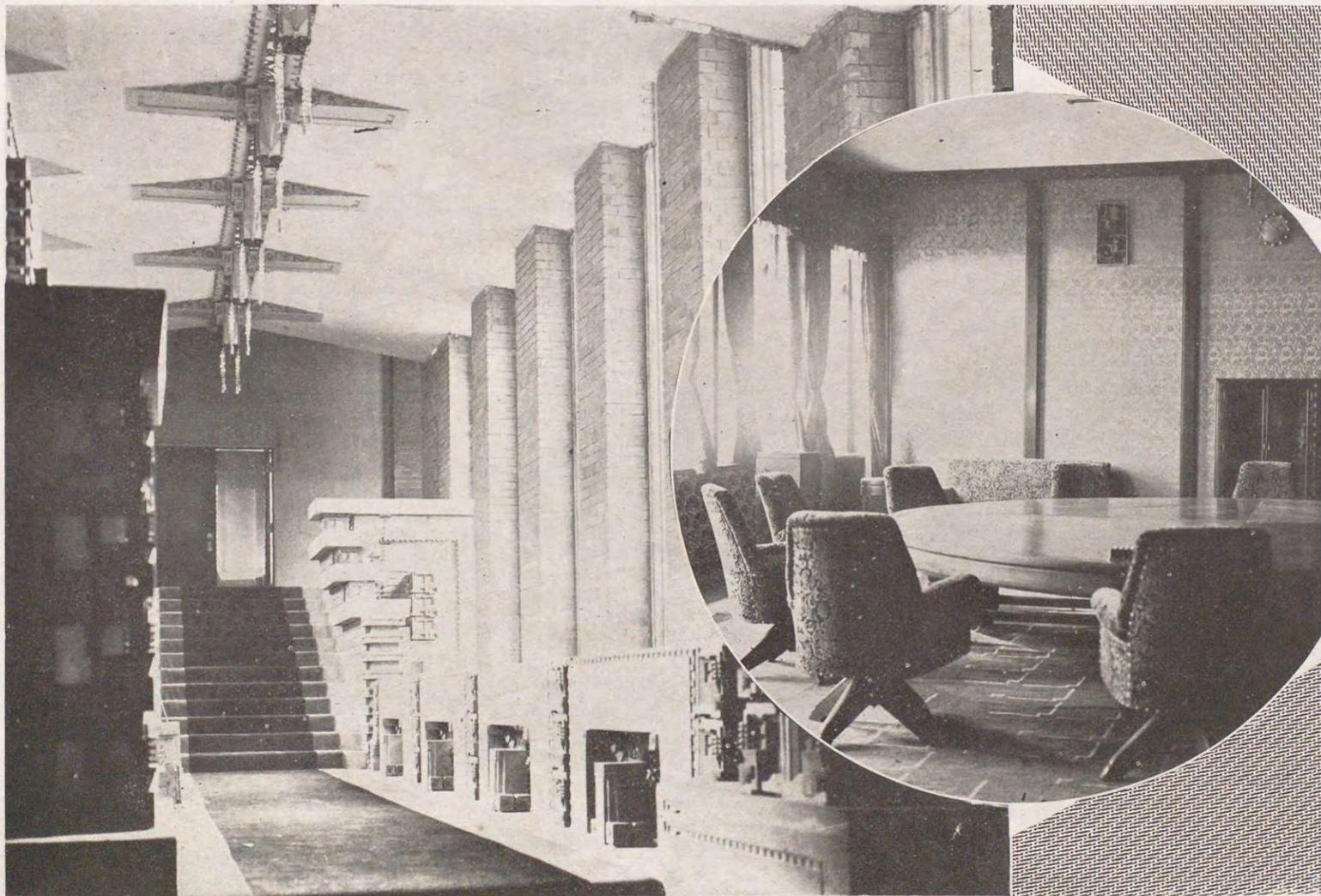


upper: The official residence of the Prime minister.  
 under: The Prime minister's room in the residence.

オラが首相で名を賣つた故田中義一男が内閣總理大臣たりし頃、前の首相官邸がきたなくなつたと云ふので麹町永田町に建てたのがこのモダン官邸だ。外觀内部共に瀟洒たるモダン建築、竣成したのが昭和三年の暮、しばらくは「オラが首相」がいゝ氣持でふんぞつてゐたが、その内に失政續出で到頭田中内閣潰滅、今では取つて代つたライオン首相がこの官邸に落付いてゐる。(上圖がモダン官邸の外觀、下は總理大臣室の一部。)

七處へ押しかける。

モダン建築の首相官邸



The Premier's official residence: *left*, the hall; *right*, the Cabinet council-chamber.

(左圖)が官邸の玄関大ホール、主は變つたが相手は變らぬ訪問客、毎日の様に列をなして此處へ押しかける。  
 (右圖)田中首相が「會議はすべて圓滿がエ、ソウ」とばかり大に好んだ閣議室の圓卓。



*upper*: The office of the Prime minister.  
*under*: The Prime minister's room in the residence.

日比谷内幸町の官衙街



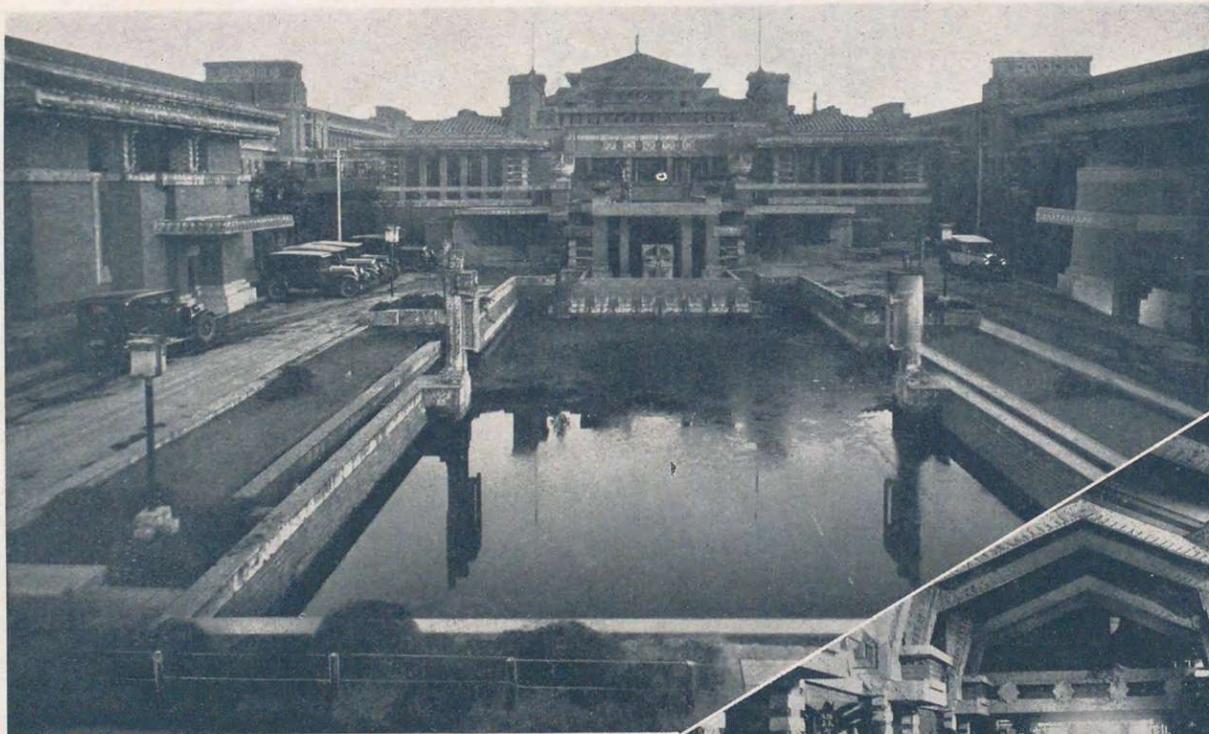
The government offices quarters in the City, from Uchisaiwaichō to Kasumigaseki.

麴町の永田町から此の内幸町一帯は東京の官衙街。貴衆兩議院をはじめ、各官省が並びたつてゐる。寫眞の前方に見える高層な建物は新に出来た東京市公會堂、天を貫いて三本聳立する大アンテナは海軍省のアンテナ、正面の丸いドームは頭丈取壊しに決定した警視廳である。



萬物の帝國ホテル、米人ライト氏の設に酔ふことが出来

モダン建築の先驅帝國ホテル



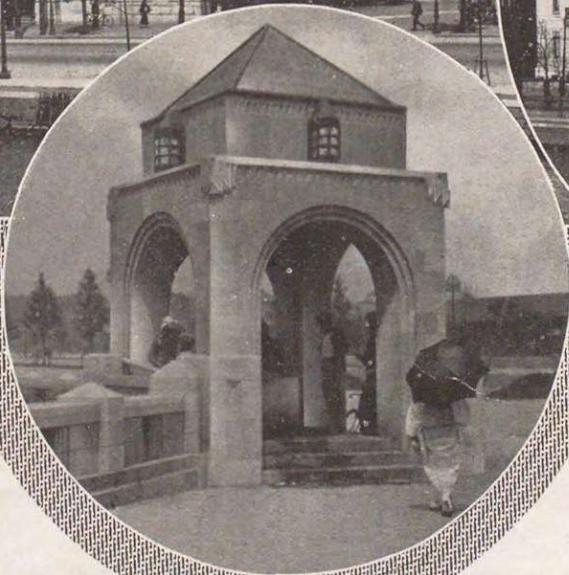
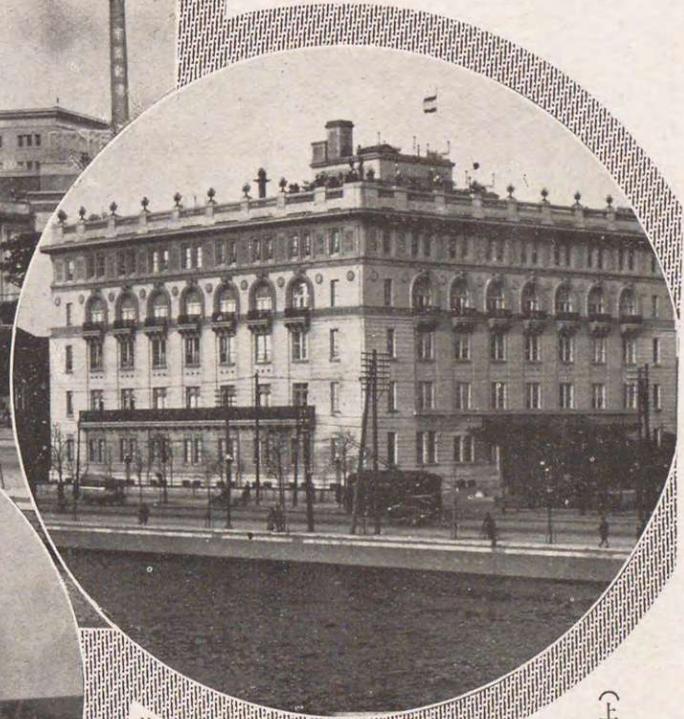
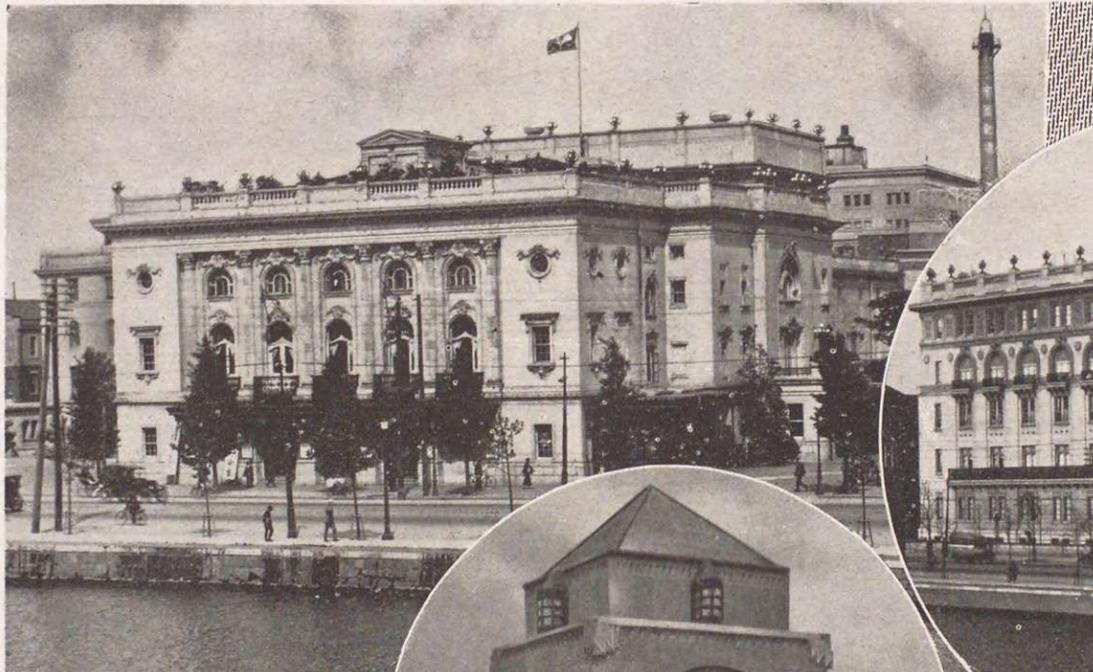
The Imperial Hotel in a modern style: its porch and interior.

東京市公會堂を見て日比谷公園の正門を出ると、直ぐ前に異様な建築が目に入る。これが名物の帝國ホテル、外人客相手の唯一の代表的ホテルとしては外観は壯麗ではないが、モダン建築の先驅を爲した米人ライト氏の設計で、兎に角洋風に東洋趣味を交へたところが面白い。十五圓も奮發すれば一泊してホテル氣分に酔ふことが出来る。(上圖は正面玄関、下圖はその内部)



The government of in the City, from U to Kasumigaseki.

帝 劇 と 東 京 會 館



left: The Imperial Theatre.

right: The Tōkyō Hall.

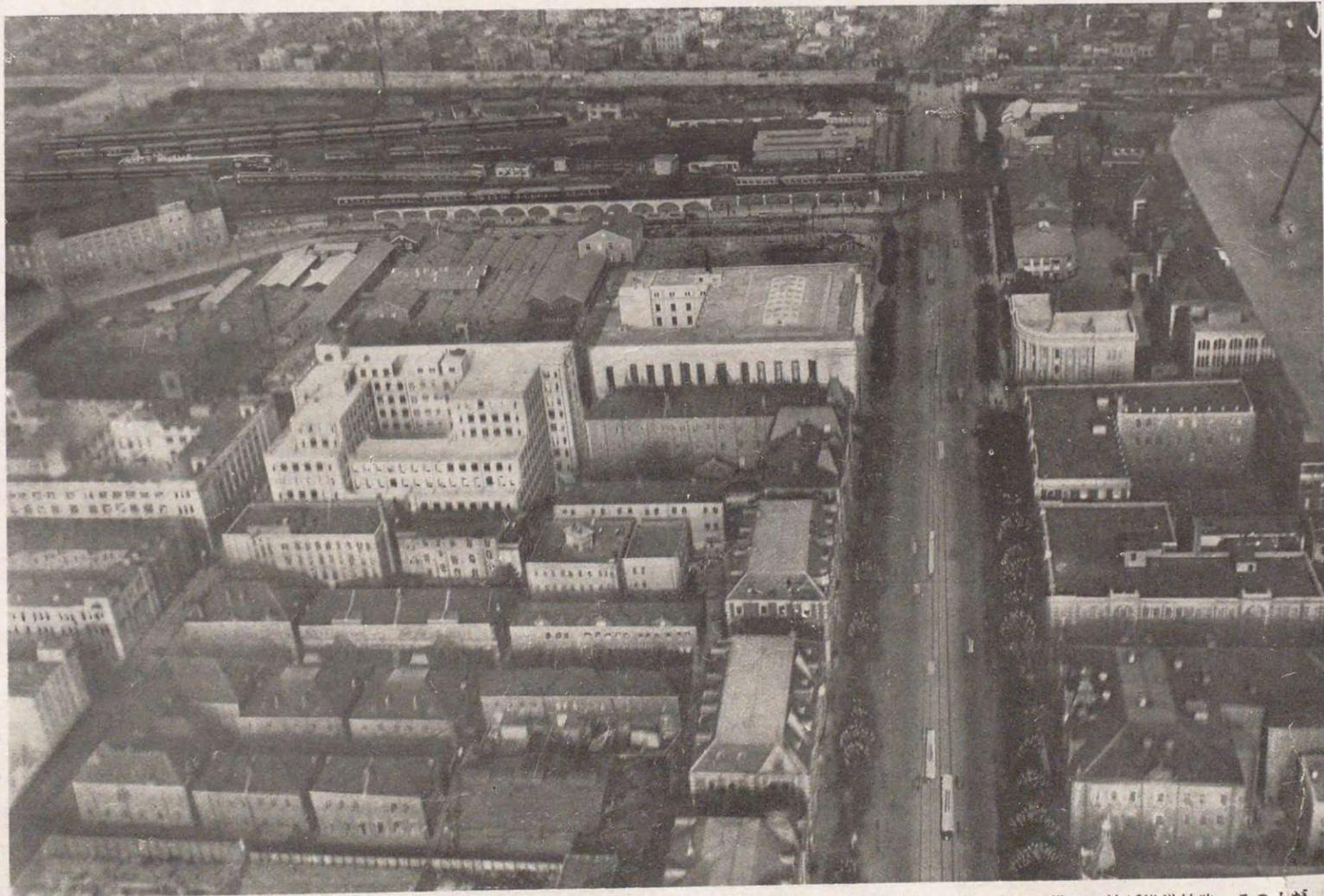
under: The drinking fountain at Babasaki.

(上圖) は丸の内帝國劇場、歌舞伎座に次ぐ東京の大劇場である。歌舞伎劇に、女優劇に又外國の音楽家の演奏に、好劇家を喜ばせてある。

(上圖)丸の内東京會館、貴族階級の集會場として又一般結婚式の披露宴會場等に使はれる白壁の上品な建物である。

(下圖)馬場先門にあるハイカラな水飲場。

東京市役所の上空から見た東京驛附近



An aeroview from the City Office to Tōkyō Station.

この寫眞は東京市役所の上空から東京驛附近、眞下が東京市役所、寫眞を左右に横切る線が鐵道線路、その上が東京驛引込線、その右は鍛冶橋、下左方は丸の内のビルディング街である。



left: The Imper Theatre.  
right: The Tōkyō  
under: The drinkin at Babasak

表 玄 關 東 京 驛



の表玄關、東京  
の寫眞を説明し  
東京驛が吞吐す  
して極めて丁寧

驛前の光景です。草茫々の三菱ヶ原に、故辰野金吾博士の設計で建築されたのが大正三年、爾來僅か十有餘年の間に三菱ヶ原は見る見るうちに大建築が揃  
ようなら、左手は東京驛、その前に群つてゐるのが圓タク、右の角が三菱の經營する丸の内ビルディング、この中で五千近い男女が、月末のサラリーに向  
る人員毎日十二萬人、汽車客、省線電車で通勤のサラリーマンなど。その人の波を繼つて電車、自動車縦横に走る。こゝから三越の赤自動車、白木屋の  
に各々の店まで乗せて行つてくれる。



left page, Tōkyō Station, the entrance of the Capital, and taxicabs crowded in rows.  
 right page—upper-right, the Marunouchi Building and other Houses: upper-left, the  
 Central Post-office under construction: under, the autobus-stop.

日本の帝都、大東京の表玄関、東京  
 比してしまつた。先づこの寫眞を説明し  
 つて毎日突進してゐる。東京驛が吞吐す  
 白自動車、無料で、そして極めて丁寧

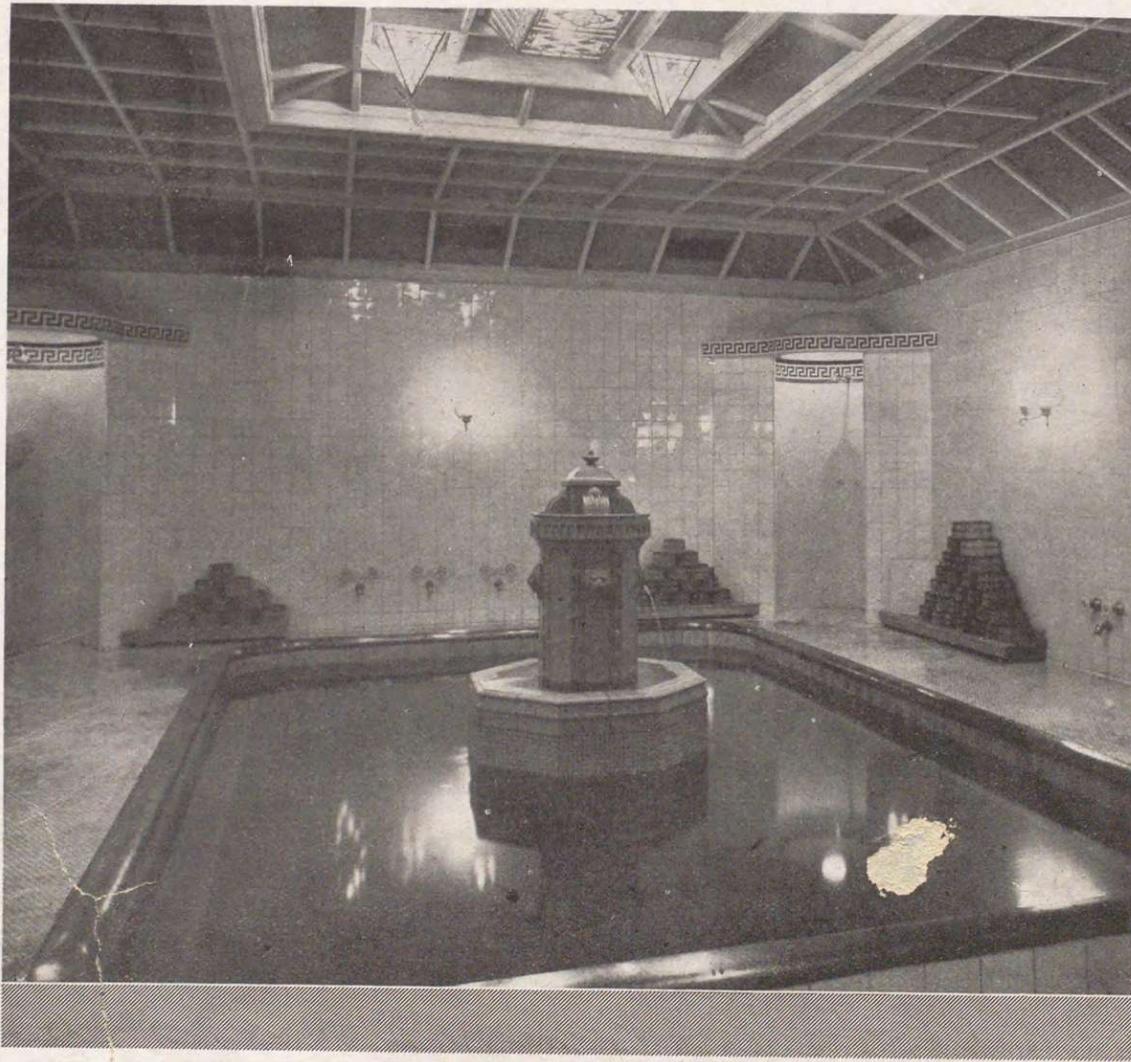


驛前の光景です。草  
 ようなら、左手は東  
 る人員毎日十二萬人  
 に各々の店まで乗せ

東 京 驛 雜 觀



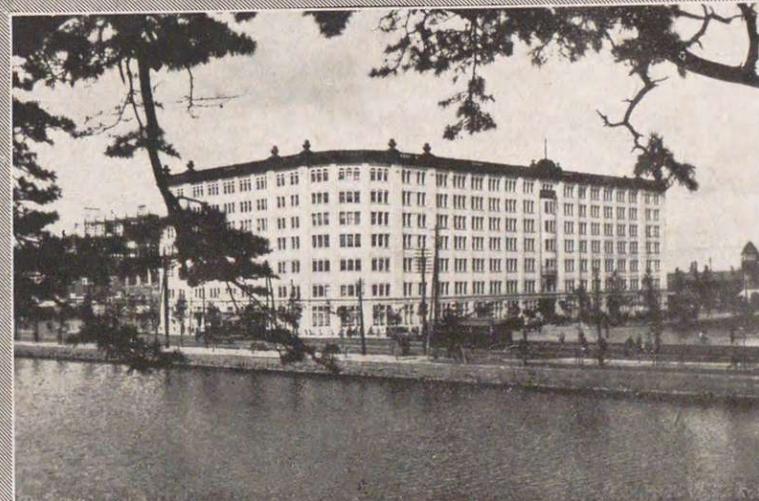
と、と十一百六十三  
海上ビル。(下左)



The interior of Tōkyō Station:  
right, the spring bath; left, the  
ticket slot-machine.

左、噴泉浴場。東京驛に降りた旅客の垢と、埃を洗ふべく、地下室には全部タイル張りの壯麗な噴泉浴場がある。一浴代金三十錢は高價といふ勿れ、これを經營するには百萬圓の資金が注ぎこまれてゐるといふ。右、自動切符販賣臺、金十錢を穴へ投げこむと入場券が飛び出す仕掛け、これなら便利至極です、追々均一區間の乗車券發賣用に全國の驛に設けられるといふ。

丸の内の代表的ビルディング



upper—right: The Marunouchi Building. left: The boulevard in front of Tōkyō Station. under—right: The Kaijō Building. left: The Yūsen Building.

(上右)は、丸の内ビルディング、敷地二千八百二十一坪、このビルの通勤者約四千名、事務所数三百六十一、とにかく一小市街を呈してゐる。(上左)丸の内の行幸道路、右は郵船ビル、左は海上ビル。(下右)は海上ビル。(下左)は郵船ビル。



The interior of Tōkyō Station, right, the spring of ticket slot-machine.

銀座の中心尾張町



Owari-chō, the centre of Ginza Street.

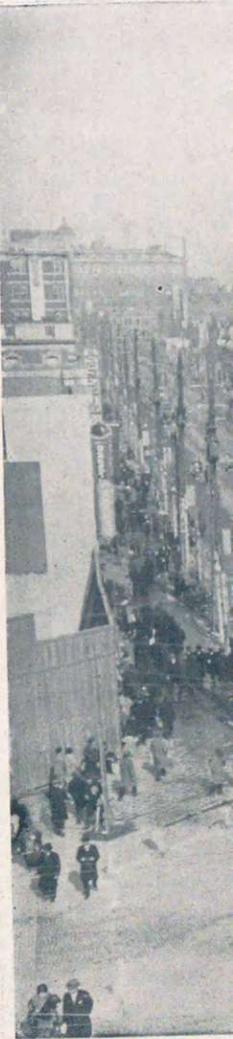
銀座通りの中心——新橋方面から、日比谷から、築地からと、集注する人の波と電車、自動車の列がこの一点でガヤガヤと近代都會の交響行進曲の最高潮を奏するのだから、賑やかといふか八釜しいといふか、兎に角銀座尾張町を知らなければ東京の中心を語ることは出来ない。寫眞は晝間の撮影だが、夜間にその眞面目を發揮する。

銀座より京橋へ



A view of Kyōbashi quarters  
from Ginza Street,

東京の心臓たる銀座街から京橋方面を望んだ光景。



Owari-cho, the  
Street.

不景氣知らずのカフェー商賣



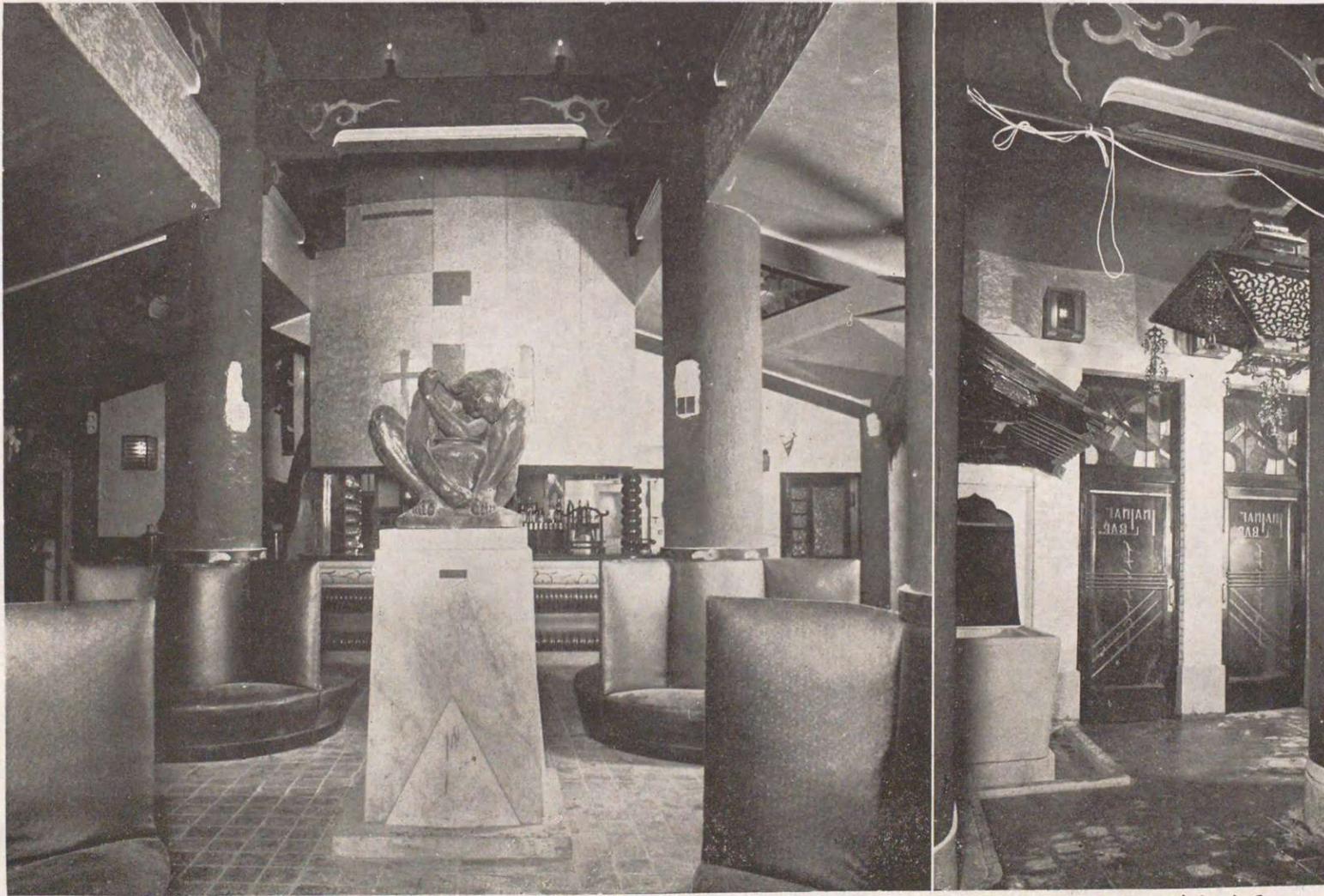
銀座として、  
毎晩流れ込む人  
でいっぱい。中  
に八釜しか  
(左)に内部。



The two large Cafés at Ginza:  
right, "Tiger"; left, "Black  
Cat."

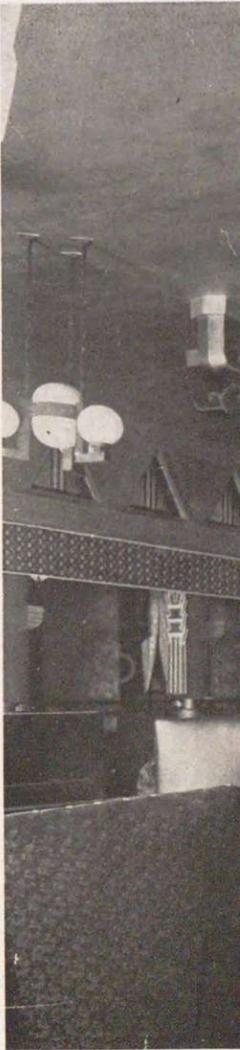
東京を語るものはカフェーを知らねばならぬ。況んや 1930 年の新東京を語らんとするものに於てかや……であらう。彼の女給諸嬢が「泣いて笑つてなんか……」とやるせない、悶々の情を歌つてみせたり「チップがリヤンゴジやたまらない……」と筈の大見得を切る所に近代人の性格を、生活……、或は又苦悶……? を表してあるのぢやないのだろうか。(右圓内)は銀座カフェータイガーの内部。(左)は同じくクロネコの二階、お寺の真似をした様な獵奇趣味に御注意。

都會人の近代生活を物語るカフェー



Café Black Cat: *left*, The interior; *right*, The entry.

東京にあるカフェーの數と云つたら、大小とりまぜてどれだけあるか一寸見當がつかない。先づ銀座丈として、ライオン、タイガー、クロネコ、ゴンドラ……等と大約を紹介する丈でも大分手間がとれる。そこに毎晩流れ込む人の數はまた大變だらう。今はもう待合遊をする時ぢやない、カフェーが立派な遊興の場所になつてしまつた。中産乃至無産階級の人々にとっては猶更さうである。女給爭議が起りさうになつたり、警視廳の風紀取締が八釜しかつたりする丈にカフェーには不景氣がないと云ふ。(右)はクロネコ(一階イナイナイバーの部)。(左)は内部。



The two large  
*right*, "Tiger";  
Cat."

新橋驛より有楽町方面



Yūaku-chō quarters, viewed from Shimbashi Station.

品川を過ぎれば東京だが、東京の核心に觸れるのは新橋驛を過ぎてからである。この寫眞のあたり、舊外塚に亘つた高架線路の右方は新橋から銀座、新橋藝妓の根據地もこの間近にある。左側は有楽町、内幸町、日比谷方面である。

寄屋橋御門のあつ  
尾張町を経て築

日比谷方面より数寄屋橋を望む



Sukiya bridge, viewed from Hibiya. The left building is the Tōkyō Asahi Shimbun office.

日比谷公園から銀座街へ出ようとすれば、ぜひとも数寄屋橋を渡らなければならない。昔は数寄屋橋御門のあつたところ、今は東京朝日新聞社の近代的建築が橋畔に聳えてある。この街路を真直ぐに進めば銀座尾張町を経て築地方面に至るのである。



Yūroku-chō quarter from Shimbashi Station

銀座街の二大デパート、松屋と松坂屋



The two great Department-stores at Ginza: right, the Matsusakaya; left, the Matsuya.

(右) 銀座の松坂屋、上野の本店と和呼應してなかなかの成績を擧げてゐる。  
 (左) 松屋。銀座の松屋といへば東京デパート界の流行兒である。震災前は神田今川橋で鳴らしたもの、銀座に進出するや勇敢な經營振りが見事に奏功して銀座といへば直ぐに松屋を聯想させるほど重要な存在となつてゐる。

つてゐる。尾張  
 の一往くもの  
 人間の波、男

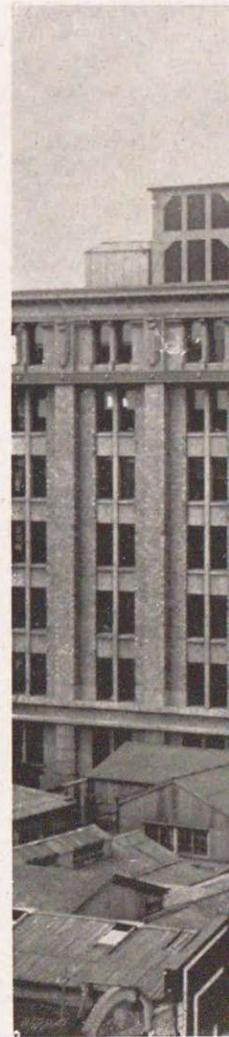
銀座の雑沓

書籍秘伝



The bustling Street of Ginza, extending from Shimbashi to Kyōbashi.

銀座——銀座——これが帝都の心臓で、この心臓からモダーンといふ血汐を盛んに全東京に送つてゐる。尾張町を中心として新橋から京橋までの左右両側、商店にカフェーにバーに、各々装ひを凝して客を待つ——往くものは電車、自動車、オートバイ、爆音警笛、交通整理の進め止れ、で押すな押すなと走り往く。これに人間の波、男と女と、新しいの古いのと、まあ東京の行進曲は奏でられる。



The two great stores at Ginza: tsusakaya; left, the

鹿鳴館から五十年、盛んになつたダンスホール



The "Kokka" dance hall at  
Yotsuya.

ダンスホールの歴史を溯れば随分古い事になる。今ではシラクチャのお婆さんになつてしまつて國文學鼓吹とか  
なんか殊勝らしい事を云つてゐる彼の下田××老女史が、往時豐満なりし肉體に、薄桃色かなにかのドレスを  
まとひ、數多の貴顯紳士を相手に踊り狂つた所が鹿鳴館(今の華族會館)だ。それから春秋五十年、その當時は紳士  
淑女でなければ出來相にもなかつたダンスが、1930年の今日では猫も杓子もダンスだ。ダンスの一つも出來なけ  
ればモダンボーイグループの風下へも置かれぬと云ふ世の中になつてしまつた。(これは、四谷の國華ダンスホール)

處に掲げた人形  
軒の大小ダンス  
たダンサーと腕  
が味へないと云  
ホール氣分に陶

モボ、モガの歡樂郷たるダンスホール



The "Union" dance hall at  
Ningyō-chō.

ダンス流行の世の中だからダンスホールは方々に出来た。東京に於る代表的なものを挙げれば此處に掲げた人形町日鮮ビルのユニオンダンスホール、日本橋千代田ビルのダンスホール、澁谷の喜樂等その他数十軒の大小ダンスホールがある。そこに集るモボ、モガは又數知れない。入場券を買つて中に入る、そして気に入つたダンサーと腕を組んでジャズにつれて踊る事十分、レコードならば一廻り廿錢、これで充分に近代的ジャズ気分が味へないと云ふならば何回でもお望み次第。ソーダ水一杯に疲れた體を休めながら他の人の踊るのを見てダンスホール気分を陶醉するのもよからう。但し、あばずれものゝダンサーにたまされぬ様御用心。



The "Kokka" dance  
Yotsuya.

京 橋 の 交 叉 點



里程は宛に角日本  
ないか、しかし、



The crossing at Kyōbashi;  
right, The First Mutual Building.

日本橋に次ぎ東京を語るものは懐しい京橋の名である。しかし、橋としての京橋は近代の東京では貧弱な存在となつてしまつた。今では京橋といへばこの交叉點のこととなつてしまつた。右手は財界の論客矢野恒太氏の經營する第一相互ビル、地上百二十尺の高塔は新議事堂の出現するまでは東都第一の高さとされてゐる。

お 江 戸 日 本 橋



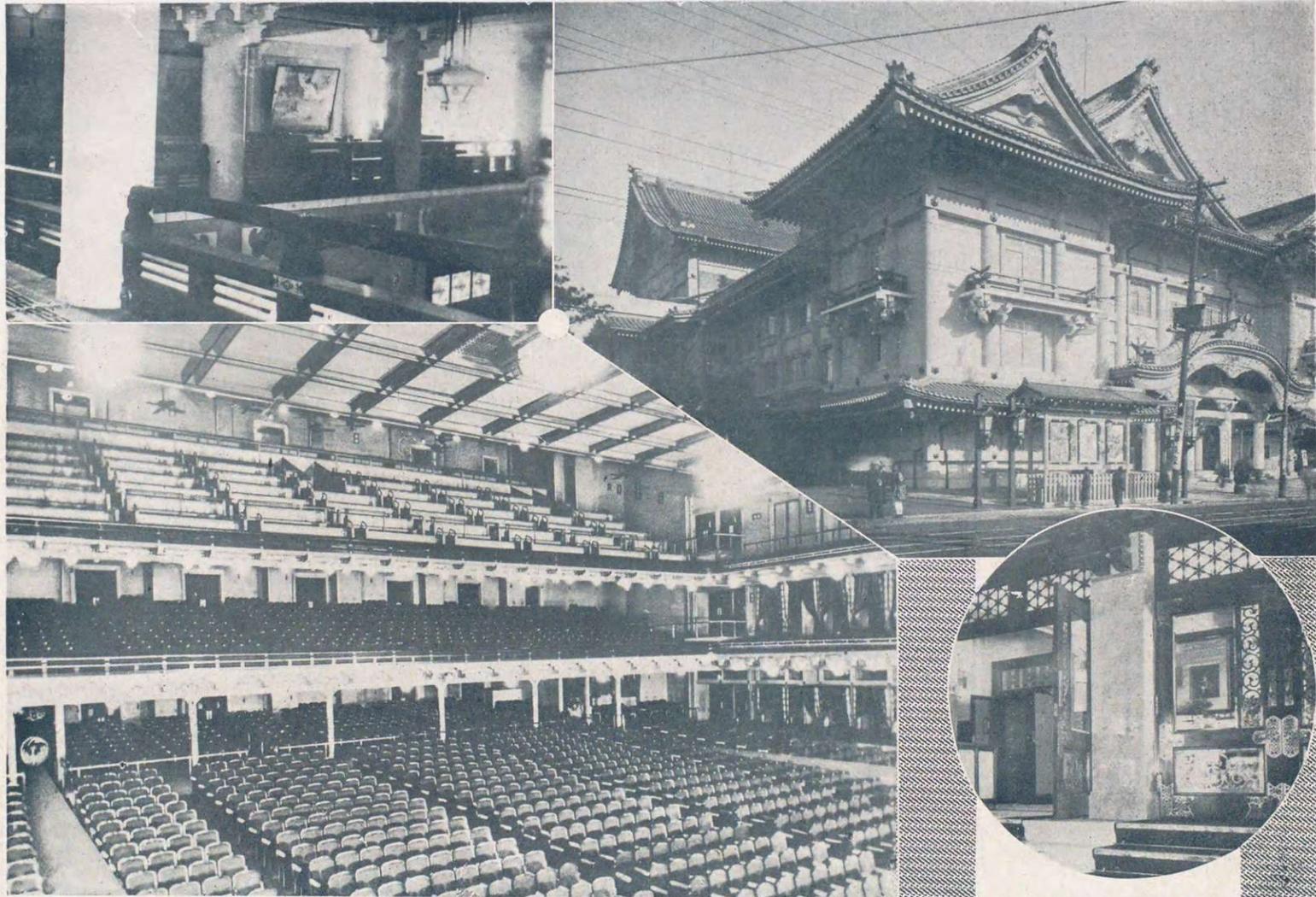
The bridge of Nihonbashi, the ancient starting-point to all directions of Japan.

日本橋の側に里程原標が立つてある位だから、東京の中心は日本橋としたいのだが、現今では里程は兎に角日本橋は東京の中心とはいひ難い。お江戸日本橋時代からの老舗と共に歴史の中でのみ肩を張るのでないか、しかし、何といつても日本橋、三越へ行く前に魚河岸の無き跡の寿司屋ののれんをくぐるも一興であらう。



The crossing at right, The First Mu ing.

東京一の大劇場歌舞伎座

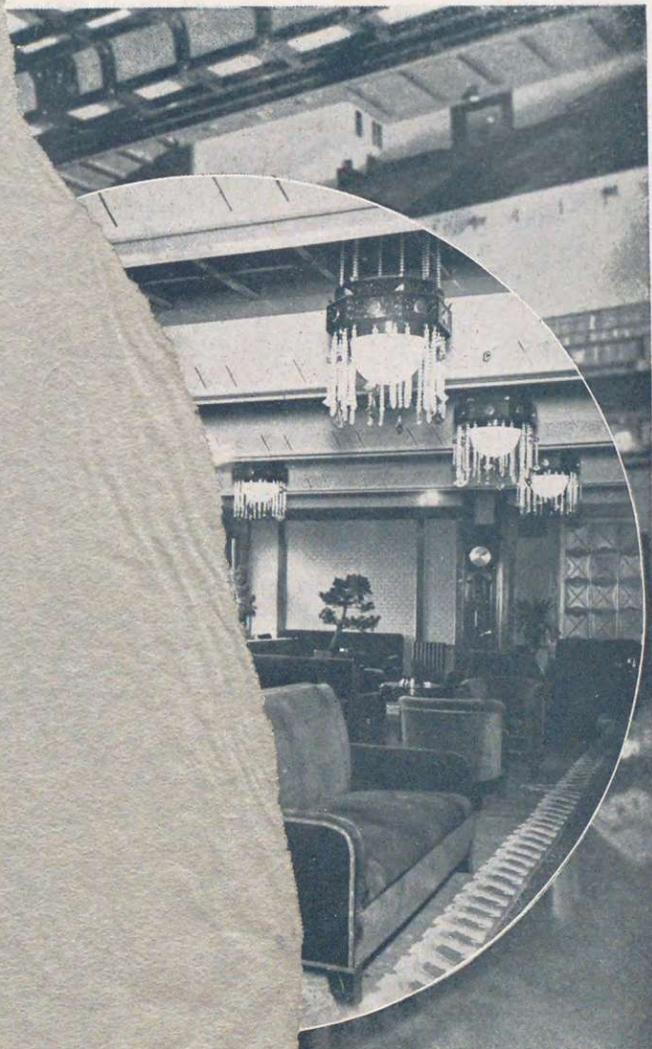


The outward appearance and the interiors of the Kabukiza Theatre. *under-right*: The entry of the Meijiza Theatre.

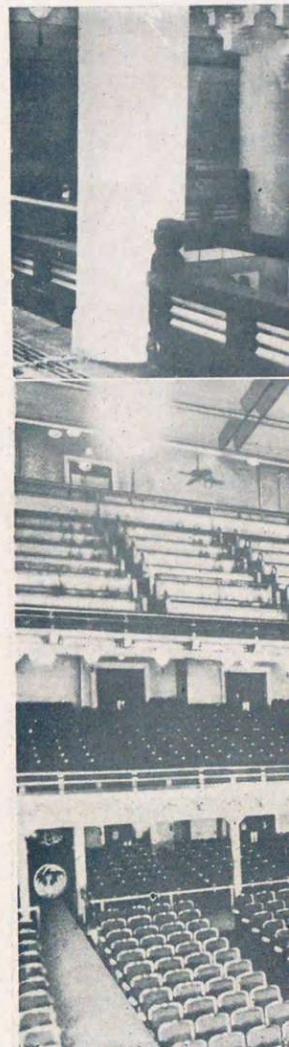
東京の劇場ではなんと云つても歌舞伎座が一番大きく立派だ。外觀は純日本式建築で昔其まゝの芝居小屋の形を  
表して居る。毎日一流の歌舞伎俳優が腕によりをにかけてお得意の演技を見せる。そして見物も今の所では一番歌舞  
伎芝居をみたがる。この點では未だ新興演劇はかなはない梯だ。(右上)は歌舞伎座の外觀。(左上)歌舞伎座二階  
の廊下。(左下)が歌舞伎座觀覽席。(右下圓)は日本橋久松町の明治座大玄関。

いげな半玉の振袖  
それを見出せる様  
さんの爲にも、芝

内 部

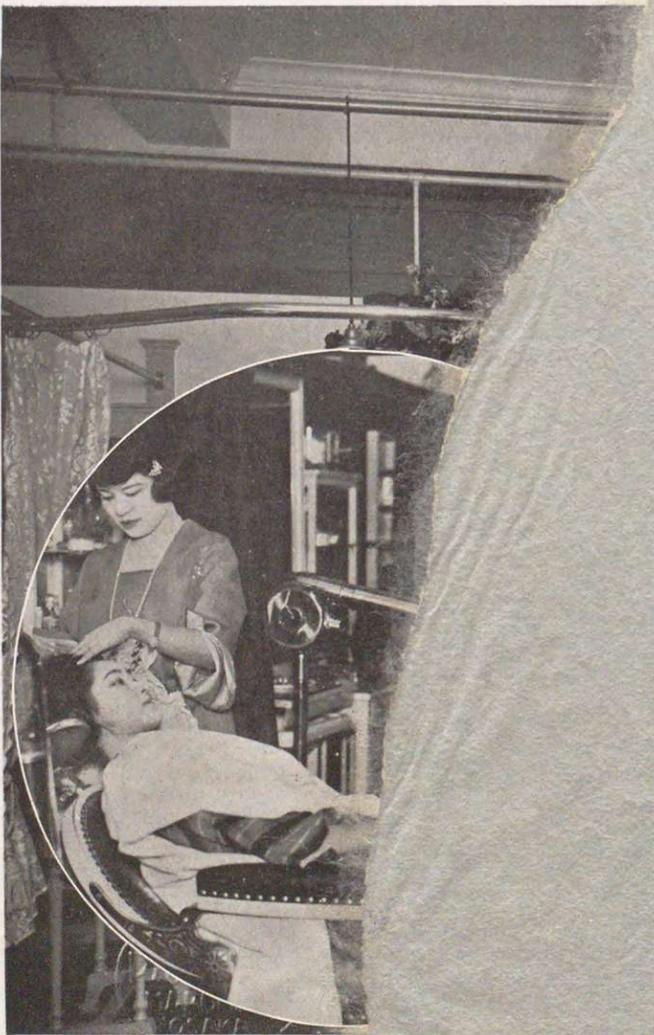


白い襟足や、可愛いげな半玉の振袖  
深間の廊下に多くそれを見出せる様  
いな奥さんやお嬢さんの爲にも、芝



The outward appearance  
the interiors of the  
Theatre. *under-right*: The  
of the Meijiza Theatre.

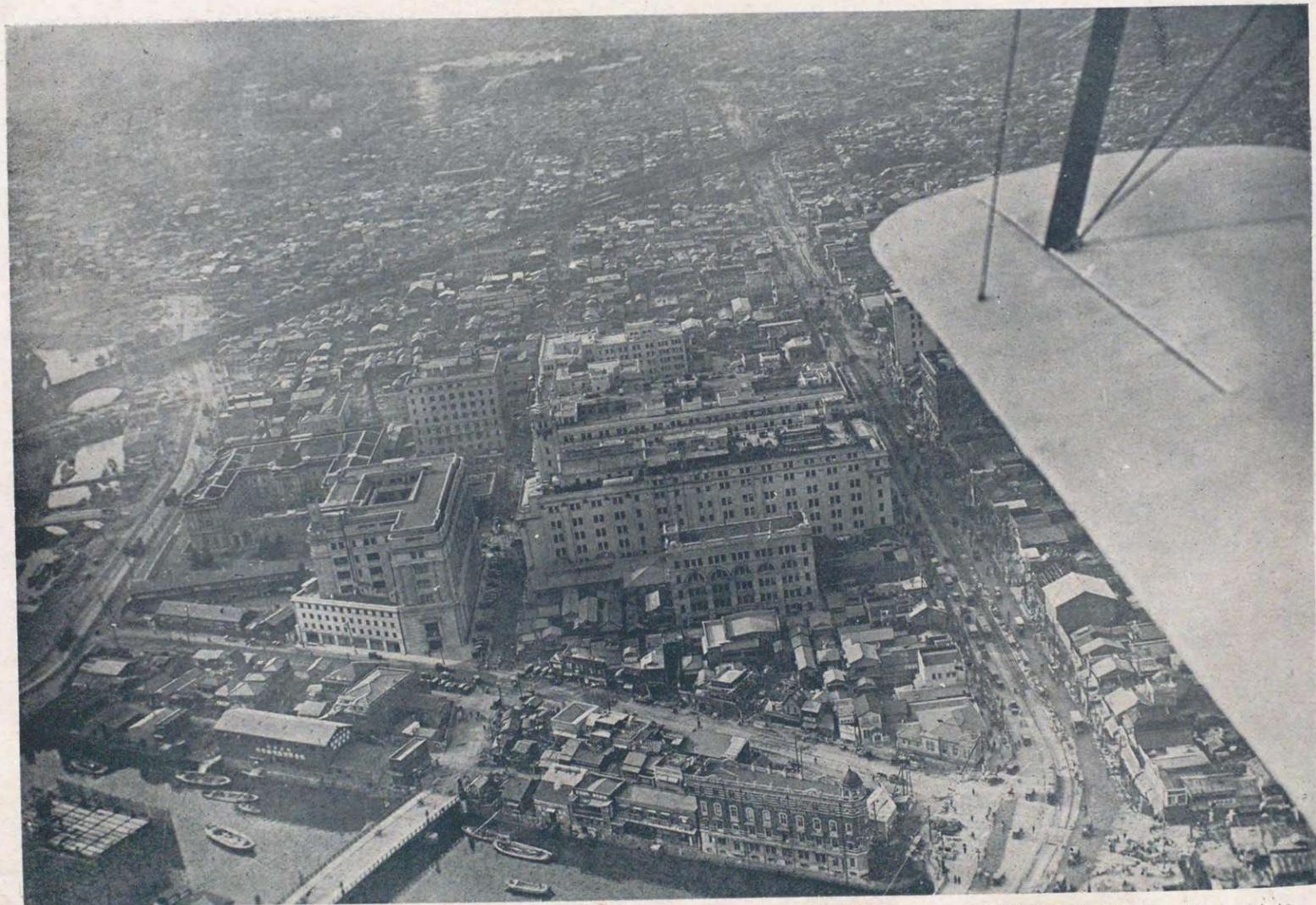
髪結さんは



A certain beauty-shop and  
beauty-doctors.

云ひ難い。それは  
断する幹線道路、  
ある。

三越を中心に眺めた日本橋界限



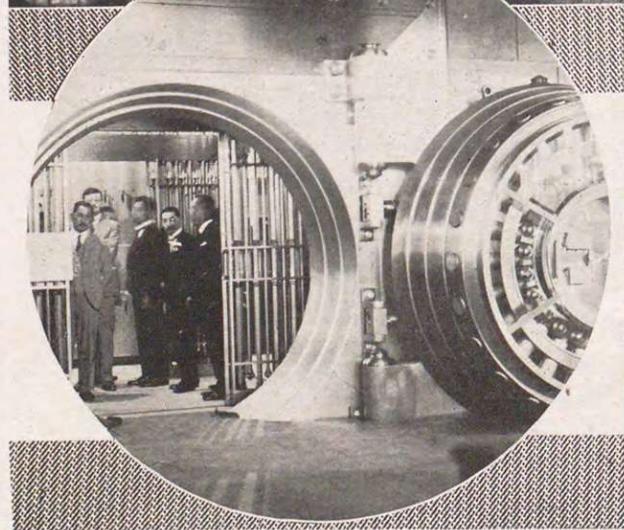
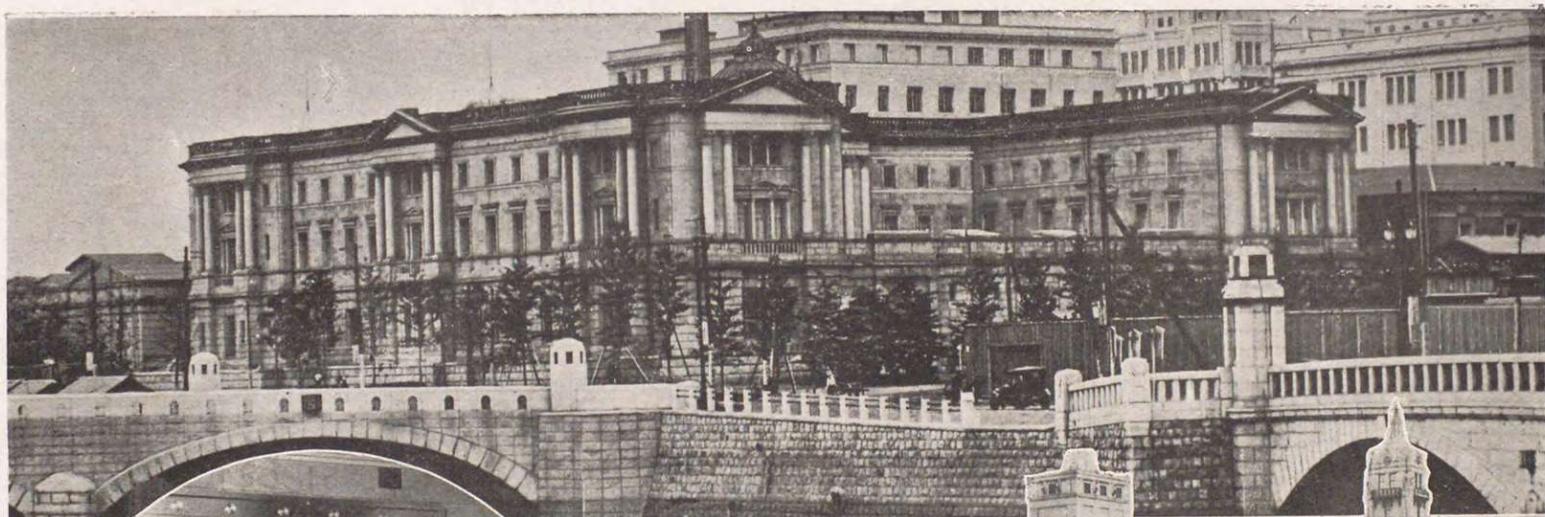
An aeroview of Nihombashi, with the Mitsukoshi at the centre.

東京も空へ空へと伸びたといふが、この飛行機鳥瞰写真で見るとまだまだ高層建築の東京とは云ひ難い。それは兎に角、右方に見えるのが飛行機の翼。その直ぐ下に貫く一線は日本橋通りで、即ち大東京を縦断する幹線道路、品川八ツ山より千住大橋に至るもの。中央の大建築が三越、三越に隣して三井合名、三井銀行がある。



A certain beauty-s beauty-doctors,

橋 本 日 の 金、 金、 金

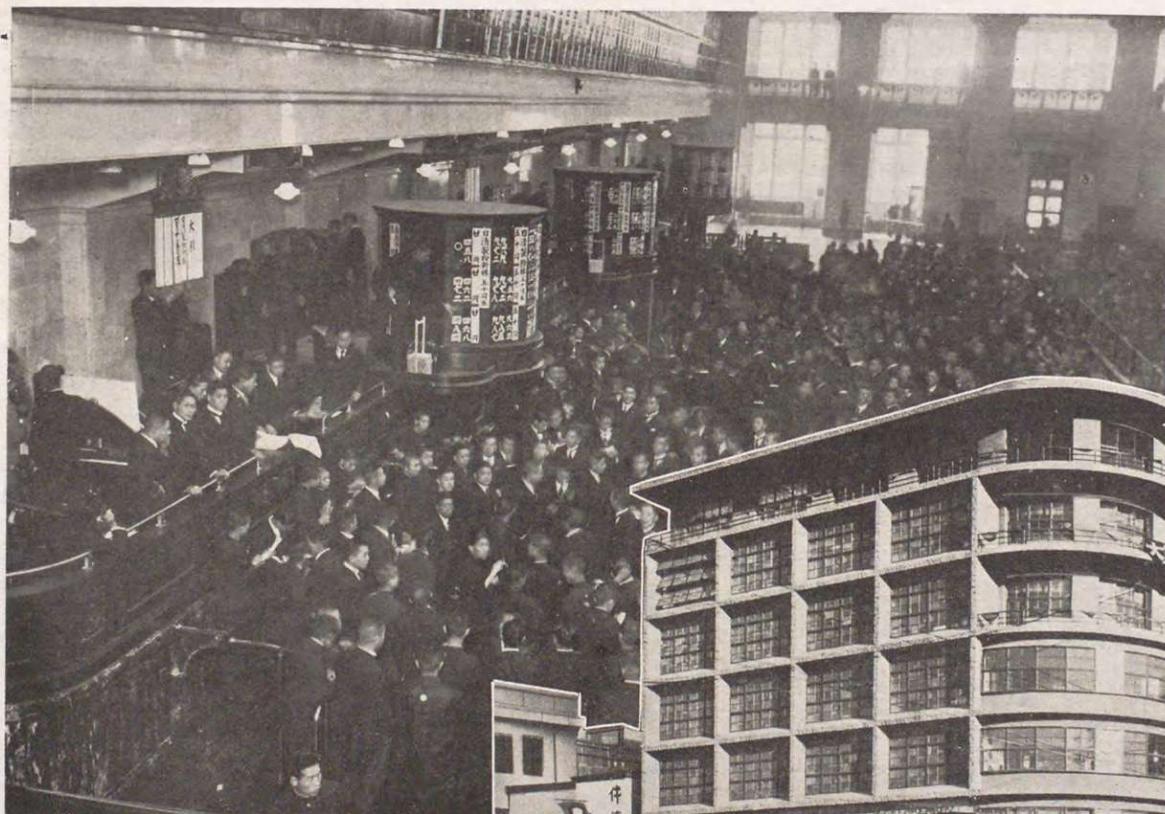


upper: The Bank of Japan.  
 under-right: The Mitsukoshi Dept.  
 left: The large safe of the Mitsui Bank.

上圖は日本の財布を一手に引受ける日本銀行、場所は日本橋區駿河町、その他は敢て説明するまでもあるまい。  
 下圖右は日本橋室町日本一のデパートメント株式會社三越、越後屋呉服店の昔から三井、三越と名は變れども依然  
 として東京人には切つても切れぬお馴染、今では全國的のお馴染である。下圖左は三越の隣に新築された三井銀行  
 の大金庫で、中が九十坪もあらうといふ大きなものである。

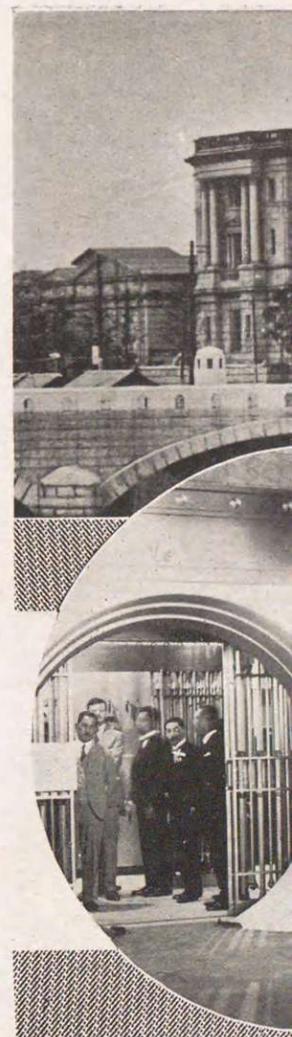
丸町の東京株式取  
 日本橋通り一丁目  
 本金を擁してある。

株式取引所と白木屋



upper: The Tōkyō Stock Exchange in market.  
 under: The Shirokiya Department-store.

上圖、株式取引所。賣つた買つたで一舉に成金ともなれば、成貧ともなる相場の本據日本橋は兜町の東京株式取引所の立會中の光景。こゝこそ、日本財界のパロメーターで、日本人の慾の塊だ。下圖、白木屋。日本橋通り一丁目の四ツ角に聳ゆる白木屋呉服店、その名は三越と共に江戸から東京への名物、七百五十萬圓の資本金を擁してゐる。



upper: The Bank of  
 under-right: The Mitsui  
 Dept. left: The large  
 the Mitsui Bank.

婦人の新職業 マネキンガール



Manekin-girls, a woman's new profession.

女だからと云つて遊んでばかりゐるわけにも行かない。そこで職業婦人なるものが出来た——のも随分前の事だが、タイピスト、婦人記者、女事務員、賣子、女車掌、エレベーターガール等と近頃では男の領分へも侵入して来た程、その職業は大へんなものだ。今でこそ左程珍しがられもしないがマネキンガールも一寸變つた商賣として、出来た當時は随分世間の眼をひいたものである。土偶人形に衣裳を着けて飾つて置くのも餘り曲がなさすぎると云ふので生きた女に衣裳を着せて人の眼をひかうと云ふ考案、歐米の百貨店等では可成り前から用ひてゐたと云ふ。

はれるが、中々さ  
で引立たせるから  
その他で中々生活  
て、ピラ配りも一

婦人の新職業 マネキンガール



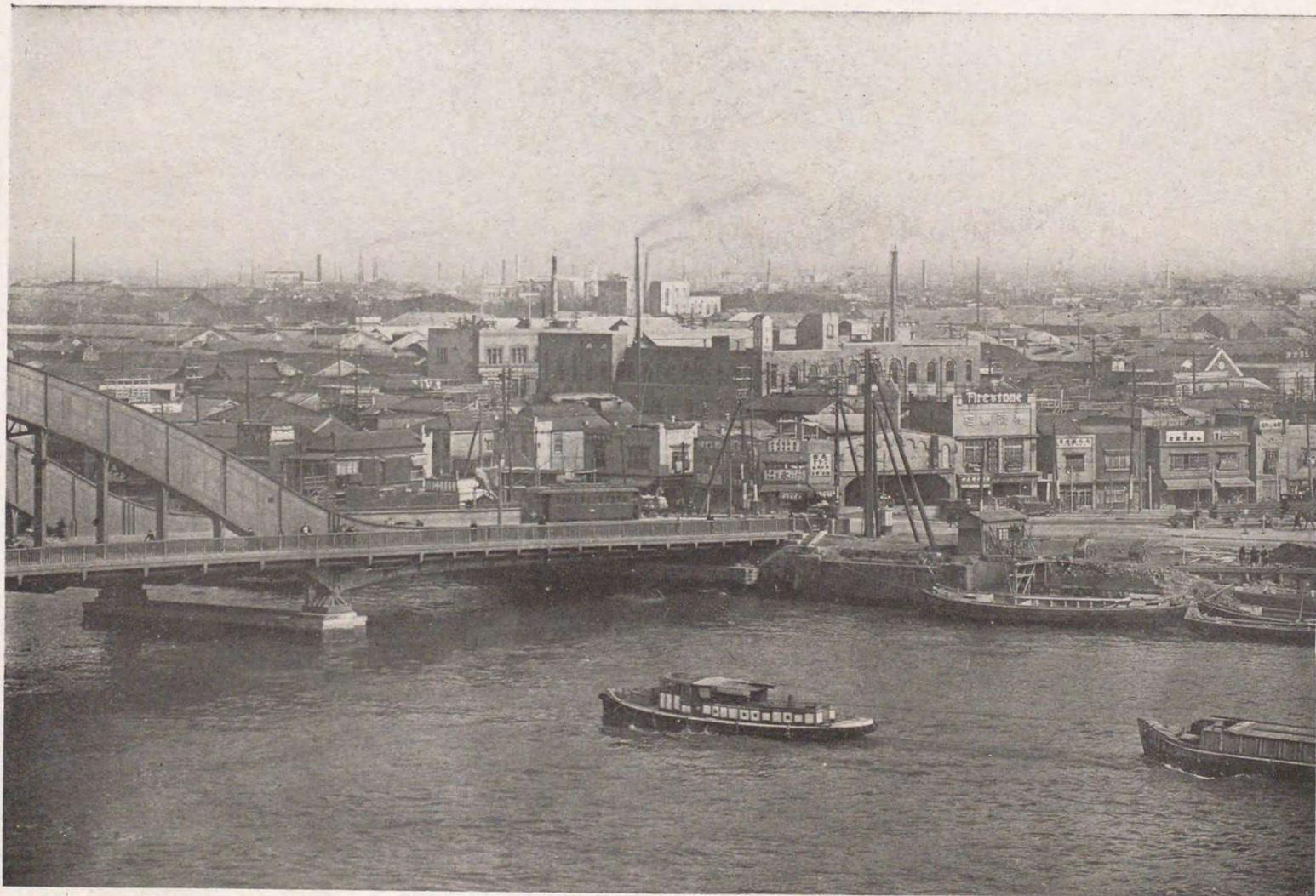
Manikin-girls in a dry-goods store.

綺麗な着物をきてシヤナリシヤナリとしてゐればそれでいゝ——とは随分うまい商賣の様に思はれるが、中々さうでない相だ。大分のツツツしさを持つてゐる女でなければ一寸つとまらない、きてゐる着物で引立たせるからには勿論よき容姿をそなへてゐる事が第一條件。一日の収入は大抵十圓見當だ相だが、化粧料その他で中々生活は樂と云へない、マネキン争議を起した事もある位。殊に近頃はマネキンの素質が段々と低下して、ピラ配りも一種のマネキンとみられてゐる様だから、マネキン嬢なるもの火に奮發の要があらう。



Manekin-girls, a work profession.

永 代 橋

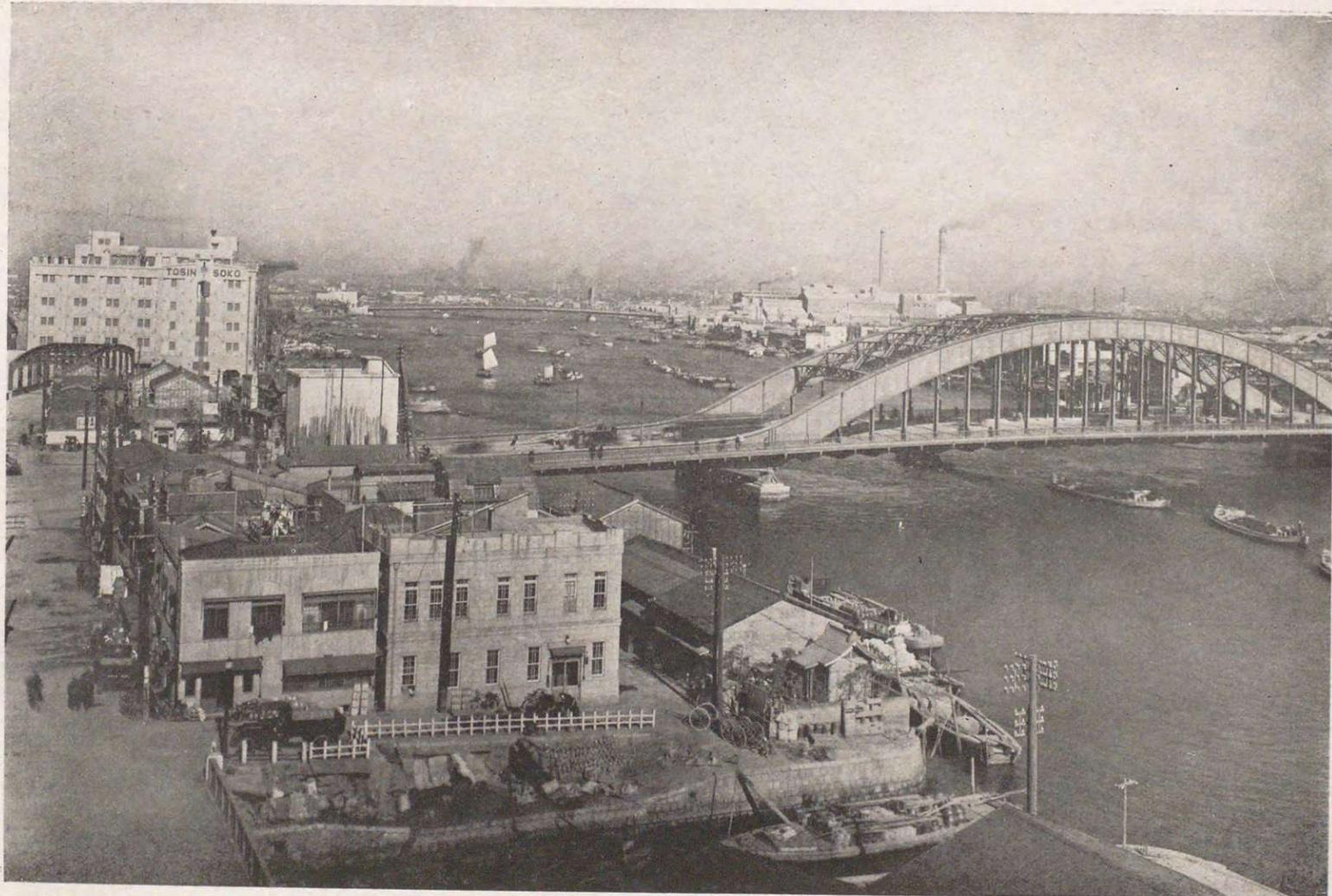


A view of Honjo and Fukagawa from the west end of Eitai bridge.

東京の復興の先驅を爲したのは橋梁であつた。隅田川に架つた相生、永代、清洲、藏前、厩、駒形、言間の七橋と、震災に残つた新大、兩國、吾妻の三橋と共に十橋、前者の七橋は設計も近代美豊かに隅田河上の空にその美しい姿を現してゐる。寫眞は永代橋西岸から本所深川方面を望んだところである。

した費用は、復  
橋との築橋は地

永代橋



Eitai bridge, one of the ten large bridges over the Sumida.

隅田川十大橋の中で、清洲、藏前、駒形、言間の四橋は市民投票で命名された。これらの橋に要した費用は、復興局計上の橋梁費約三千四百萬圓中の三分の一に當るといふから大したものである。永代橋と清洲橋との築橋は地盤の關係から鴨綠江で行つた外に例のない壓搾空氣潜函工法と稱する方法を採用したのである。



A view of Honjo arakawa from the west end of the bridge.

東京の間屋町



The wholesale-firm-quarters  
—Tadokoro-chi in Nihombashi.

日本橋の川筋から北に神田、浅草に接した地域、電車に乗れば本石町を右に折れてからだ。小暮馬、大傳馬町、横山町、馬喰町、田所町、本石町、こゝが東京の間屋街、土蔵造の店構へに紺ののれんに伊勢屋と書いてあつたであらうは震災前のことで、今ではどれもこれも洋風建築、店員も洋服で算盤をはじいてゐる。寫眞は田所町の一景、橋の名まで「とんやばし」とある。

日本橋附近から京橋

江戸橋から京橋方面



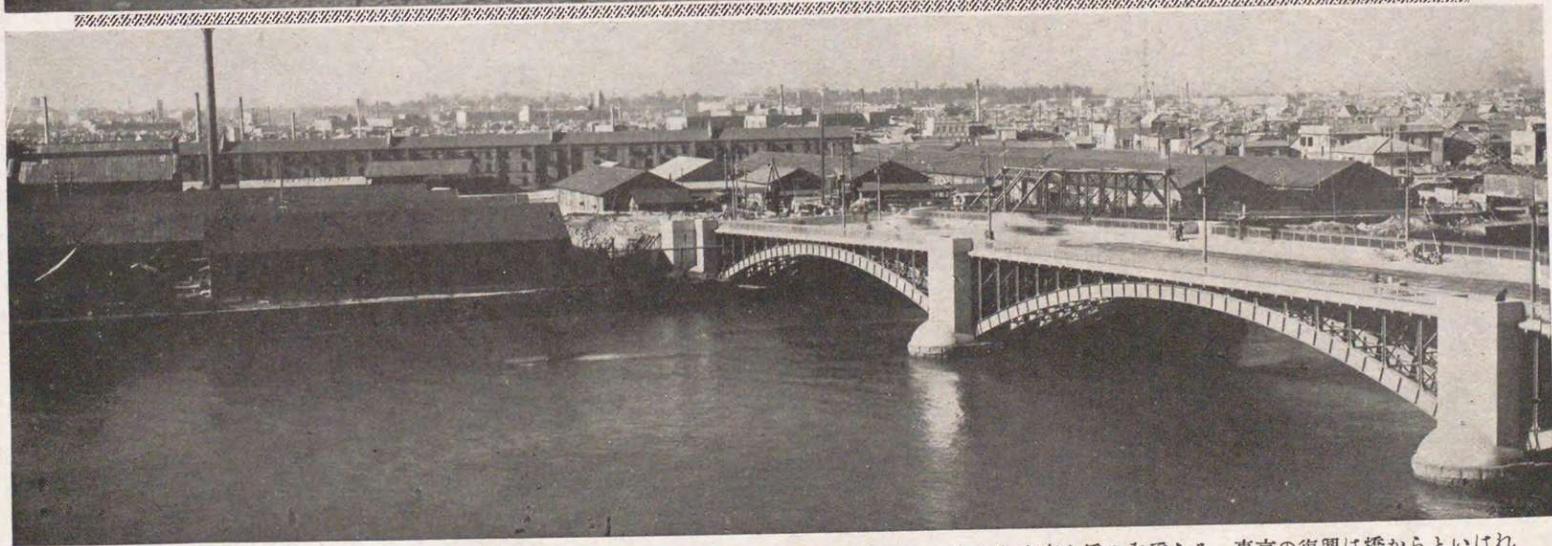
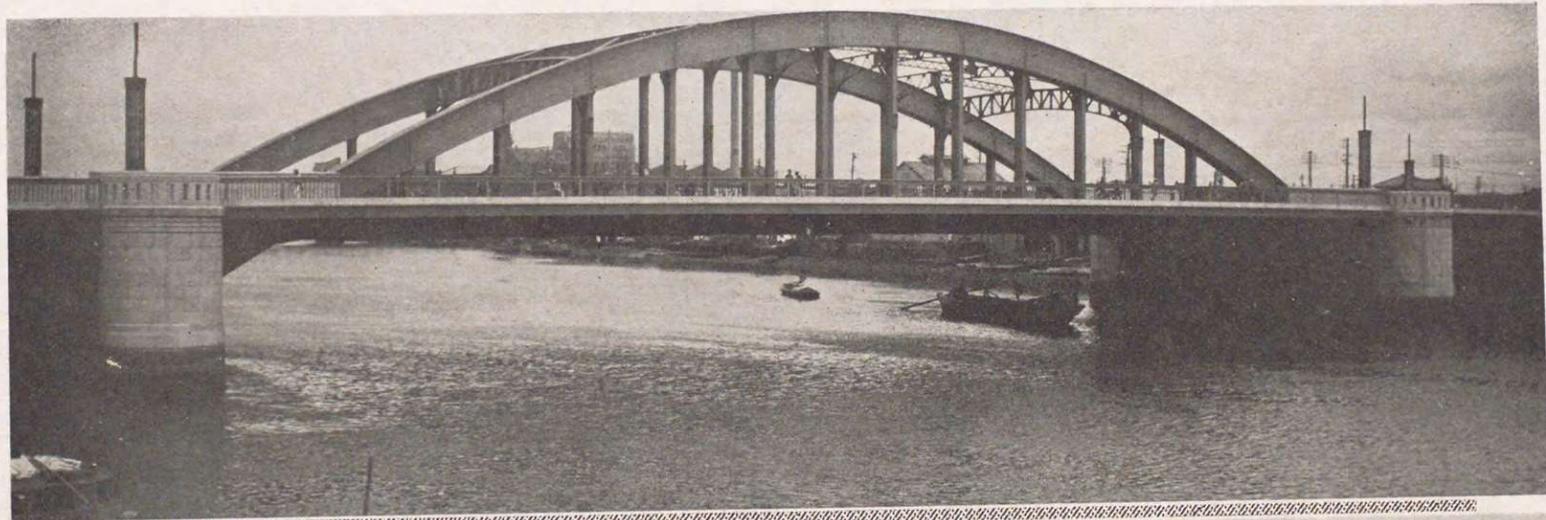
The newly-made road—obiki-chō directions, viewed from Edo-bashi bridge.

寫眞は銀座通りの裏に出來た新道路、復興大幹線中の花形「昭和通り」である。日本橋區の江戸橋附近から京橋木挽町方面を望んだところ。



The wholesale-firm—Tadokoro-chō in Nihonbashi.

隅田川を飾る新二橋

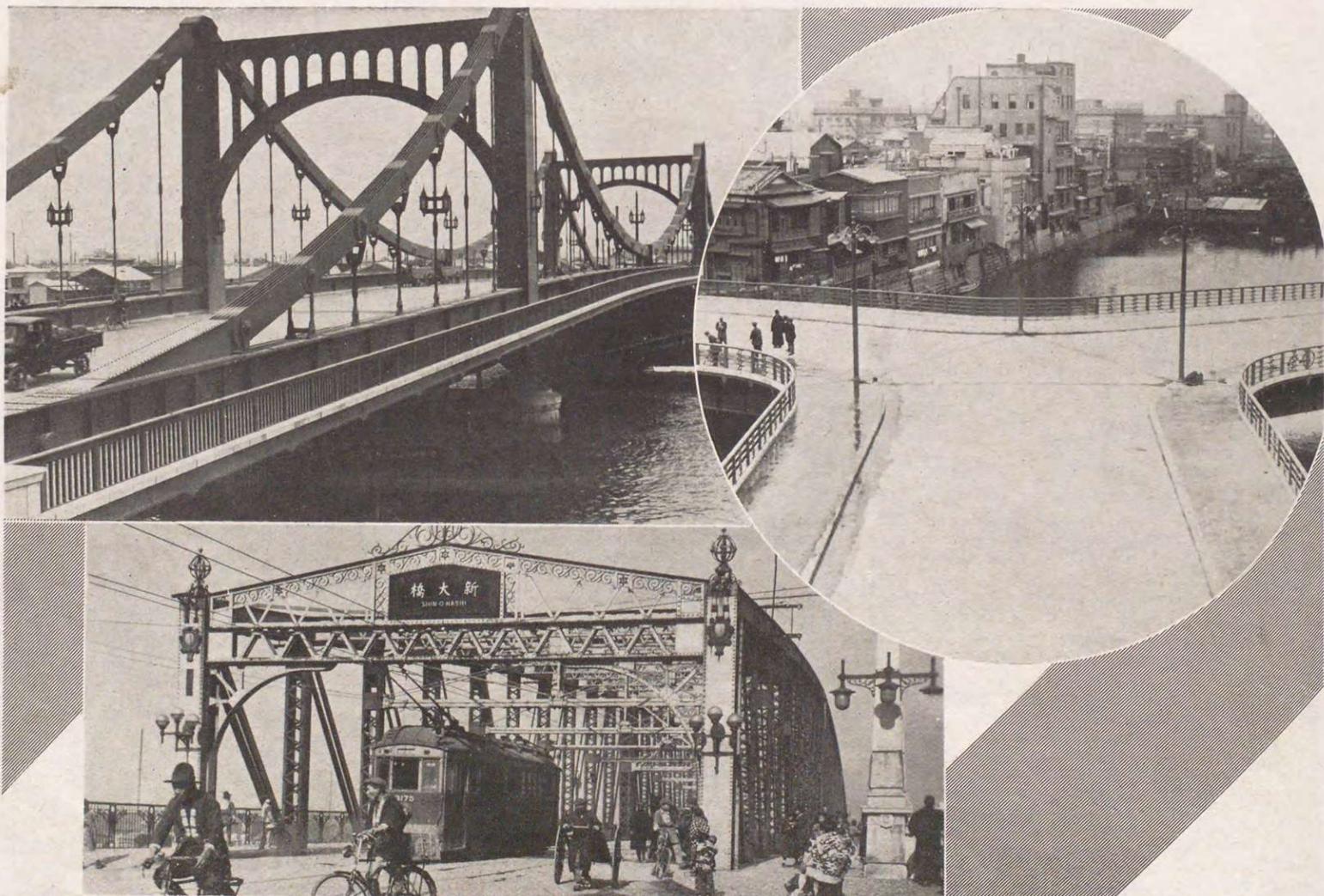


The newly-built bridges of Komagata (*upper*) and Kuramae (*under*).

上圖は駒形橋、下圖は藏前橋で、共に隅田川に架けられた新東京十橋の内である。東京の復興は橋からといはれたが、まったく橋は最も早く、見事に出来た。震災の慘禍甚しかった隅田川の兩岸も、これでいさゝか慰められるであらう。橋の長さは駒形が一四八、三二メートル、藏前は一五四、五三メートルで、一面坪當りの單價は約千五百圓である。

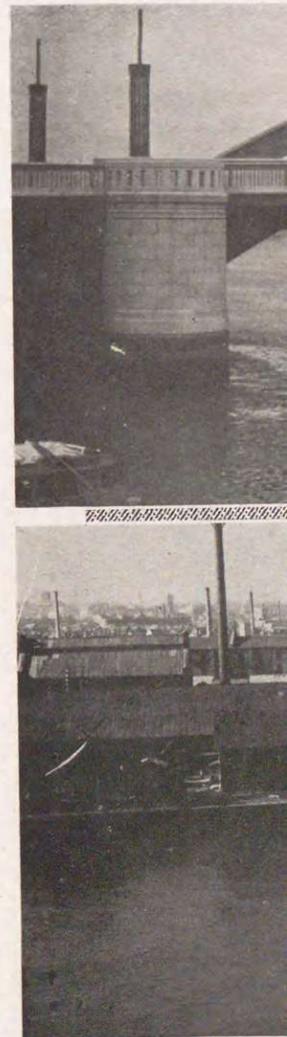
から望むと、これ  
から渡れるといふ  
橋である。

橋の趣き



upper-left: The modern style bridge of Kiyosu. upper-right: Sankichi bridge. under: Shinohashi bridge.

左上圖は隅田十橋のうち、最もモダンでどこから見ても美しい人気者清洲橋、この橋を遠くから望むと、これが東京かと思はれるくらい外国趣味が横溢してある。右圖は京橋區築地町に架つた三吉橋、三方から渡れるといふ設計が珍らしく、大きくはないが形の點で新東京の趣を示してある。下圖は、隈田川に架る新大橋である。



The newly-built b Komagata (upper) and (under).

震災前の姿をとどめてある日本橋の薬研堀



Yagenbori, Classical street in  
Down town.

日本橋の薬研堀と云へば下町の中心地、昔から多くの老舗が軒を並べてゐたが、勿論大震災の時には火災の厄に逢つたが、復興した姿は矢張昔のままの古い商店町で、モダンビルディングの姿は見られない。竹なめぐらした木造建築に紺のれんが江戸時代そのままの佇まをとどめてある。

美しい濱町公園  
表す近代的街

浅草橋附近から見た銀座通り



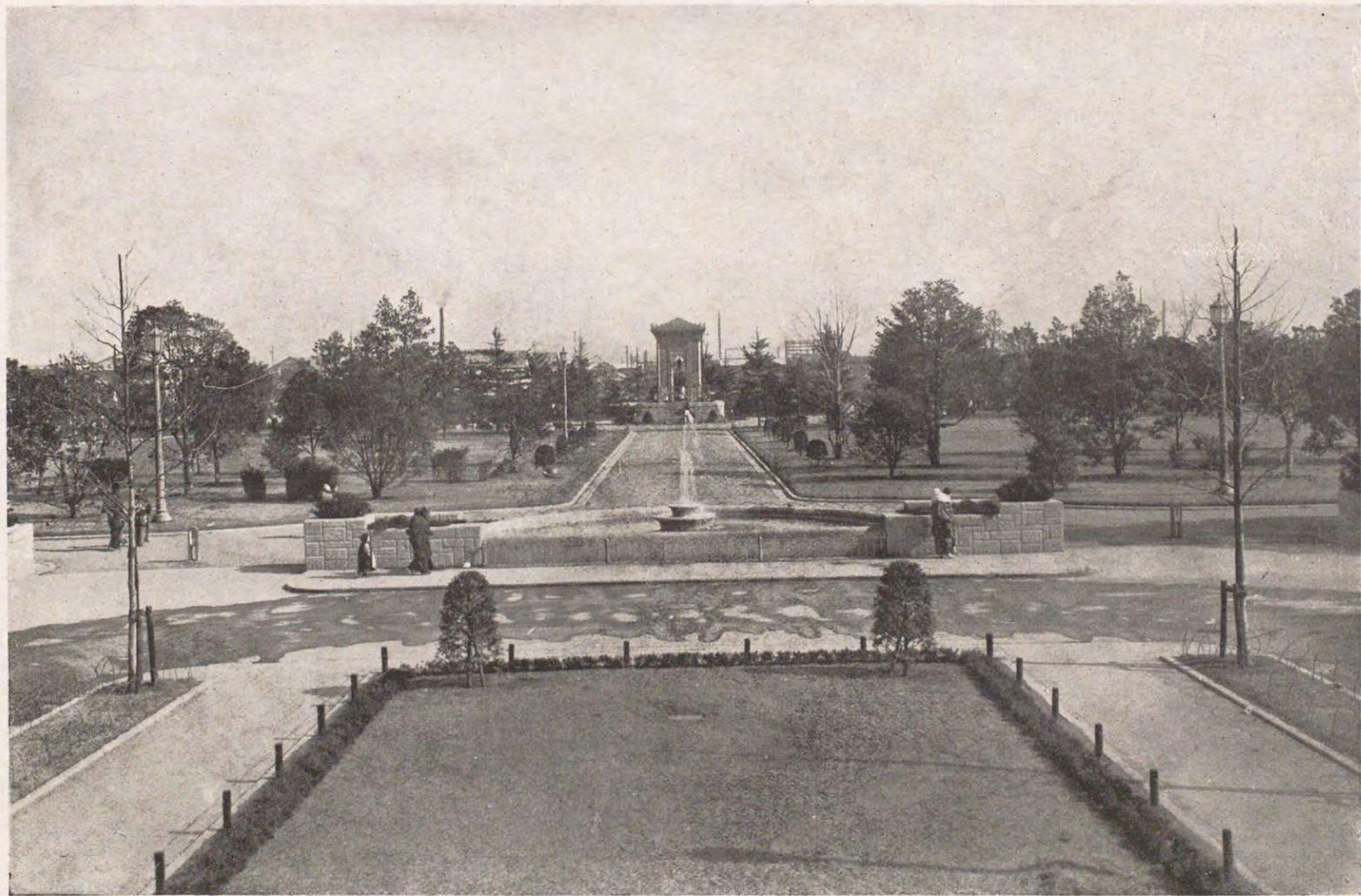
The modern street of Kinza, viewed from Asakusabashi.

銀座通りは東京の商業中心區街を貫いた近代的街路である。架空線は全部地下線に整理され、美しい濱町公園がこのビジネスセンターに働く人等の爲に大オゾンを發してゐる。全ての點に於て復興の東京を代表する近代的街路である。寫眞は浅草橋附近から銀座通りをみた所。



Yagenbori, Classical Down town.

モダンな濱町公園

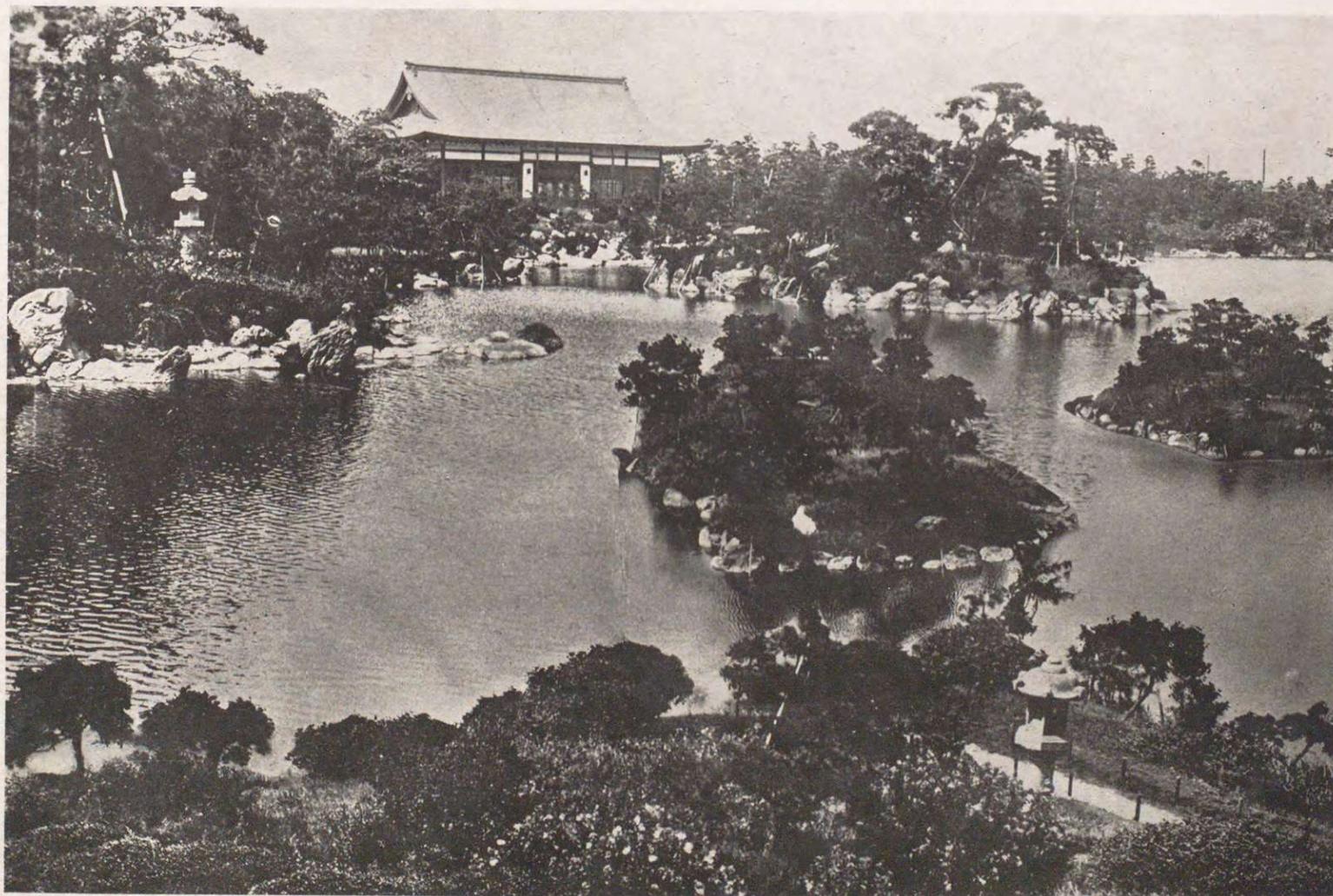


Hamacho Park backed with  
the Sumida.

日本橋區濱町河岸にできたモダン公園、どこから見ても外國の公園である。隅田川の流れを背景として自然的な風致豊かに作られた都人の休息所、一方は大川端に、一方金座通に入口を開いて日本橋、京橋のビジネス街の人々の來るのを待つてゐる。中央のホールは音樂堂によし、演壇にも好適といふ近代的なもの。

と清澄公園が塵芥  
れたもの、隅田川  
堂がある。

富豪岩崎家の寄附になる清澄公園



The finest Park of Kiyozumi in Fukagawa, donated by the Iwasaki family.

江東方面の公園としては隅田公園が代表的なものだが、本所深川方面の労働者街には錦糸公園と清澄公園が塵芥に埋れた労働者等の安息所となつてゐる。清澄公園は元岩崎家の庭園で、同家が東京市に寄附されたもの、隅田川に沿つて約二萬坪の敷地が占められ、園内には本所深川方面唯一の集合所になつてゐる本所公會堂がある。



Hamachō Park by the Sumida.

帝 都 の 工 場 地 帯



Honjo, the factory zone in the Capital.

帝都の工場地帯である。写真は本所の府立第三中學校から本所區一帯、江東橋附近を望んだ光景で、高架線は本所錦糸町驛である。

存在となつてゐる。  
景。

帝 都 の 工 場 地 帯



The factory zone, Kameido quarters.

天満宮と藤の龜戸も今では東京名所としての存在薄く、工場地帯としての龜戸の方が重要な存在となつてゐる。龜戸から以東が南葛の労働の世界である。寫眞は本所府立第三中學校から龜戸方面を望んだ光景。



Honjo, the factory zone, the Capital.

震 災 記 念 堂

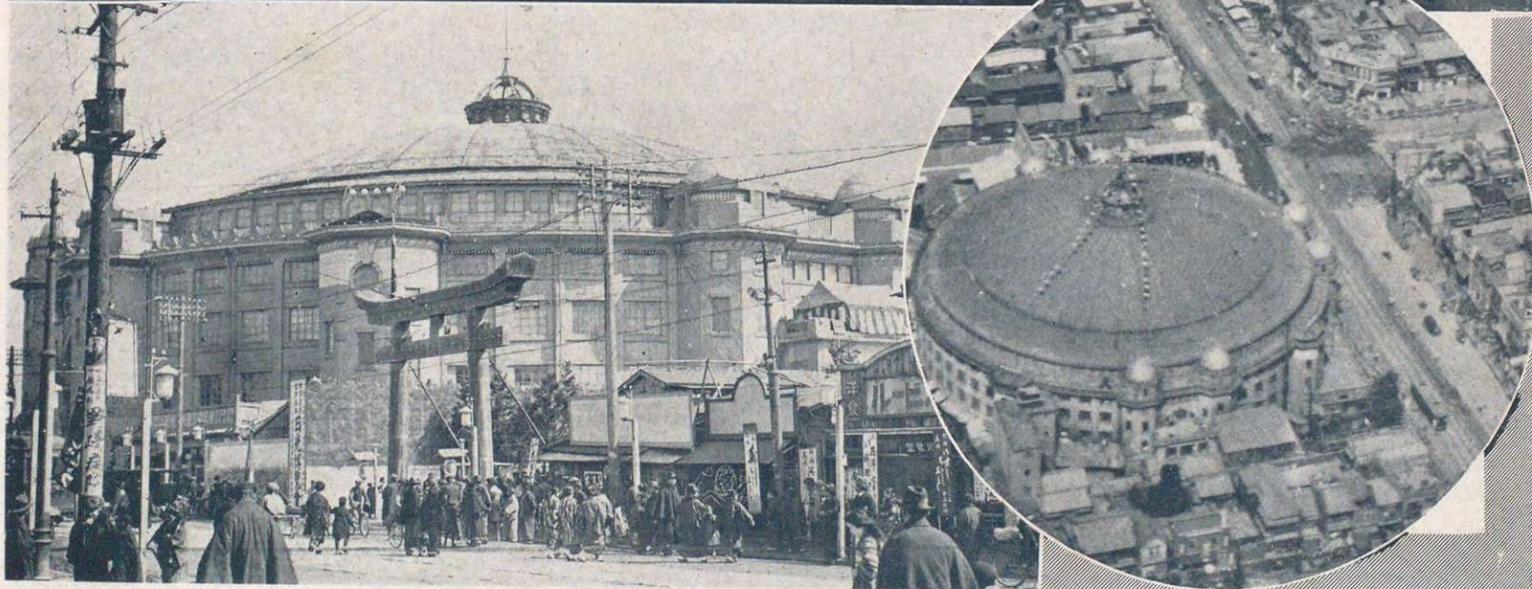


The Monument of the great earthquake disaster at the site of Hifukushō in Honjo.

彼の恐しかつた大震災の時數萬の尊い人命を奪つた本所の被服廠跡には、一時バラツクの粗末な堂が建てられてあつたが、この場所へ東京市では工學博士伊東忠太氏に囑して立派な震災記念堂を建築した。聖上陛下も復興帝都御巡幸の御視しく此處に御立寄りあらせられた。

家へと市民の血を  
相撲と共に秋は  
技館の前景。

館 技 國 響 鼓 太 櫓



The Wrestling Amphitheatre at Ryōgoku. upper, the wrestling match on the ring.

江東に響く櫓太鼓の音とうとうと、天下の力士が龍旗虎抄の場所兩國の回向院は、江戸から東京へと市民の血を沸かせて来たが、回向院から國技館の大建築と變つて相も變らぬ日本式スポーツの大山である。相撲と共に秋は菊人形で東京名物の一ともなつてゐる。(上圖は大相撲の光景、下圖右は國技館の鳥瞰、左圖は國技館の前景。)



The Monument of earthquake disaster of Hifukushō in Ho

本所錦糸堀より深川方面を望む

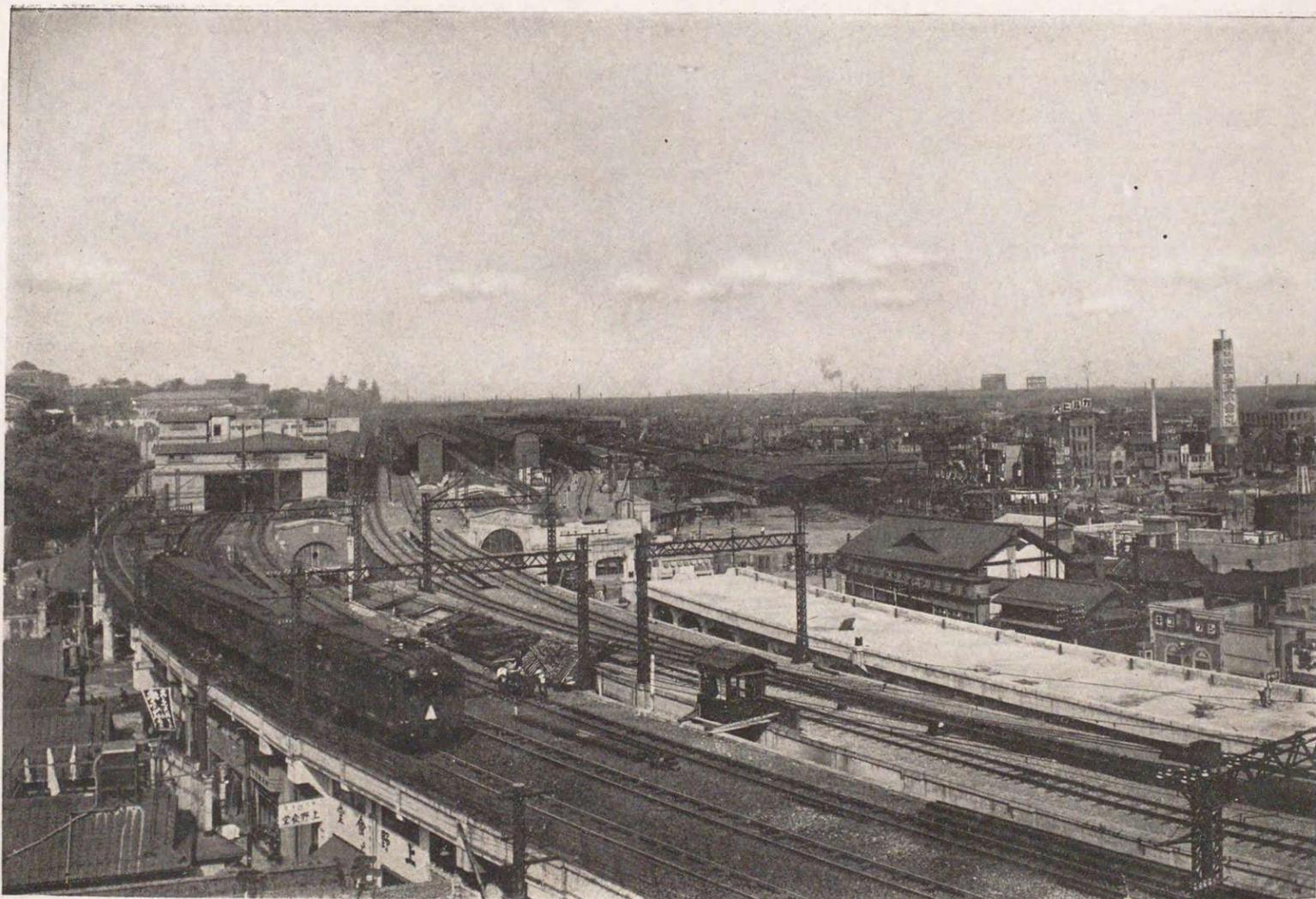


The factory region of Fukagawa, viewed from Kinshibori in Honjo.

本所、深川方面は震災前から細民街として東京市の頭痛の種となつてゐたらしいが、震災後の復興した状態はどうか……？ 矢張りも變らぬ細民街であるらしい。この寫眞を一見しても、煤煙に埋れた汚れた空をみせてゐる。寫眞は本所錦糸堀から深川方面をみた工場地帯、何時この汚れた空が拭かれるのだらうか……？

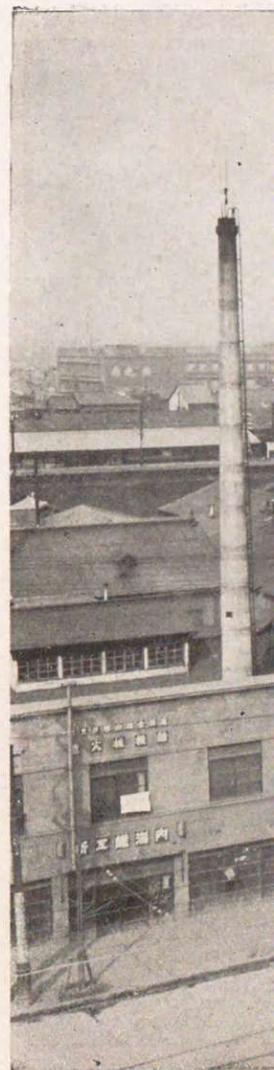
。遠望は浅草、口

上野界隈の鳥瞰



A distant view of Asakusa from Uyeno Hill.

上野から浅草方面の鳥瞰で、幾條にも連るは鐵道線路と、電車線、これが東京の裏玄関である。遠望は浅草、日暮里、千住の諸方面。

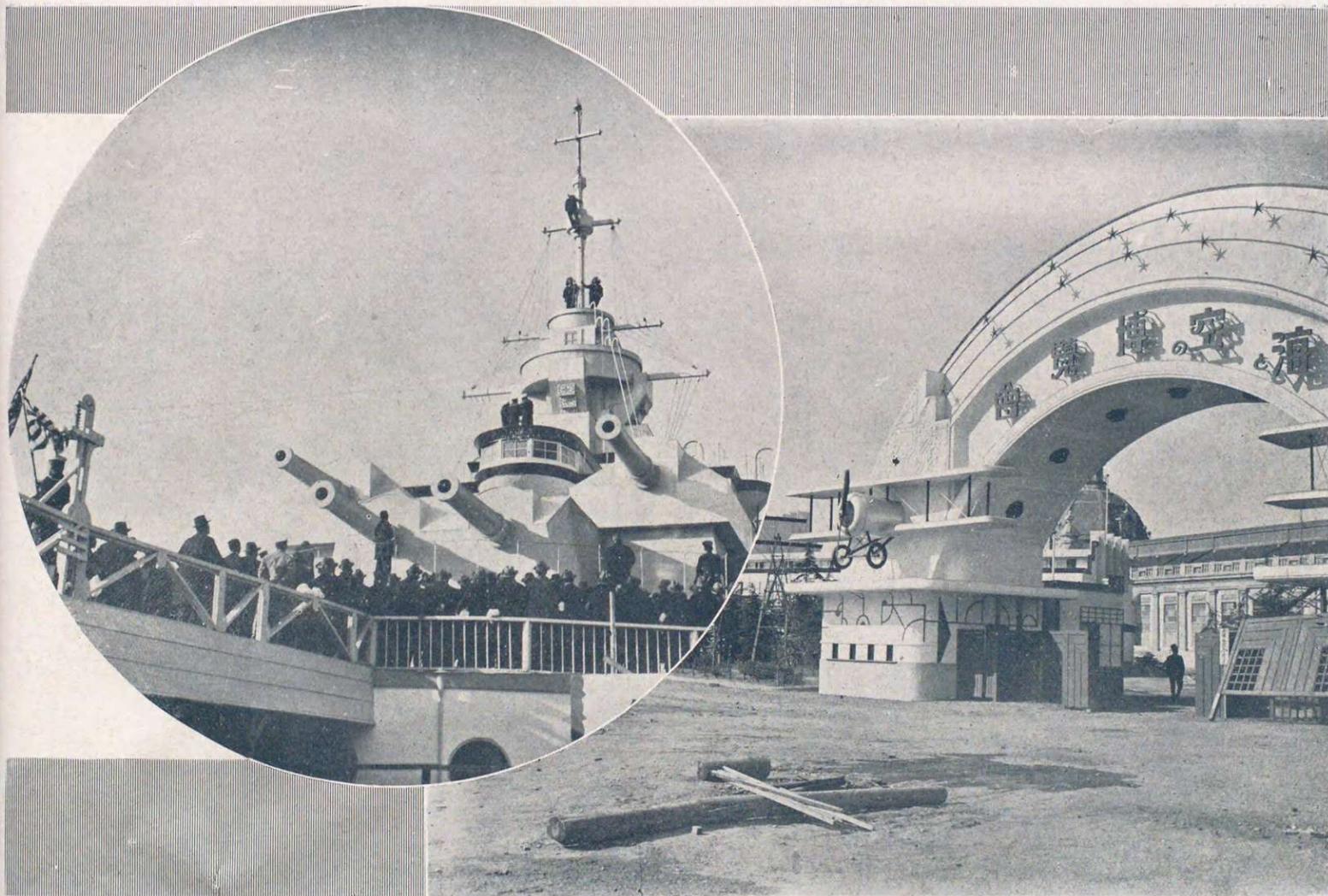


The factory region gawa, viewed from in Honjo.

上野の海と空の博覧會



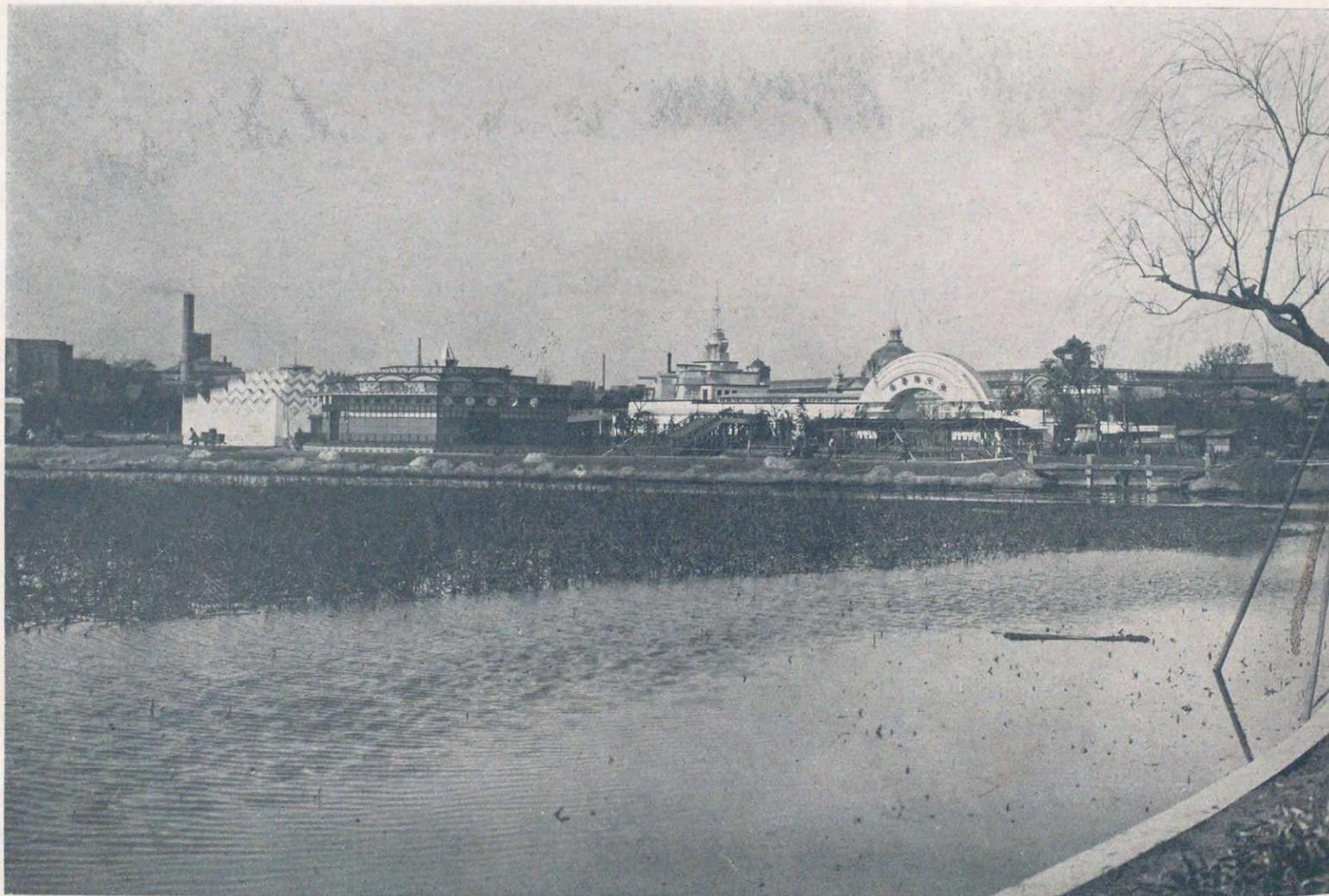
博覧會場の遠望。



The "Sea and Air" Exhibition House at the side of the Shinobazu Pond.

寫眞は日露戦役二十五年を記念すべく、昭和五年三月から開會された上野不忍池畔の「海と空」の博覧會會場の光景である。

博 覽 會 の 上 野



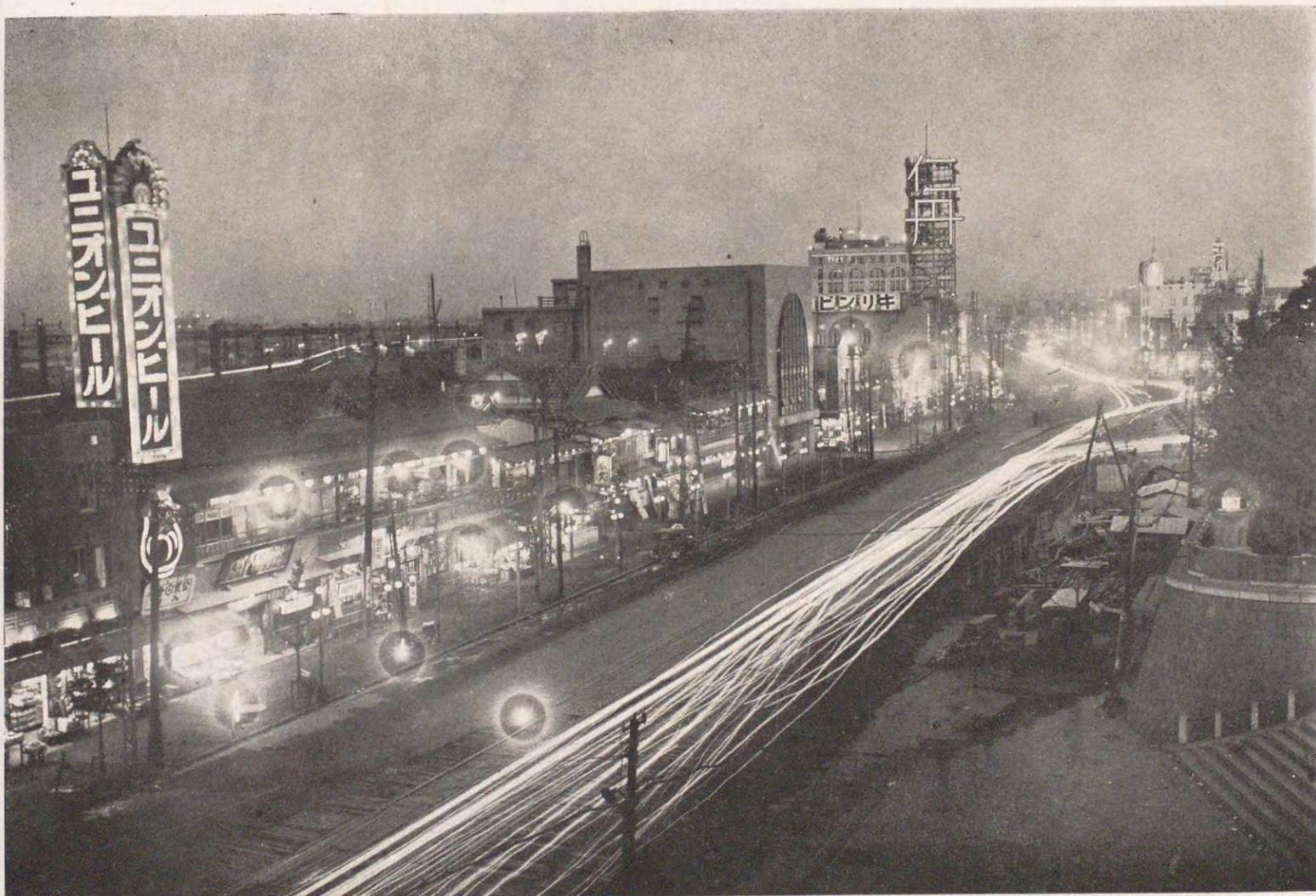
The Exhibition houses looking over the Shinobazu Pond.

博覽會といへば必ず上野を聯想する。不忍池畔の博覽會は日本名物であらう。寫眞は不忍池から博覽會場の遠望。



The "Sea and Air" Exhibition House at the side of Shinobazu Pond.

上野山下の夜景



A night-scene of Uyeno broad Street.

「銀座」が繁昌と股賑の代名詞なら、こゝは東京北部の「銀座」といふか。しかし上野山下、廣小路は京橋銀座より古い歴史をもつた繁昌の場所である。上野驛から吐き出される人、浅草から歸り客等々で夜の上野廣小路の繁昌はまた素晴らしいものである。

吐される。その上

新 装 の 上 野 驛 前



The front of Ueno Station,  
the back entry of the Capital.

東京驛が東京の表玄関なら、上野驛は裏玄関といふべきであらう。東北の旅客は悉くこゝで呑吐される。その上野驛前も御覽の通り近代的に面目を改めた。



A night-scene of Uyo  
Street.

ゆかしき上野の風情



The Tōshōgū Shrine in Ueno Park.

上野の山に徳川家の盛時を語る東照宮と五重塔。櫻の老樹と諸大名奉獻の燈籠がゆかしい風情を添へてモダン上野に面白い對照を示してゐる。

動物園と西郷銅像



right: The Ueno Zoological Gardens. left: The bronze statue of Saigō, the great.



右圖は動物園、下は動物園内の檻の中のライオン。左圖は大西郷の銅像。

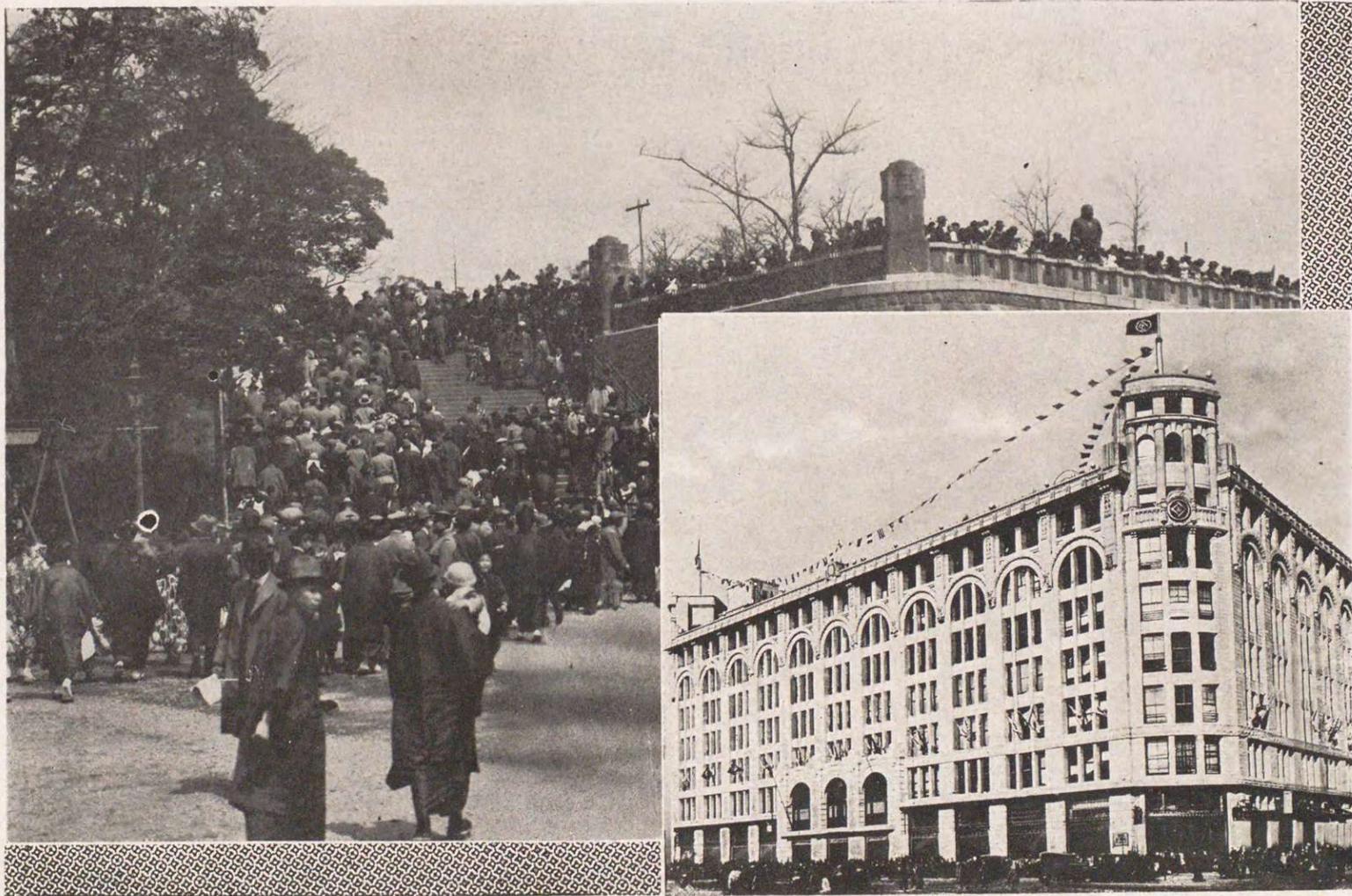


The Tōshōgū Shrine Park.

上 野 公 園 入 口



殊にアパートメント  
の陳列棚。



The front of Uyeno Park.  
under: The Matsusakaya De-  
partment-store by the Park.

背は東照宮と輪王寺と彰義隊の戦で、今は美術館と博覧會で東京名物たる上野公園の入口。段々登れば西郷隆盛の銅像がいつも變らず立つてゐる。下圖、松坂屋。東京六大アパートの一たる松坂屋は上野廣小路の角に巍然として聳えてゐる建物の大は三越と比肩するといふ。

口 腹 の 東 京



A dining hall in a certain department-store.

震災後東京人は高速度に食欲地が張つて来た、かどうかわらぬが、食堂の激増は素晴しく、殊にデパートメントの食堂は断然東京市民の食欲を満たしてゐる。寫眞は或る百貨店の食堂の内部と、食物の見本の陳列棚。



The front of Uye...  
under: The Matsus...  
partment-store by the

東京名物・地下鐵道

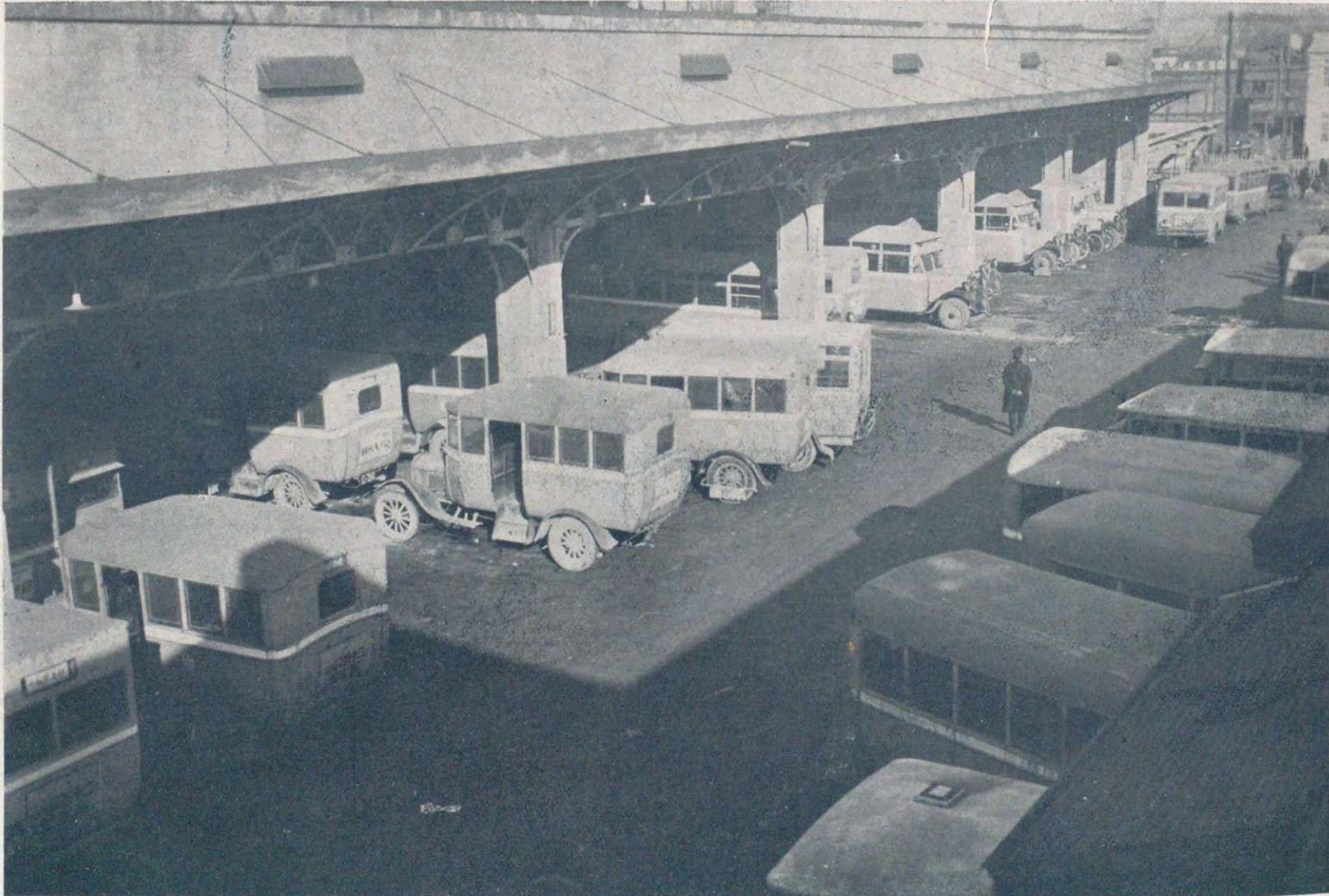


The Subway in Tōkyō, constructed from Asakusa, Uyeno to Mansei bridge.

地下鐵、昭和二年の暮日本にはじめての地下鐵が出来た頃は随分珍しがられたものだ。それは淺草から上野を経て萬世橋に至る二哩程の交通機關、この間の乗車賃十錢也。切符切りの手を要せず、金十錢也を改札口の處に投げ込めば、自然にギヤとプラットホームに入れて呉れる。東京は地盤が弱いから今後さうたいした大發展を仕様とも思はれないが、科學的、實用的の玩具としてお上りさん等にとっては興味ある珍しい存在だ。

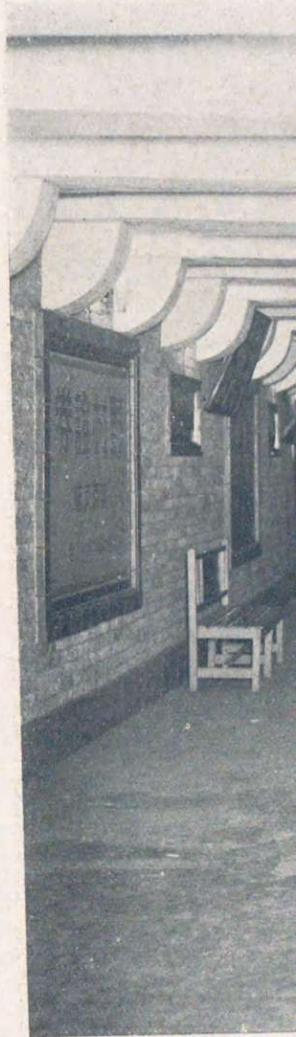
世の中に乗換へだ  
郊の時代だ。何處  
電車切符でも乗れ  
町のバスの車庫。

スピード時代に相應しい安値なバス



A garage of the (rattle) motor-bus at Inarichō.

「もう今時電車などへ乗るものは百姓だ……」と東京の人は云ふ。「なる程このハイスピードな世の中に乗換へだのなんだのと……面倒な事をしてゐた日には生存競争に遅れてしまふ。今はタクシーとバス圓太郎の時代だ。何處へ行くにもバスだ。速力は電車より優る事数倍。御値段も至極お安い、一區七錢（電氣局經營は電車切符でも乗れる）、その上娘の車掌さんが「オーライ、ストップ願ひます」で精々愛嬌をふりまく。（圖は稻荷町のバスの車庫）」



The Subway in To  
ructed from Asakusa  
Mansei bridge.

駒形通りより浅草雷門へ



Komagata Street to Kaminarimon.

「君はいま駒形あたりほととぎす」と江戸情調の濃かな、蔵前から駒形のあたり。これもコンクリートで固まつて、モダン気分が横溢して浅草雷門へと通じてゐる。

駒 形 橋 附 近



Komagata Street, viewed from Komagata bridge. 駒形橋附近から撮影せる駒形通り。



Komagata Street to mon.

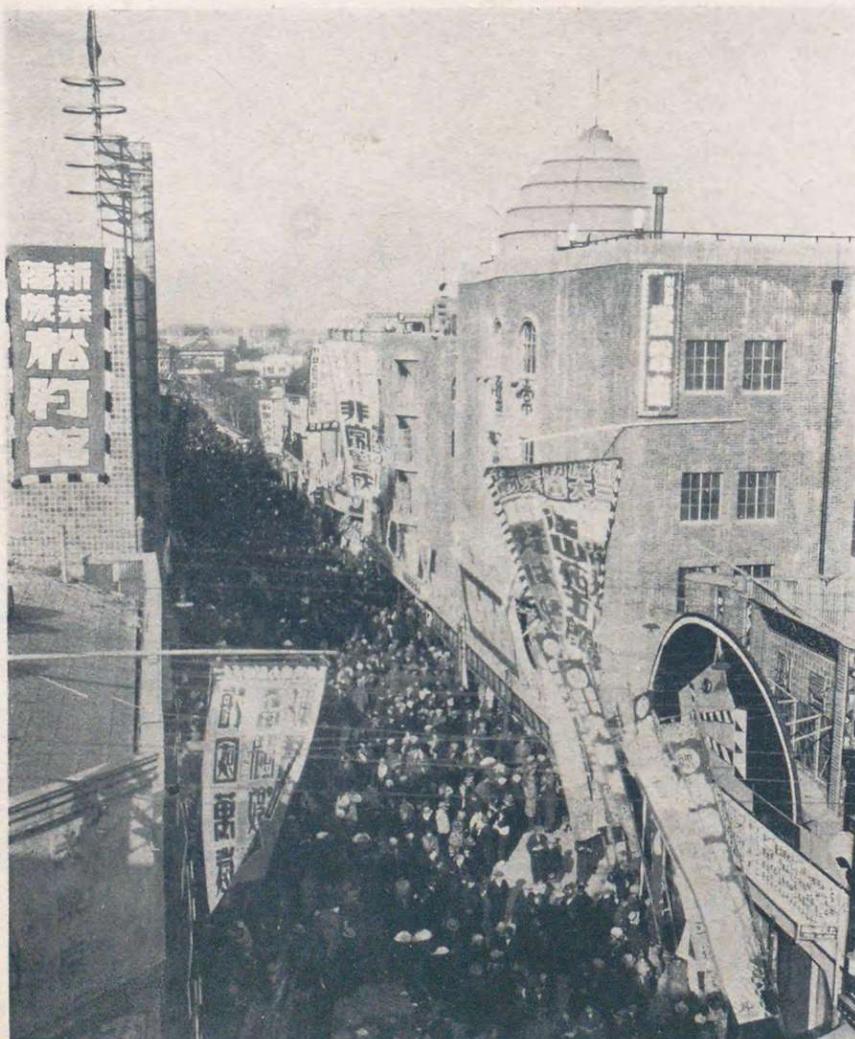
淺 草 觀 音 堂



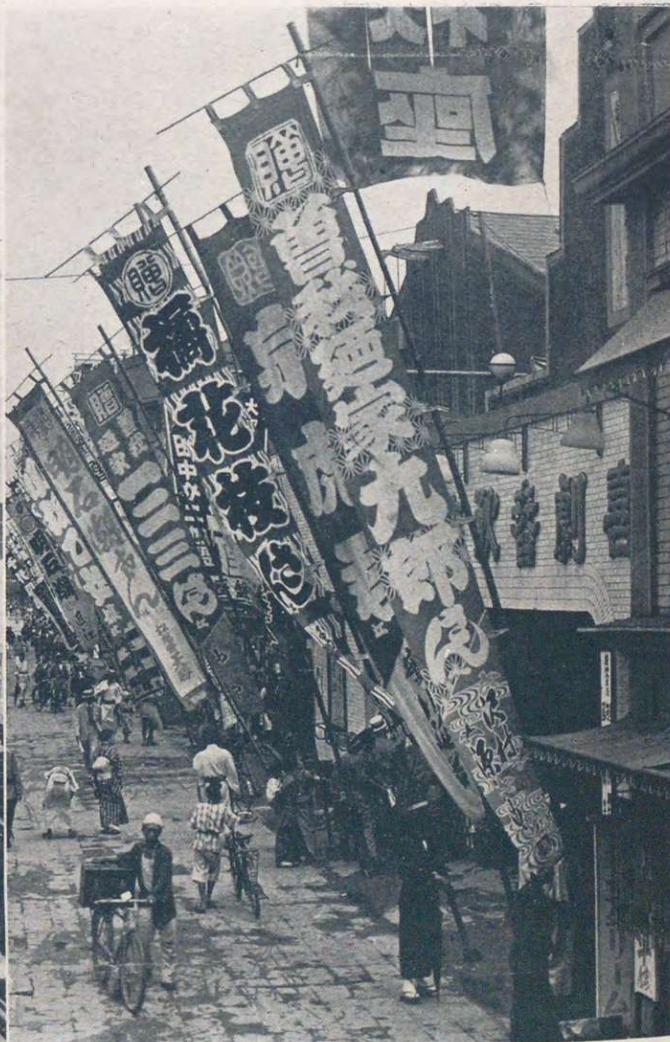
The Kannon Temple of Asakusa, viewed from the shop-quarters.

一寸八分の金の観世音像が十八間四面の御堂に在ます淺草の觀音堂、御堂は元祿の  
功德あらたかに災禍を免れて人々に感涙をもよほさせた。寫眞は仲見世から見た觀音

波の人の區六草淺



A crowded mass in the cinema zone of Asakusa.



淺草の映畫館も近代的建築美々しく竣成して新東京の歡樂境たる面目を發揮して來た。



The Kannon Temple of Asakusa, viewed from the quarters.

淺 草 の 食 傷 新 道



The eating-shop-quarters of Asakusa.

観音様の御利益と、劇と劍劇と映畫と、それから享樂になくてならぬ口腹の美、こゝらあたりは淺草の食傷新道、安くてうまいもの揃ひである。

波の人の区六草浅



A thick crowd in the lotus-land of Asakusa.

東京の歡樂の巷淺草第六區、四六時中の人波、劇に映畫にレヴェーに、それから酒に肴に、東京の歡樂はこゝに集つてゐる。



As

これが新時代のダンスだといふ浅草松竹座のレビュー



A review stage of the Shichikuza Theatre.

レビューと云ふ言葉がいつもなまじりに云はれる様になつた。映畫の幕間等に彩りのある色々な光を浴びながら流行のジャズが行進曲につれて、花も恥ぢらふ綺麗な娘さん達が手をかき足をおげて、尚も半裸體で踊り狂ふ、... パリから輸入したと云ふ新時代のダンス、今では東京一の名物になつた。寫眞は浅草松竹座のレビュー。

歌舞伎座の舞臺面



Kabuki, the Japanese classic play, at the Kabukiza Theatre.

歌舞伎劇、東京の近代人にとってはもう今では只單なる懷古的存在でしかない。何々劇、某々劇團等種々の新興劇團に押されて、早くも歌舞伎劇滅亡を唱へられてゐるが、我國古來からの演劇だ、さうさう容易すく壞れてしまふ様な事もあるまい。寫眞は歌舞伎座の舞臺面。

お茶の水に架る聖橋



Hijiri bridge over the Ochanomizu stream.

江戸時代から湯島は孔子聖堂で聞えたところ、この前を流れるお茶の水に、名も聖橋とゆかしい昔を偲ぶ橋が架けられたが、形は頗るモダンな橋である。

新 東 京 の 青 物 集 散 地



The Vegetable Market by Akibahara Station of the Elevated railway.

神田多町の青物市場は江戸ッ兒の本場とまで謳はれたが、時代は進んで神田秋葉原驛の高架線下に移轉を餘儀なくした。鐵筋コンクリートの建物もいかめしく、且つはモダンに新東京の青果集散地として活動振りだけは江戸前に勇ましい。

九段より神田方面を望む



Kanda directions, looked down from the hill-top of Kudan.

九段坂から神田神保町通を望んだ光景で、この通りの両側が有名な書店街である。左方の裏側には諸種の學校があり、駿河臺のニコライは高く天空に聳えてゐる。

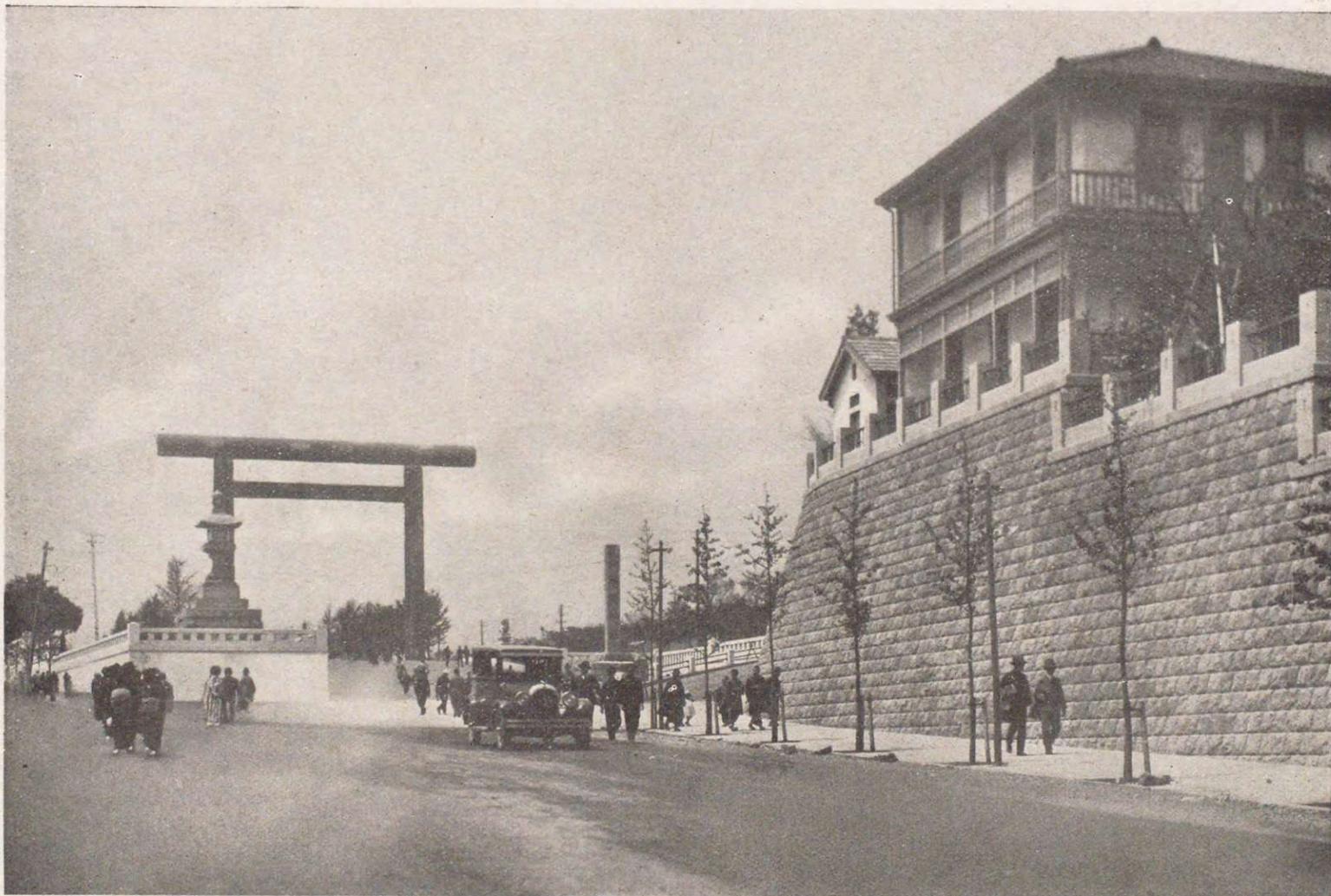
コンクリートの舗道も近代化された九段坂



The Kudan slope repaired in pavement and a view of Kanda.

九段は愛宕山等と共に江戸時代から市中の見晴し臺とされてゐた所、北齋、廣重等の風景畫家にも「東都名所」の一つとして畫かれた地である。それも今では緩勾配の舗道もコンクリートに近代化されたが、遙か駿河臺ニコライ堂の方を眺めた風景は近代都市の眺望を代表したものである。靖國神社の祭禮にも昔ながらの賑ひをみせてゐる。

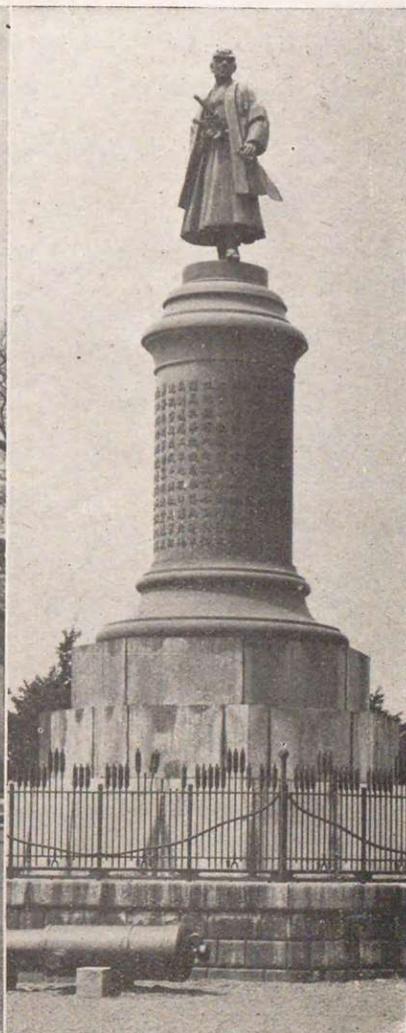
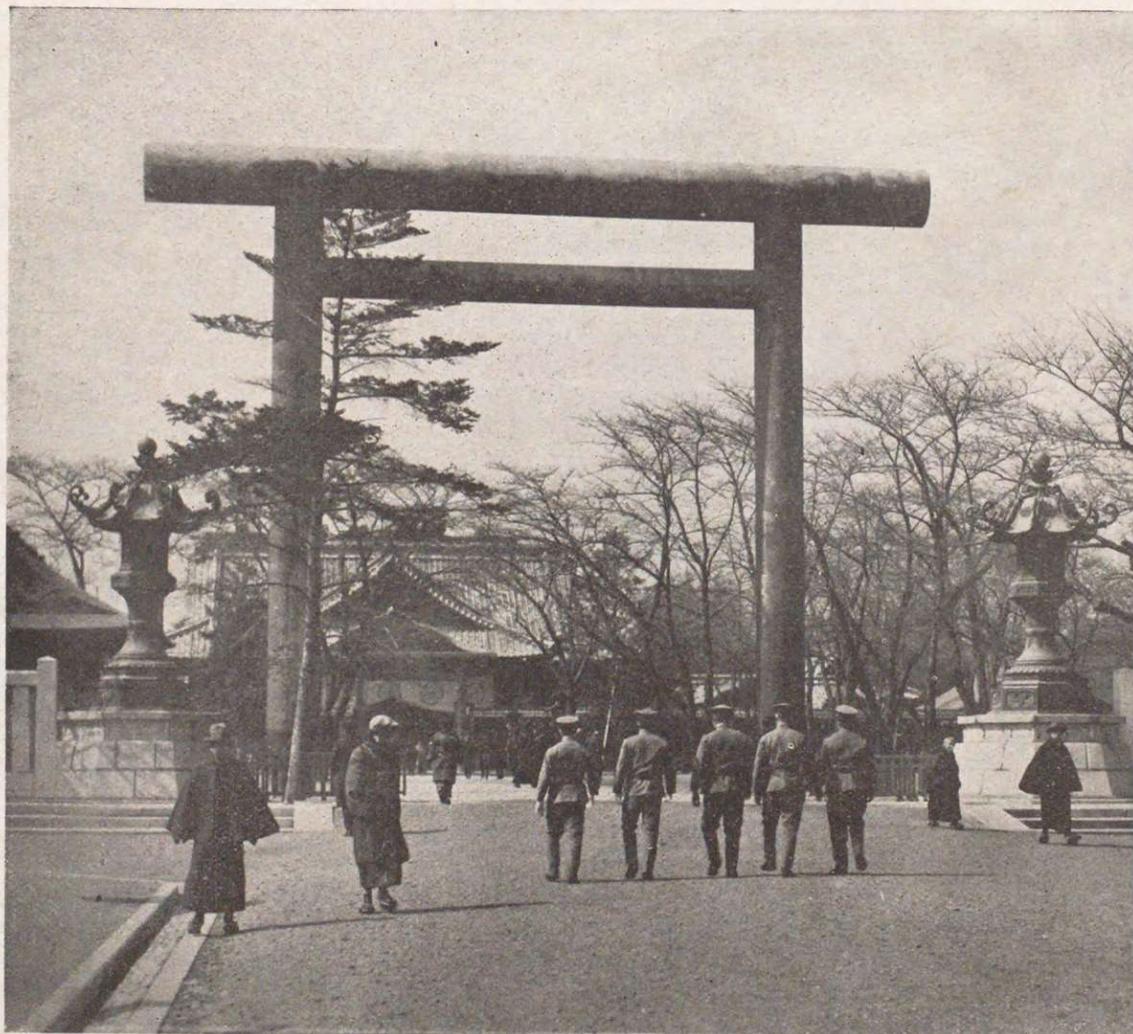
削られた九段坂



The newly repaired Slope of Kudan and the great torii of the Pantheon.

九段坂といへば、靖國神社で有名なるは勿論であるが、復興前は其の坂が急で長いことに於ても有名であつた。ところが復興局長官に現東京市長の堀切善次郎氏が就任すると、一大英斷を以て坂を削つてしまつた。その新しい姿が御覽の通りである。寫眞は坂下から大鳥居を望んだ光景。

靖國神社の英靈を祀る



The Pantheon at Kudan. *right:*  
The statue of the late Omura,  
the founder of our Army.

九段の靖國神社、といふだけで説明は要らぬほど有名である。社格は別格官幣社、場所は麹町區富士見町、戊辰の役以後數多の戦役に護國の鬼となつた英靈を合祀するところたるは記すまでもない。右圖は靖國神社前の廣場に立つてゐる我國陸軍の開設者大村益二郎の銅像。

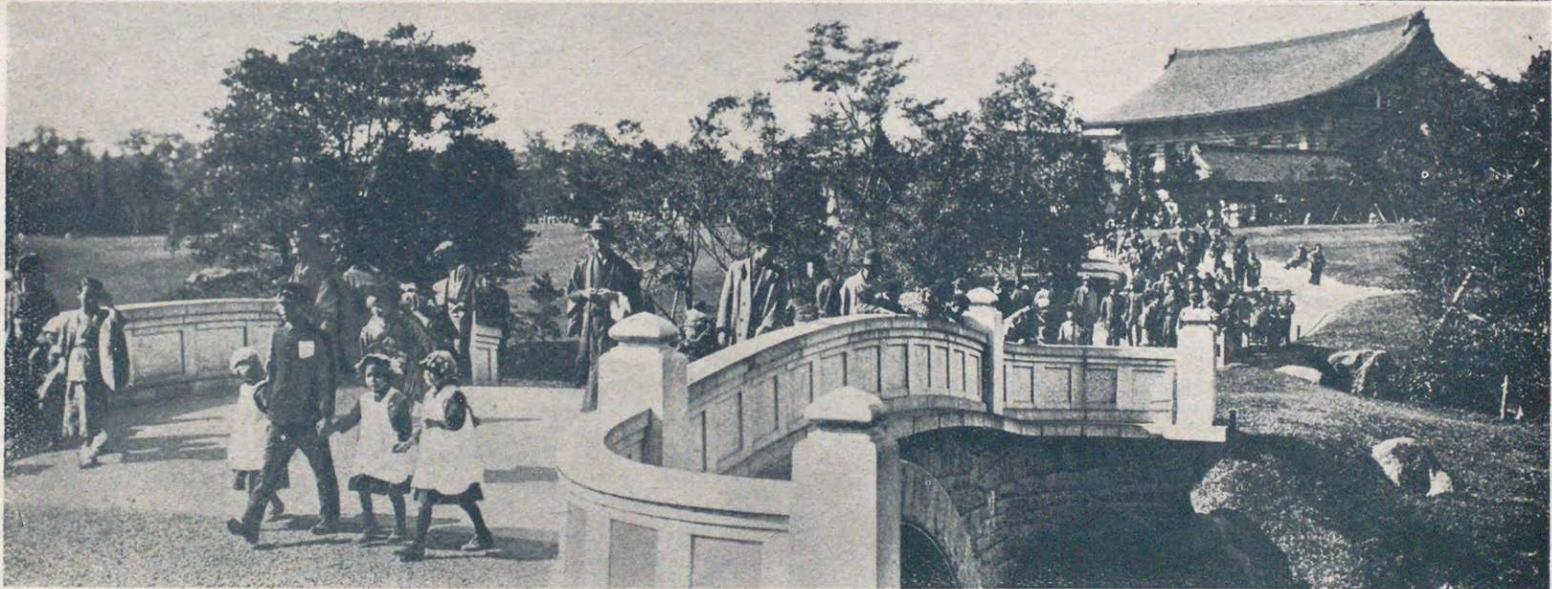
代々木の聖域明治神宮



The south gate of the Meiji Shrine.

蓋世の英主明治大帝の英靈を御祀り申し上げた明治神宮は、府下代々木にあるが、青山六丁目の参宮道路を一直線に進めば第一の鳥居を拜することができる。聖域廣大、社殿奇麗にして何人といへども大帝の御鴻徳に感涙の滂沱たるを禁じ得ない。寫眞は明治神宮南神門。

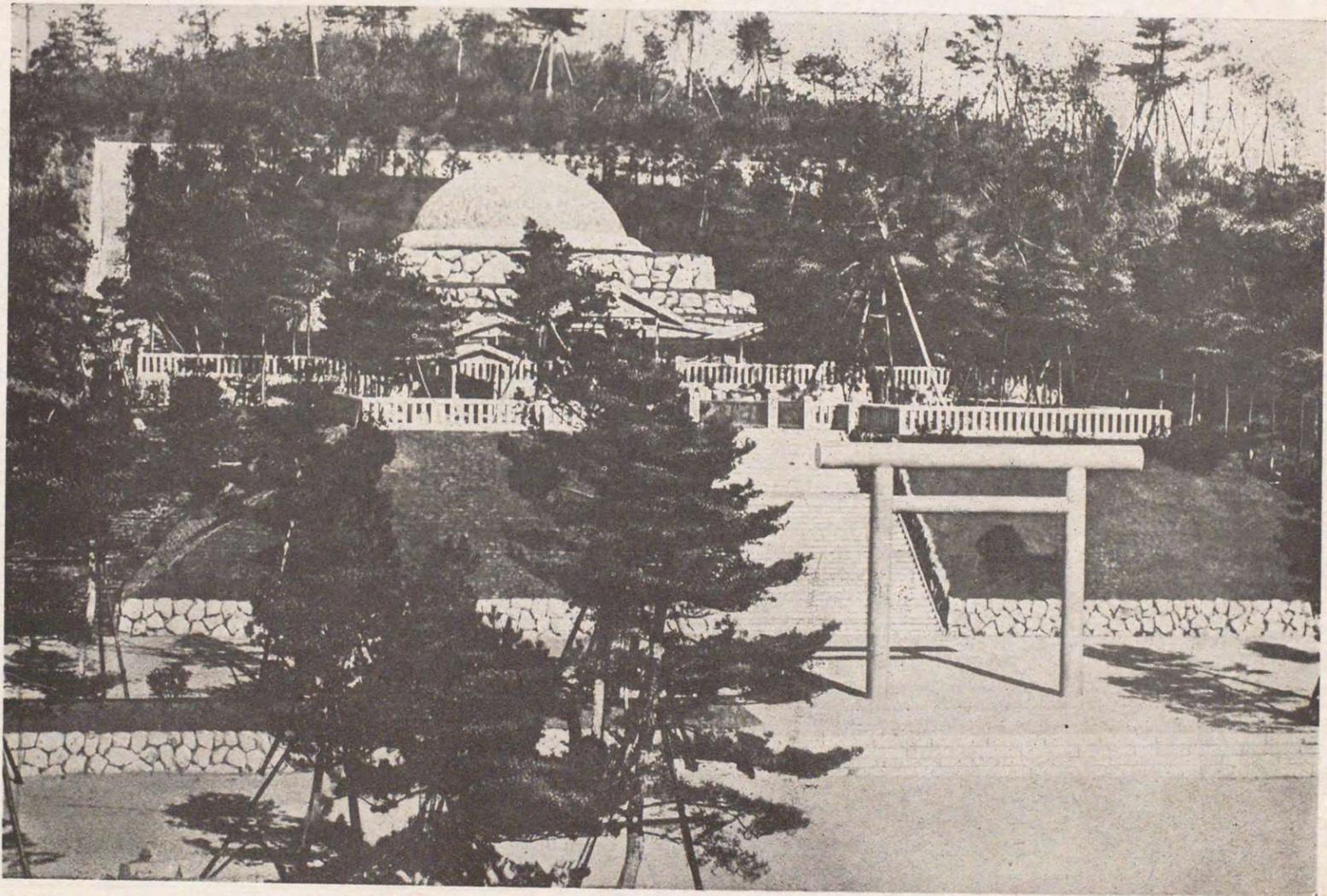
明治神宮繪畫館と寶物殿



The Picture Hall (*upper*) and the Treasure Hall (*under*) of the Meiji Shrine.

上圖、明治神宮聖徳記念繪畫館。神宮外苑にある明治大帝御一代の御事蹟を永遠に記念し奉らる爲に當代畫師の巨匠が揮毫せる壁畫七十餘面を掲げたる大建築であるが、壁畫は未だ全部完成してゐない。下圖、明治神宮寶物殿。神宮本殿の後苑にあり、大帝の御存世時に御使用遊ばされたる御品を陳列してある。

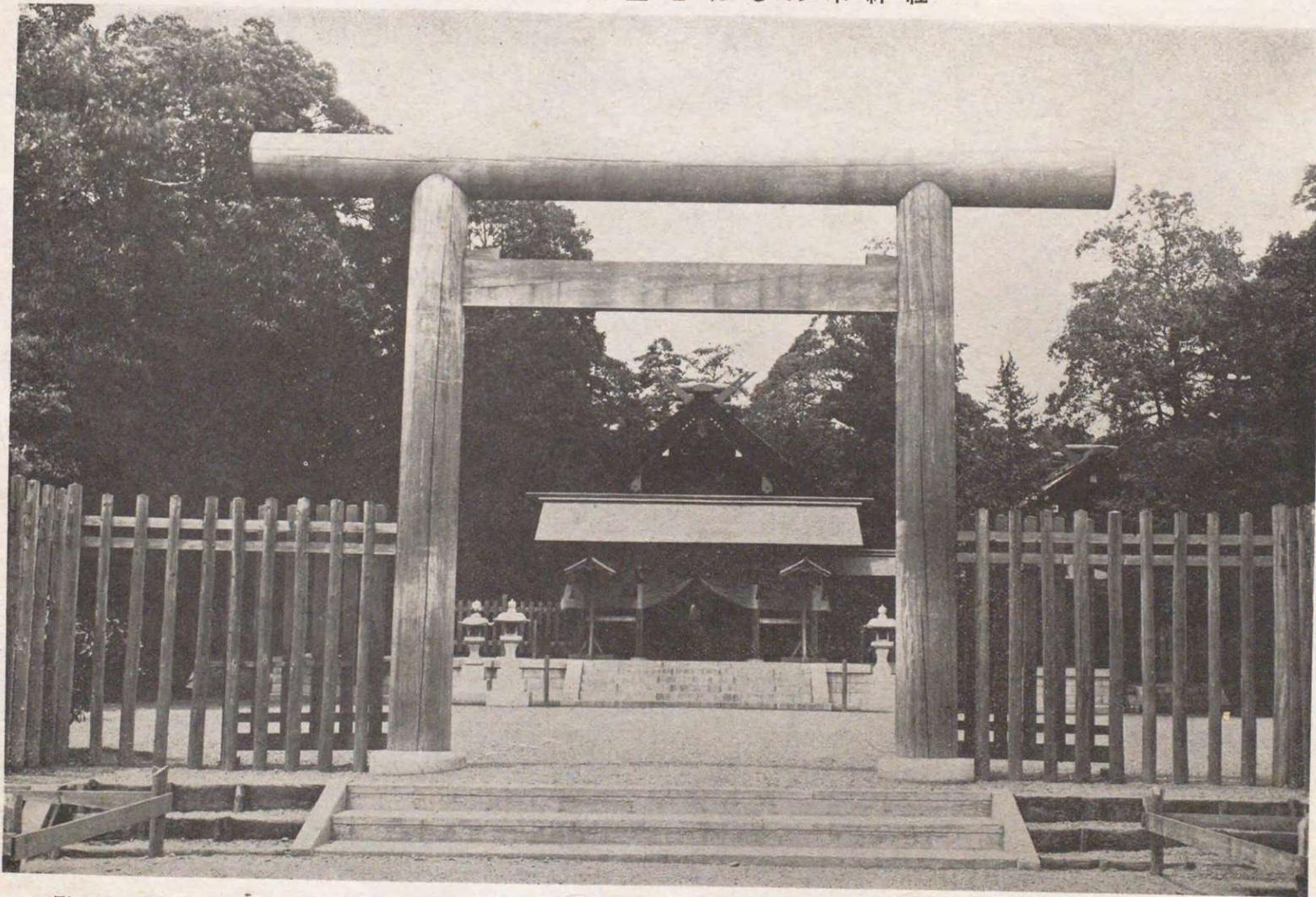
大正天皇の英靈鎮ります多摩御陵



The Mausoleum of the Emperor Taishō at Tama.

大正天皇の御陵は東京府下多摩郡にある。新宿から中央線の汽車で約三十分、浅川驛に下車して八町程、静な村道を歩けば多摩御陵である。神々しい静寂な武蔵野の一丘陵にある大正天皇の英靈鎮ります多摩御陵、明治神宮に次いで一度は参拜すべき所である。

乃木將軍の英靈を祀る乃木神社



The Nogi Shrine, dedicated to the spirit of General Nogi.

赤坂新坂町なる乃木大將邸に隣りして乃木神社がある、社殿森嚴、大將邸を訪れて感動した人々は、更にこゝで大きな感激に打たれる。

武勲永遠に輝く乃木大将邸



The late General Nogi's mansion.

赤坂區新坂町にある乃木大将邸、こゝで明治四十五年明治大帝御大葬の夜乃木希典大将は殉死したのである、邸宅はそのまゝ保存されて萬代に日本道徳の鑑となつてゐる。

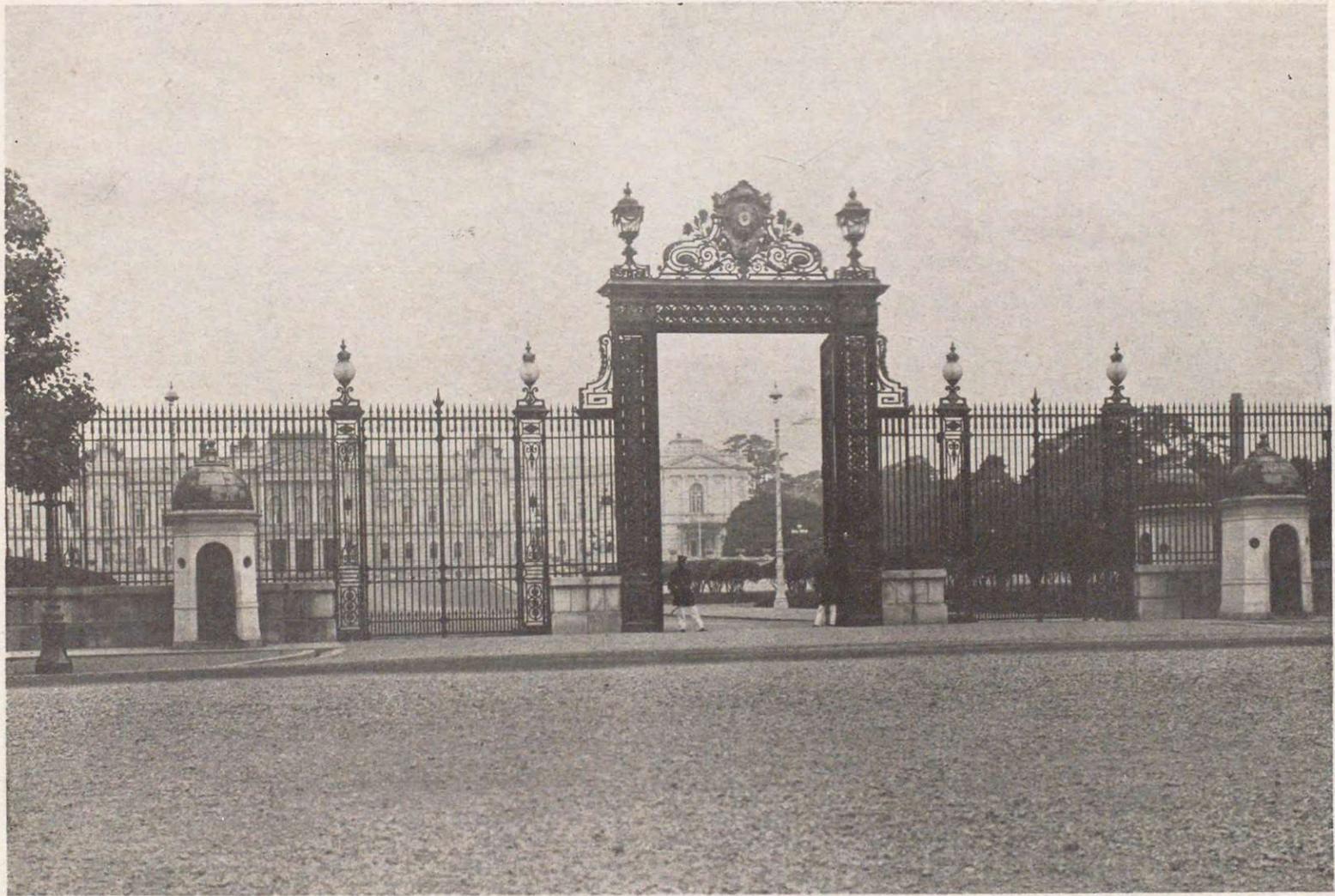
山手銀座の稱がある新宿通り



Shinjuku Street, the Ginza of Yamanote (the hilly district) of Tokyo.

新宿は山の手銀座である。その昔は甲州街道の入口で、内藤某と云ふ殿様が新宿と云ふ名稱を付けて内藤新宿と呼ばれてゐた。それが現在ではどうだ。東洋一と稱せられる活動寫眞武蔵野館をはじめ、三越、布袋屋等の一流デパート、新歌舞伎座、カフェー、戀の安息所……と云はれてゐる新宿ホテル等々……何處も同じ 1930 年の空気が横溢してゐる。新宿驛は省線電車、中央線汽車、小田原急行電車等の發着所、乗降の多い事では東京一の稱がある。

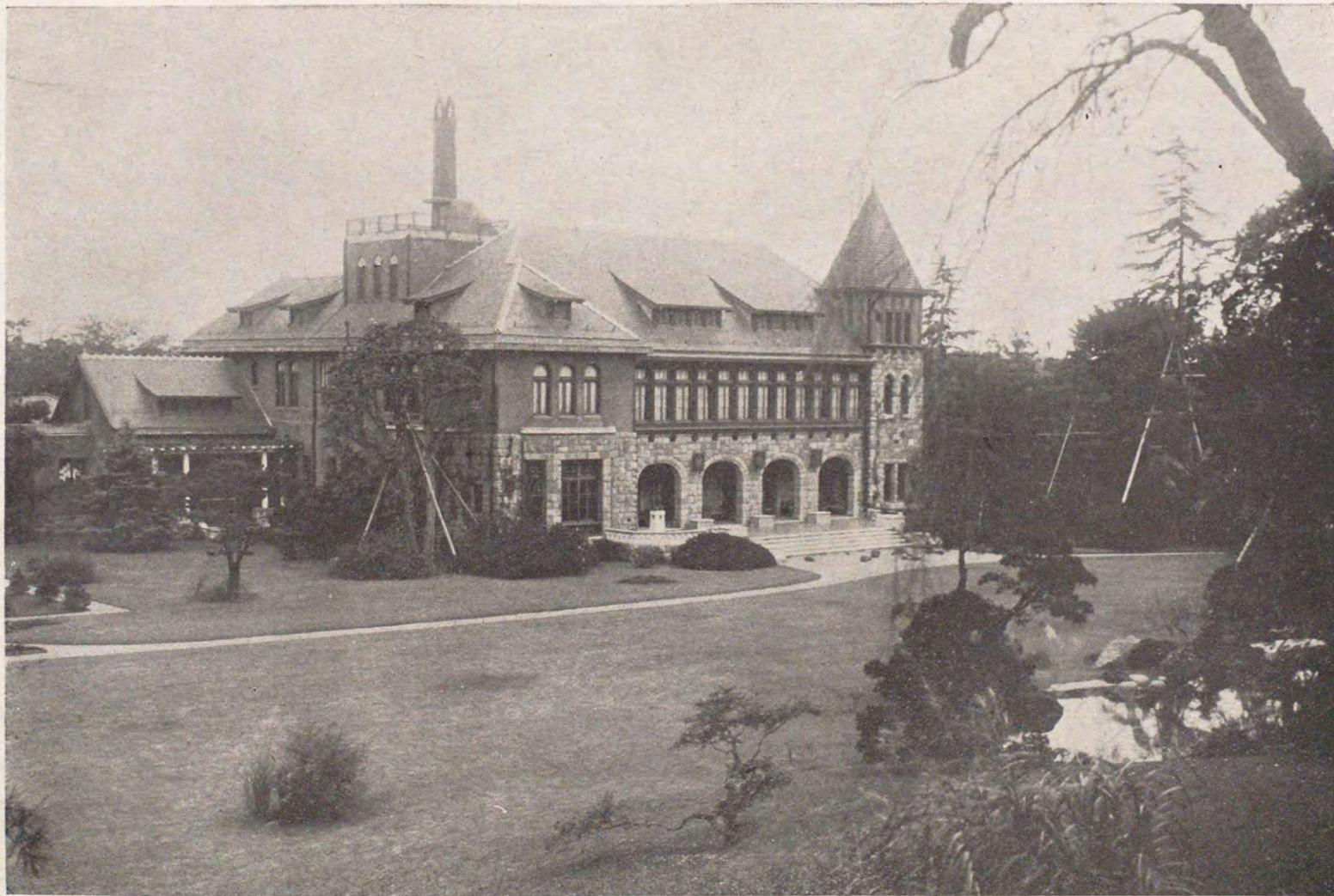
赤 坂 離 宮



The Akasaka Detached Palace.

四谷見附に面せる廣大な地域を占めて、そこに純洋風の善美を凝した建物が赤坂離宮である。もとは紀州侯の邸  
址で、明治六年皇居炎上の時假皇居を御造營になり、その後現在の御建築となり東宮御所に當てられる御豫定のと  
ころ、暫く御見合せになつてゐたが、畏くも聖上陛下が東宮に在した御當時は、御所として御使用遊ばされた。

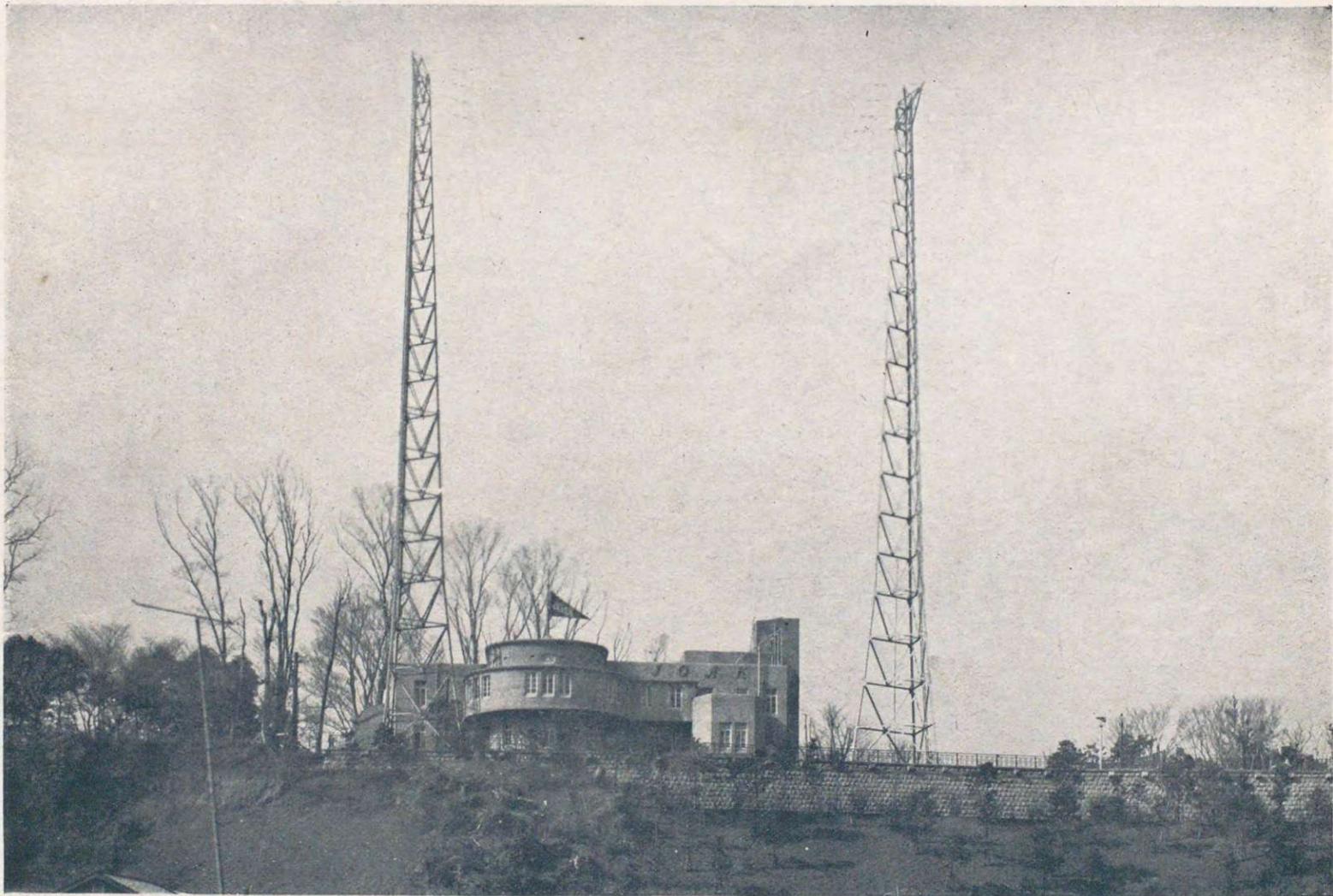
赤坂表町の秩父宮御殿



The palace of Prince Chichibu  
at Omote-chō in Akasaka.

赤坂表町の秩父宮御殿である。「我等の宮様」として常に御慕ひ申上げて居る秩父宮殿下にこそ相應しい瀟洒たる  
しかも堅實質素な御殿である。殿下には常に此御殿で御勉強遊ばされこの庭園で御運動遊ばされる、そして模範的  
な近代家庭生活を妃殿下と共に營んで居られる。御玄関の前にある銅像は朝倉文夫氏の製作にかゝる殿下の御登山  
姿の銅像である。

JOAKこれは愛宕山の放送局であります



JOAK, the Tōkyō Broadcasting Station on Atago Hill.

「JOAK……こちらは東京放送局であります。只今から……」アナウンサーの聲も近頃でこそ餘り珍しがらないが、今若しこのラヂオ放送がなくなつたら我々はどんなに淋しく思ふだらう。時事ニュース、時報、氣象通報、講演、演藝放送は云ふに及ばず、經濟市況、職業紹介までこのラヂオによつて報道される。東京の一の名物であると共に、今では必需品の一つになつてしまつた。(寫眞は芝愛宕山の放送局全景である)

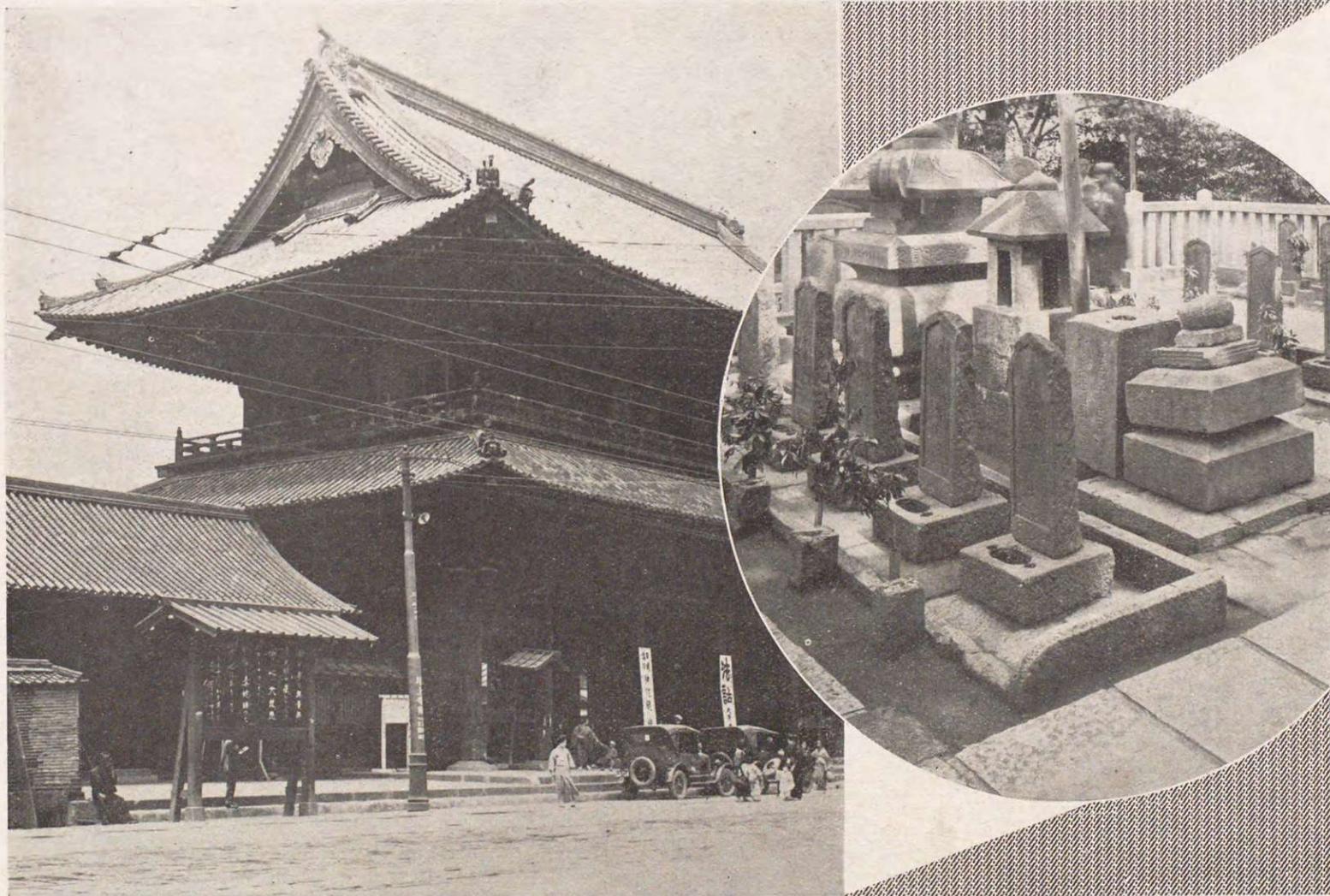
放送室に於ける放送の實況



The broadcasting scenes:  
right, Stars of Shōchiku; left,  
Geisha-girls of Shimbashi.

(右圖)は松竹蒲田撮影所のスター連がマイクローフオーンの前で映畫劇を放送してゐる所、中央が栗島すみ子、その左が東菜子、左端が奈良眞養。(左圖)新橋の藝妓連の放送。斯うした姿こそみえね、マイクローフオーンを通じて美し女優さんや姐さん達の聲が地方の諸君へもひゞくのである。

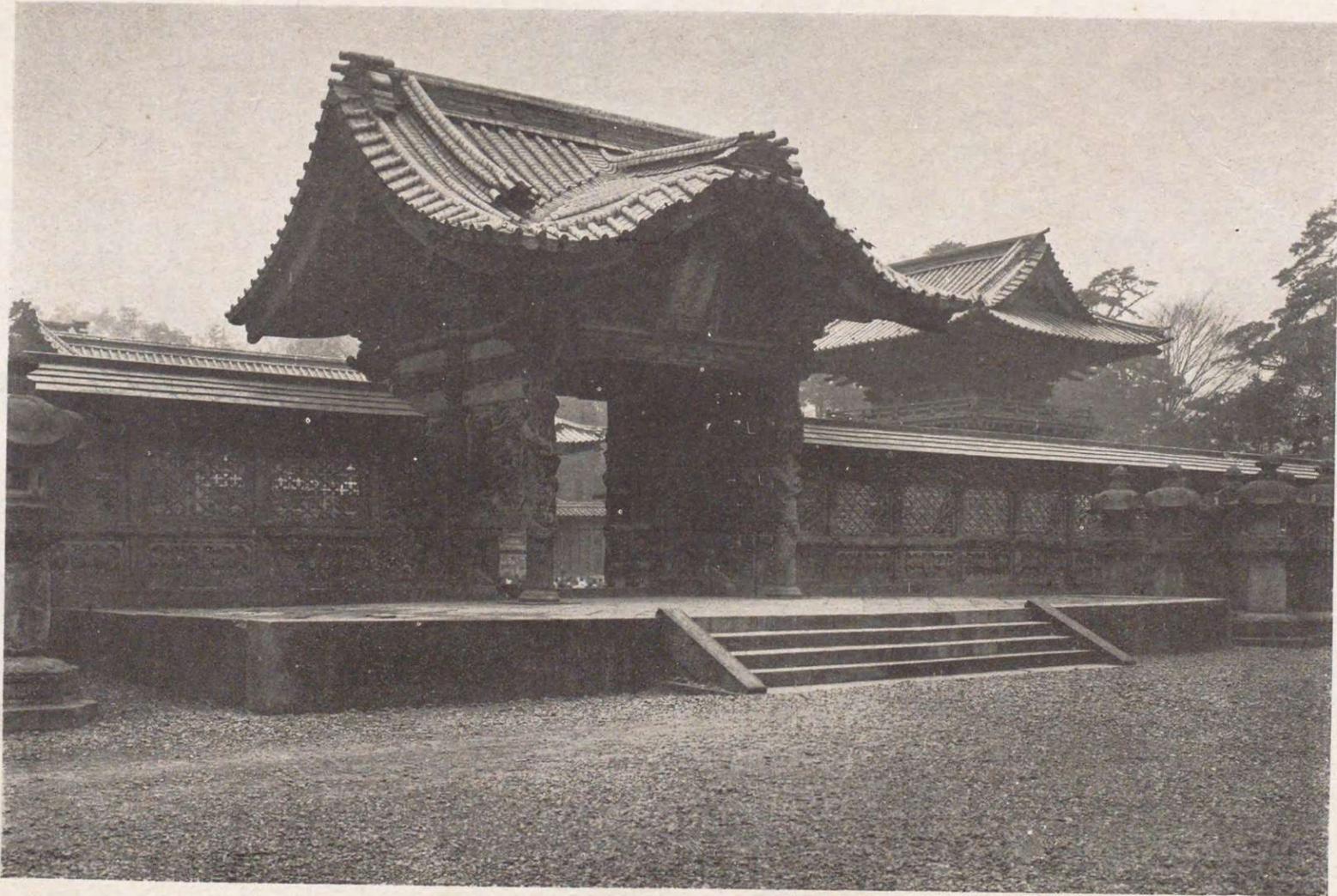
増上寺の樓門と泉岳寺四十七士の墓所



left: The two-storied gate of the Zōjōji Temple. right: The tombs of the Loyal Retainers of Akō at the Sengakuji Temple.

(左圖)芝増上寺樓門の偉觀。増上寺は關東淨土宗の總本山、信心の篤の參詣も良いが、東京見物の人はどうしても見落してはならぬ昔からの東京名所。次に掲げた御靈屋は素より裏手の芝公園も静かないと所だ。(右圖)大石内藏助をはじめ赤穂の浪士四十七士の墓。「右は高輪泉岳寺四十七士の墓どころ……」古い鐵道唱歌に歌はれた通り、今でも香煙の絶えた事がない。寶物庫があつて義士の遺物や肖像を展覽させてある。

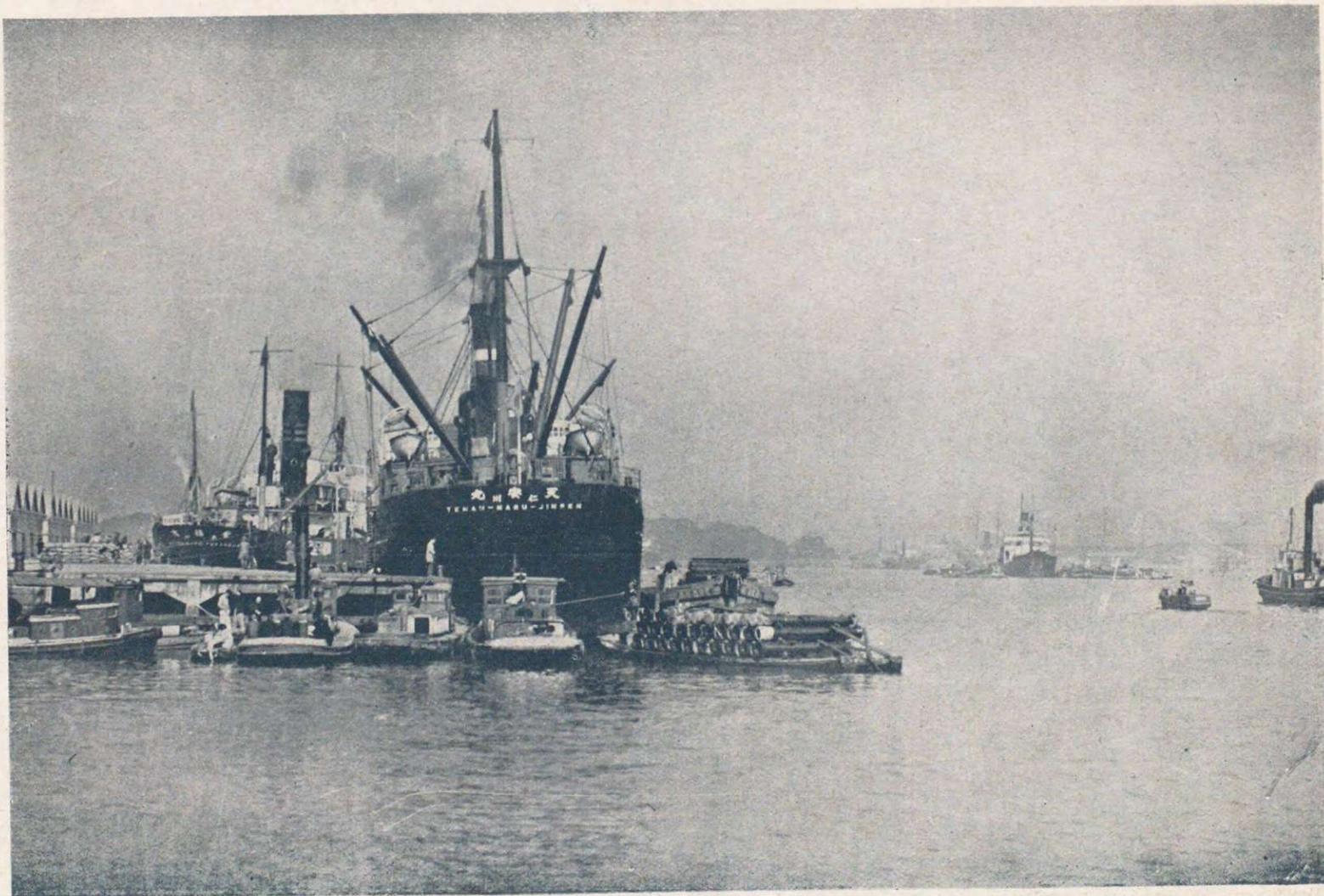
江戸藝術の精華を残す芝増上寺の靈廟



The mausoleum of Shōgun  
Iyetsugu at the Zōjōji Temple.

ジャズのテンポに自動車のスピード、そして立體的なビルディングの聯立、これが近代の東京だ。そして江戸文化の粹を誇るものは日々を減じつゝある。そして往時の工藝美術の精をこらした建築は芝増上寺と上野寛永寺にのこる、徳川歴代將軍の靈廟のみになつた。しかも各御靈屋の内部に示された彫刻、繪畫、彩色等の裝飾美は徳川時代に於ける藝術の精華を遺憾なく表してゐる。今度新たに國寶に指定された。(寫眞は七代將軍家繼の靈廟)

巨船が横着けになる芝浦港



A part of the Port of Shiba-  
ura.

港は横濱に任せて置くのでは大東京の面目にかゝると計畫されたのが芝浦の築港である。千噸から三千噸の船が六隻も横着けになるといふのだから素晴らしいではないか。寫眞はその芝浦港の一部である。

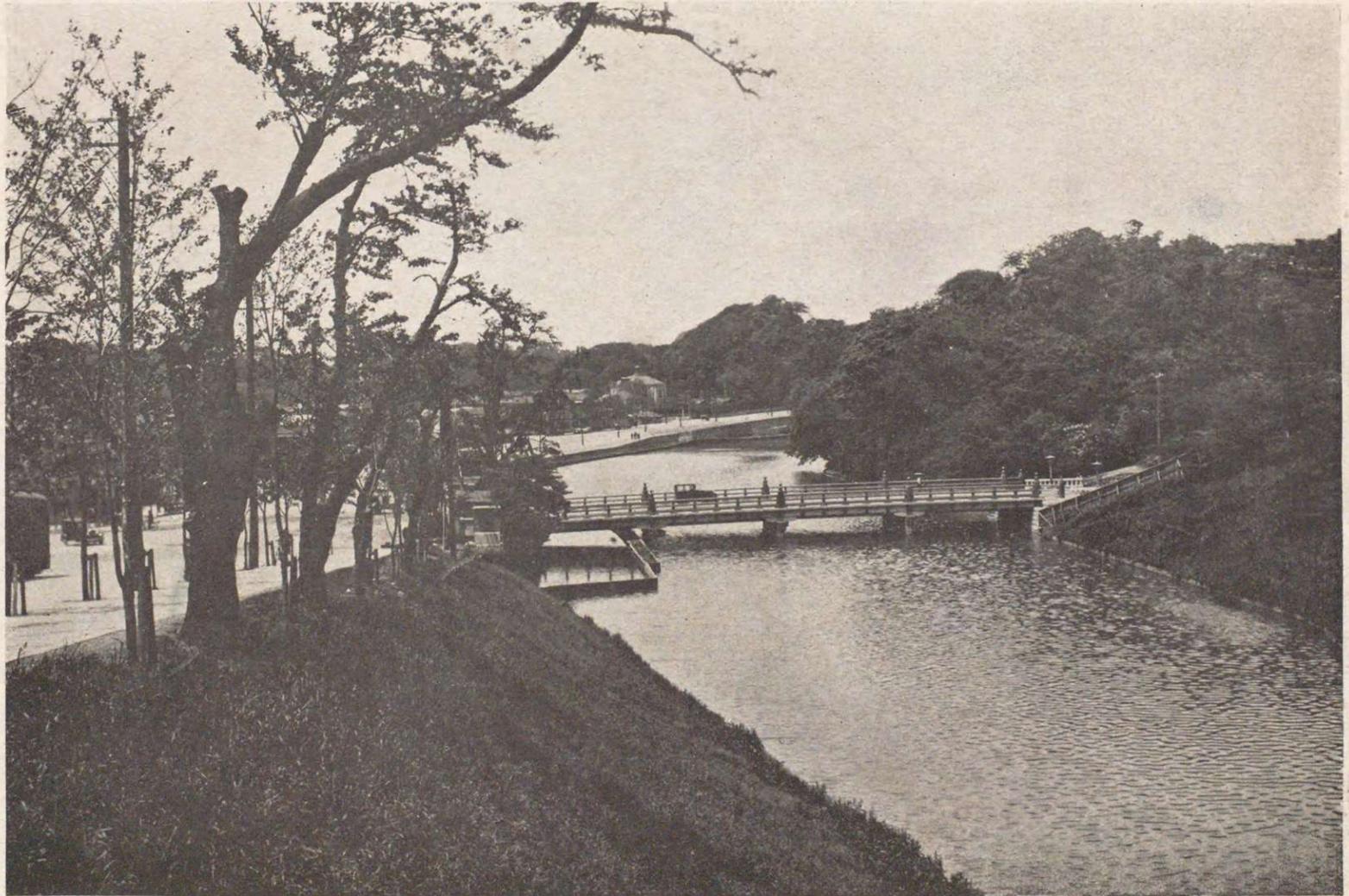
競技の檜舞臺・神宮競技場



The Jingū Stadium: *left*, The track champions; *right*, The Marathon-race champions started off.

毎年明治神宮祭に因んで十一月に開かれる神宮競技は、日本全国からありとあらゆるスポーツの選手等が集つて互に日頃から練りに練つたスポーツ精神と健全な身體を見せる運動の檜舞臺、昨年競技には聖上陛下も天覽あらせられた。(右圖)はマラソン選手が競技場を出発する所。(左圖)はトラックを一周する中距離競走の選手達。

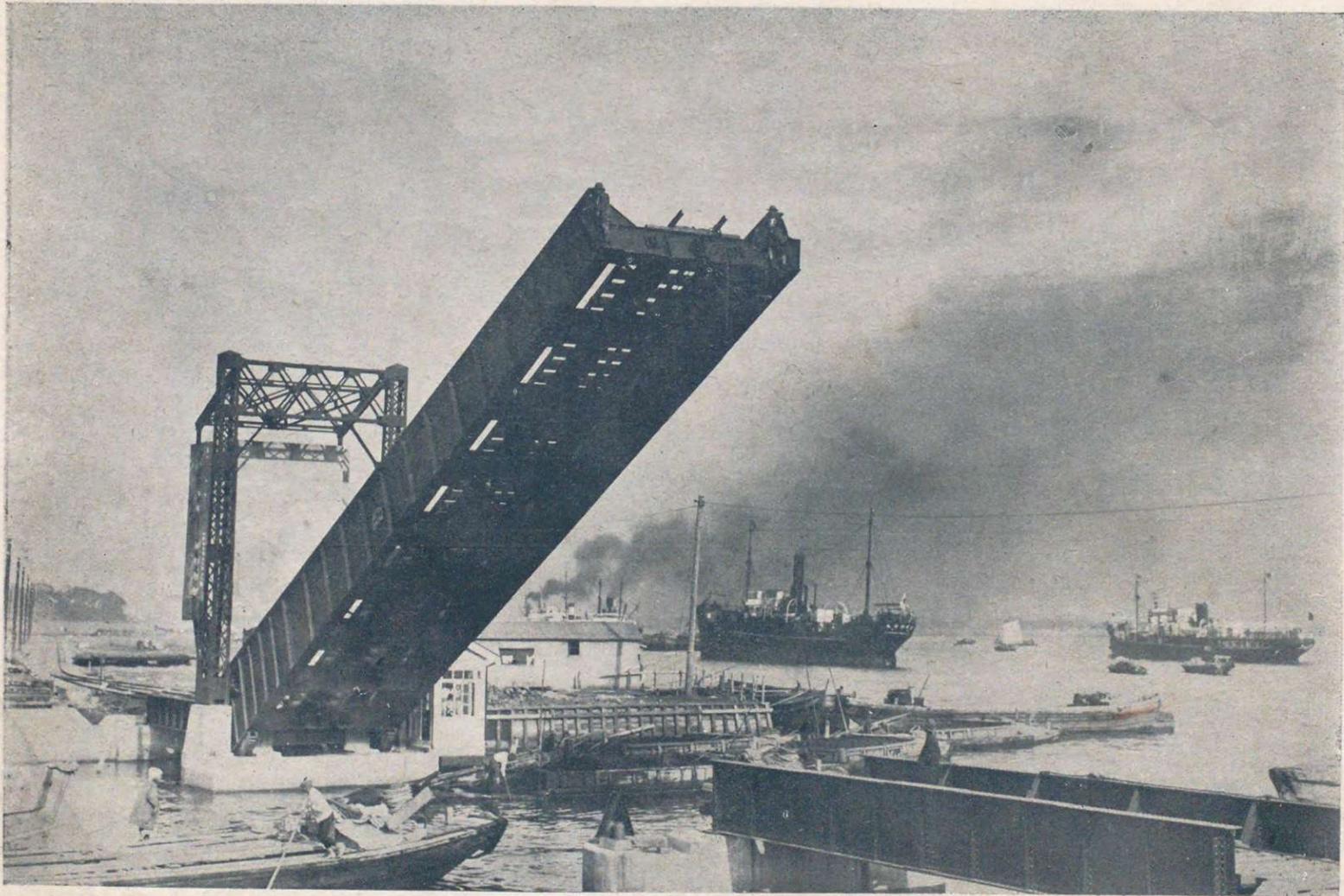
昔ながら木橋に凝寶珠輝く赤坂の辨慶橋



Benkei bridge in the old Japanese at the Akasaka gate.

有名な浮世繪師二代目廣重が描いた錦繪の内に「赤坂の桐畑」と云ふのがある。桐畑と云ふのは、今外濠線の電車が通つてゐる紀國坂の附近で、赤坂離宮所は昔御三家の一たる紀州家の屋敷があつた。その頃茜山と呼ばれた所だけに今の見付附近も中々江戸情緒のあつた所だ。それが今の見付はコンクリートのメーヅメントがあたり一面にひろがつてゴー・ストップの交通もはげしい。只その中で辨慶橋丈が昔ながら木橋で懐古趣味者を喜ばせてゐる。これは最近架け替へになつたものだが、特にこの辨慶橋は木造を許されたものである。

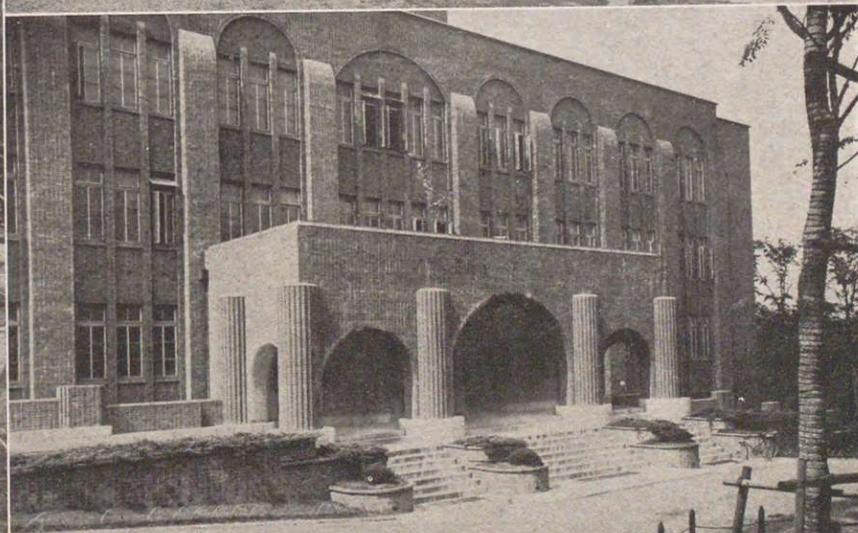
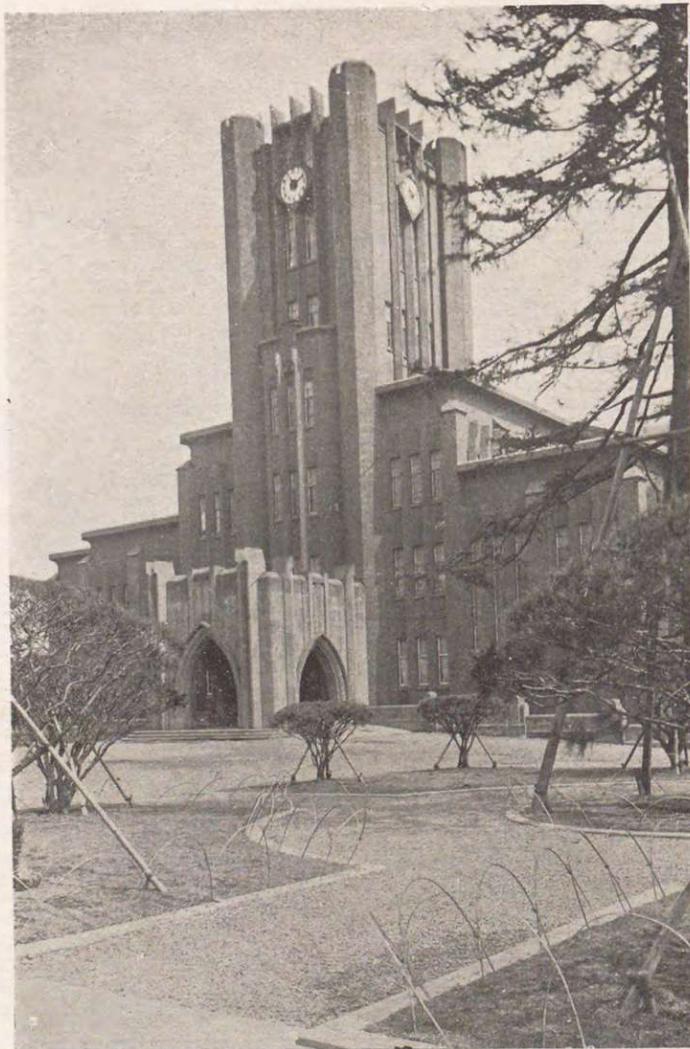
東京港の一部芝浦



Shibaura bascule bridge.

東京灣の築港計畫も殆ど完成せんとしつつある芝浦は、昔の面影更になく工場の煙突と大船巨舶の汽笛の音が空にとろいてゐる。寫眞は芝浦の跳橋で、常は列車が通過するが、下を巨船が航行しようとする時は橋が寫眞の様にはれ上がる仕掛である。

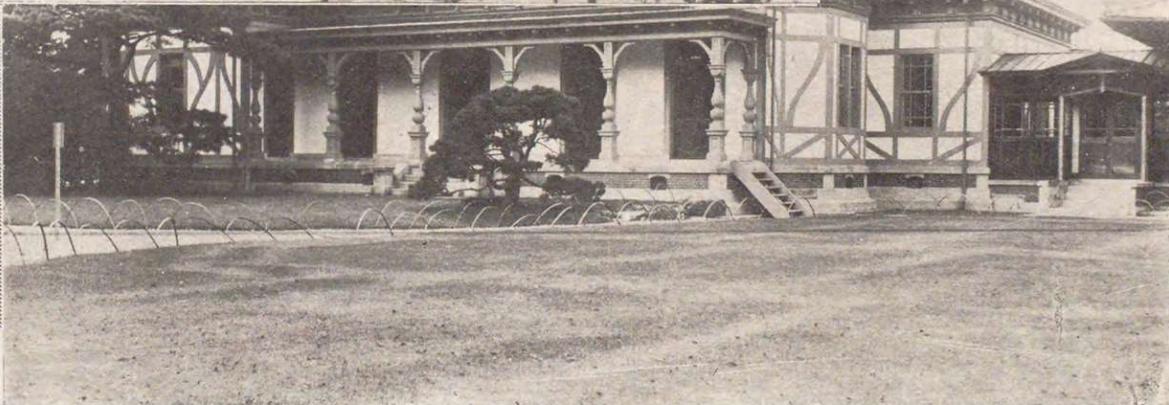
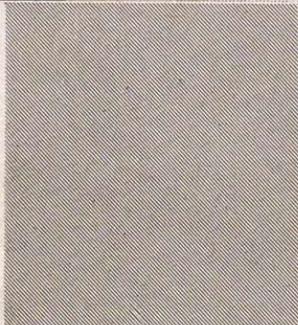
我が國の最高學府・帝國大學



The Tōkyō Imperial University: *left*, The lecture hall; *right*, The engineering college and the medical college.

帝大は我國の最高學府である。こゝを卒業すれば學士様中の學士様だ、まして恩賜の銀時計でも頂戴すればたいしたもの、洋行、歸朝、博士！ところが、この世智辛い世の中は中々それを許さない。入學試験のむづかしいのはもとより、さて卒業した所で、就職難のこの恐ろしい風は最高學府でも委細かまはず吹きまはす、卒業間際の學生さんが本郷の通りを蒼い顔で歩いてゐるのなみると、いとゞ學士様の哀れをまして来る。(こゝに掲げた寫眞は本郷の帝大各教室、右上が工學科教室の建物、右下は醫科、左は安田善次郎氏の寄附によつて出來た安田講堂)。

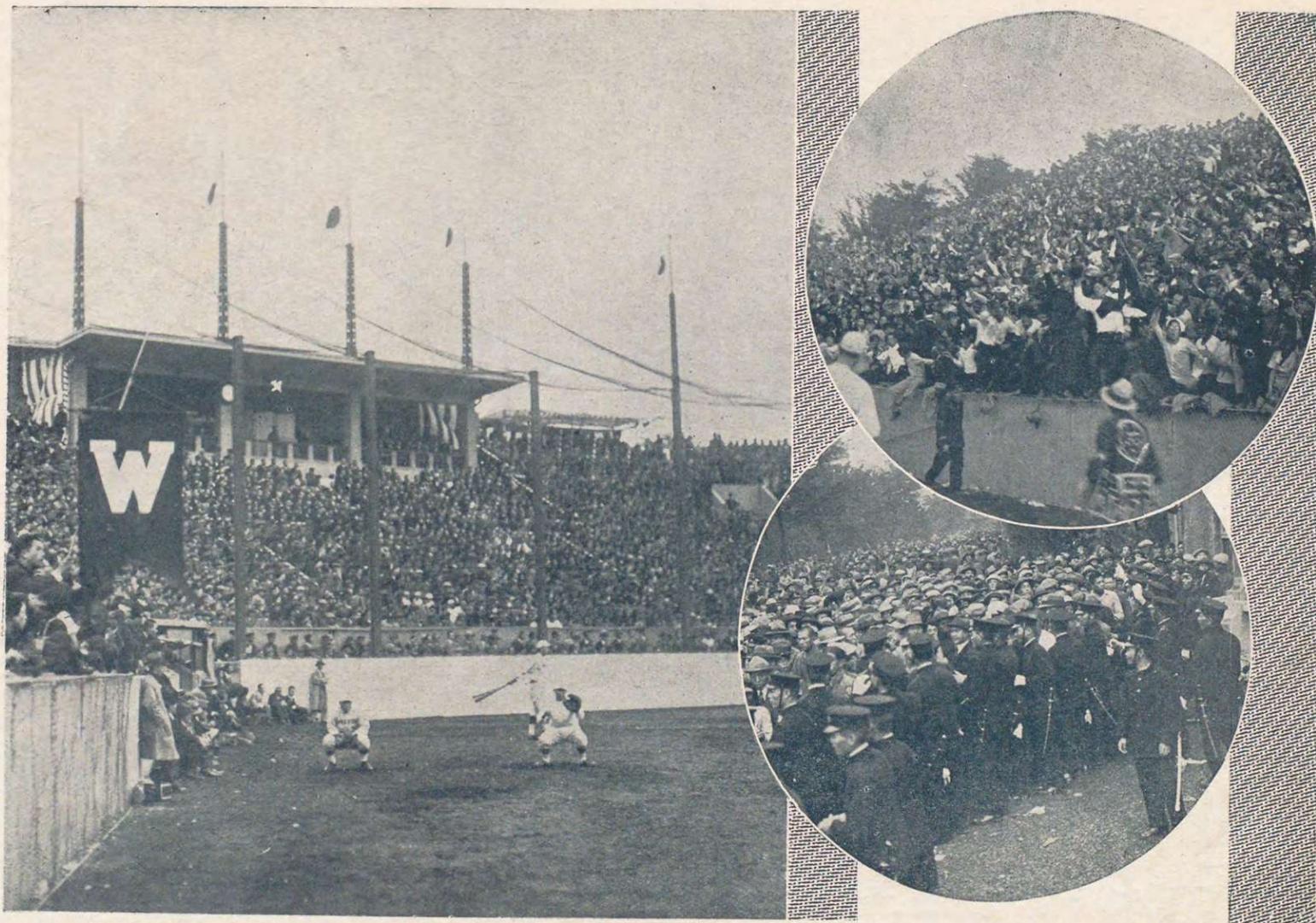
早 稻 田 大 學 と 大 隈 會 館



Waseda University and the  
Okuma Hall.

同じ大學でも帝大の方は「最高學府」と稱される丈あつて何處かイカツイ感じがするが、そこへゆくと早稻田の方は實に快然たるものだ。「早稻田よいとこ、目白を受けて、魔風戀風……」とかなんとか、目白臺の女子大學と相呼應して、ヨーカン色の紋付や黒サージの洋服が氣持よく鶴巻町神樂坂通りを濶歩する。早稻田は、殊に鶴巻町通りは學生街らしい感じが深い。誰でも此處へ來ると快活な學生らしい明るい氣持になれる。(上は正門からみた早稻田大學、下は舊大隈侯邸内に在る大隈會館)

野 球 フ ァ ン の 血 を 沸 す 早 慶 戦



Waseda and Keiō baseball match before the Emperor at the Jingū Ground.

昔は回向院の大角力が江戸つ子の血を湧したものだだったが、今ではそれがメツキリ衰へて、夫に代つて流行り出したのが野球である。殊に春秋に開かれる六大學リーグ戦、その内でも、慶兩軍の陣はリーグ戦中の白眉として毎度ファンを熱狂させる。(左圖)は昭和四年の秋神宮野球技場で悉くも天寛の榮に浴した早慶野球戦の實況。(右上)ファンの應援の光景。(右下)巡査の警戒裡に先を争ふて入場券を買ふファン、前の晩から徹夜して入口につめかけてゐると云ふのだから、その人氣推して知るべしである。

この寫眞帖を見られた人々は、東京が革命的な外觀的變化をしたことに感嘆されるであらう。それはまづたく東京

路にはブラタナスの並木が街を緑化してゐる。そしてその街の左に立ち並ぶ建物は、

この寫眞帖を見られた人々は、東京が革命的な外觀的變化をしたことに感嘆されるであらう。それはまづたく東京生れの、東京ッ見てさへが驚く有様であるから、古い寫眞帖で東京を見てゐた地方の人々は更により大きな驚きを感ぜられると思ふ。

新東京を概観すると、道路の總坪数が震災前までは二百八十萬坪であつたものが、今では全道路坪数が全市總面積の二割五分を占めることとなり、ロンドンの二割三分を凌駕して、世界一を誇るパリの二割五分と比肩するのだが、これだけでも世界一か二とまで偉くなつたわけだ。品川から千住まで蜿蜒として貫く道路。十三キロ半、街

路にはプラマナスの並木が街を綠化してゐる。そしてその街の左右に立ち並ぶ建物は、表現派、分離派、ライト式、ロマネスク、正統派、曰く何々派に何々式等々々々で、その變化に富んだことは、世界建築のデパートを開いたかの觀がある。

一部の都市美研究家は「東京はまだ「汚い」といふが裏から裏を見ればそれは完全ではないかも知れないが、道路、建築、公園等を見れば、何といつても革命的に美化したものである。どうぞ、東京人が彼の震災から燒野ヶ原と化した、その焦土の上に涙ぐましい努力努力の結晶として打ち建てた新東京の姿を見てやつて下さい。

# 新東京見物

## 新しい東京の姿

それはまづたく驚くべき變り様である。大正十二年の震災は、痛恨限りない事變であつた。しかし、あの震災が無かつたなら、東京は今日の近代的都市美を持ち得ないであらう。そしていつまでも汚い、整頓されない江戸時代からの東京であつたに違ひない。

さて、立派に復興したモダン東京を一廻り、御案内することにしよう。

東京驛で汽車を降りたら、何よりも宮城を拜し、大内山の壯嚴な風景に感激するのが第一、それから日比谷公園に入る。こゝは明治三十六年六月一日の開園で、面積は五萬五坪で東京市中の公園としては上野、芝の兩公園に次での広い公園である。上野、芝が江戸時代からの歴史的な風致を存してゐるに反して、日比谷はどこ

までも近代的で、明るい氣分をもつてゐる。日比谷公園を出たら霞ヶ關のお役所街を見物する。この界限はまづたく

## 政治の街

である。海軍省には、素晴しく高い無線塔が聳へ、西郷從道、河村純義、仁禮景範三將軍の銅像が立つてゐる、海軍省の前が外務省、陸奥宗光伯の銅像が頑張つてゐる。外務省のお隣りが赤旗齋へる勞農ロシアの大使館。こゝの坂を登つて行くと麴町は永田町、濱口首相が決然と、だが濫い顔をして鎮座するモダン官邸がある。その御近所には二百三十尺の高塔が四邊を壓して新議事堂が偉容を示してゐる。これらに大に感嘆をして、扱て霞ヶ關の通りを元へ戻る、陸軍省、内相官邸などはまあ大した事はらいが裁判所は一寸内部をのぞくも面白いであらう。

赤煉瓦の三層樓、階下が東京地方裁判所と検事局、二階は控訴院、三階は大審院で、國家最高の司直の府、これは東京にたつた一つの存在だから、見物をすべきだ。

霞ヶ關から櫻田門、例の井伊掃部頭直駒が水戸の烈士に暗殺されたところ。これから日比谷公園の方に戻つて東京市の公會堂を見る。これは安田善次郎翁が刺殺される一寸前に、三百萬人を寄附して出來あがつたもので、三千人を入れる大會場は東京の誇りである。

日比谷公園の正門の前に帝國ホテル、ホテルの隣が舊華族會館である。ホテルは米國の建築技師ライト氏の設計で、大谷石を使つた東洋的な形が非常に面白い。一晚泊りには七圓から風呂附で十圓から、食事は定食晝二圓、晚二圓五十錢を拂へば、大に外國式な氣分にひたることができよう。

### ホテルから日比谷交叉點

宮城の御壕の水は清く、石垣に老松の風情も何となく高々しい。御壕に面して帝國劇場と東京會館、帝劇は最近松竹の手に移つたが、それまでは芝居道の紳士として、一種特別の立場にあつたが、とうとう松竹の勢力下に降服したのは莫しい氣がする。お隣りの東京會館、これは東京に於ける最大の宴會場、帝國ホテルと相對して高級なお客を待つてゐる。

帝劇、東京會館を過ぎれば、もうこゝは丸の内、丸の内ビルディング街、丸ビル、海上ビル、郵

カフエーがモダン過ぎて困るとなれば、天金の天ぶら、竹葉のうなぎ、上海亭の支那料理、更科のそばなど味覺を樂ませることであらう。

船ビルを初めとして、どこもかしこもビルディングである。こゝは昔は草茫をたる三菱ヶ原であつたのが、東京驛が出來上ると共にめきめきと發展して東京驛が十萬人の人員を吞吐すれば丸ビル一軒だけで四千五百人が生活してゐるといふのだから素晴らしいではないか。

東京驛から、何處へ行く、一圓を奮發してタクシーもよいし、三越は赤色、白木屋は白色の自働車が、無料で各々の店まで運んでくれるがこゝから直ぐに三越、白木へ行くよりも、銀座通りへ出た方が順がよからう。歩いてても大したことはなく天下の銀座街、

### 銀座は正に首都の心臓である

試みに夜尾張町の角に立つて街上の風景を見るがよい。電車のスバーク、自働車の警笛、オートバイの爆音、シヨーウインドーのきらめき、廣告塔の明滅、交通整理のゴー・ストップの青と赤、人間の波、波、波、男、男、女、女の波である。新しいのも古いのも、お好み次第。新橋から京橋までの兩側は悉く一流の商店、カフェー、買ひ度いものは遠慮なく買ふべく、飲みたい酒は遠慮なく飲むべしである。カフエーはタイガー、ライオン、クロネコなど、動物園見た様だが、中にはきれいな女給さんが、吾人の至るを待つてゐるといふ次第、裏通りにはサイセリヤ、アホヒ、モンマルトル、メーゾンヤエ、など超モダンの酒場がある。

も恐ろしいところだが、しかし、我國財界のバロメーターとあつて見れば、大に尊敬せにやなら

帝劇、東京會館を過ぎれば、もうこゝは丸の内、丸の内ビルディング街、丸ビル、海上ビル、郵

イセリヤ、アホヒ、モンマルトル、メーゾンヤエ、など超モダンの酒場がある。

カフェーがモダン過ぎて困るとなれば、天金の天ぶら、竹葉のうなぎ、上海亭の支那料理、更科のそばなど味覺を樂ませることであらう。お土産を買ふならば、デパートメントに松屋、松坂屋があり、服部、天賞堂等もある。

銀座の通りをブラ／＼と歩いてゐるうちに、いつの間にか京橋を渡り、日本橋通りへ出る。日本橋通り一丁目には、呉服店として江戸時代からその名を謳はれた白木屋が、近代的流行の百貨店として橋向ふの三越と相對してゐる。

### 東京の中心、日本橋

ではあるが、今日では東京の中心は銀座、丸の内通りへ移動して、日本橋はいさゝか近代的な感覺を失つた感がある。しかし、何といつても金持の街である。東京第一の裕福なところである。日本橋を渡れば三越、我が最大の百貨店だ。こゝ一軒だけでもゆつくりと見物したらゆうに一日はかゝる。だから、ぐる／＼と大股で廻つて、七階の食堂で一休みして、屋上で東京全市を俯瞰して、ついでにお隣りの三井銀行を眺めて、天下の財豪を羨望するものよろしからう。三越の裏には日本銀行、正金銀行がある。ついでに前だけでも見物するがよからう。だがお金持の人はよろしく金貨一枚を兩替することだ何とよい東京土産となるではないか。兜町には有名な東京株式取引所、人間の慾を最高度に具體化したところ、一夜にして成金ともなれば、一瞬にして身代を棒に觸る、世に

も恐しいところだが、しかし、我國財界のパロメーターとあつて見れば、大に尊敬せにやならぬところでもある。最近の資本金は四千七百萬圓、取引高が債券額五億二千五百九十一萬餘圓、株式數六千八百二十六萬餘株である。

兜町では株の賣買、間近な彌殼町では米穀の賣買と、欲の塊りとしての人間を語つてゐる。米穀取引所の資本金は六百五十萬圓である。

### 投機の巷を見てから

人形町に出る。こゝには有名な水天宮が鎮座する。人形町といへば東京の下町情調が頗る濃かんににじみ出てゐるところであつたが、復興後の人形町は、もうすべてがモダン、モダン、モダンである。

こゝから直ぐ近くに明治座を中心とした明治座通り、これに並行した公園通りの突き當りが濱町公園で、水に臨んだ自然の風致を生かしたもので、こゝに吐け口を向けて銀座通りなるものが出來た。モダンガールとモダンボーイが銀座を横行すれば、銀座には濱町、霞町、柳橋の仇者が横行しようといふ、趣味的に、思想的にも大分隔りをもつた新しい盛り場である。

濱町河岸へ出れば、否でも往でも橋が眼に入るだらう。「東京の復興は橋から」といはれた位に隅田川に架る橋は壯美である。相生橋、永代橋、清洲橋、藏前橋、駒形橋、言問橋の六大橋の爲には橋梁費金額約三千四百萬圓中の殆ど三分の一を投じたといふ。この他に在來の新大橋

兩國橋、吾妻橋の三橋を加へると十大橋となるわけである。

### 新しい七大橋

勿論耐震、耐火の大鐵骨梁で作られた。そして隅田川の川幅は上流が約三百メートルだから、橋の長さはそれ〴〵に順應してゐる。駒形橋と藏前橋の個所は地盤が良好であつたから工事が比較的容易であつたが、永代橋と清洲橋の個所の地盤が最も悪かつたので、我國には鴨綠江でやつた外に例のない壓搾空氣潛函工法といふのを採用した。

橋の形態は、言問橋は河岸公園たる新隅田公園の風致に合はされて水平な一文字、永代と清洲とは空高く昇つてゐるが、空中にアーチをたく描かせ、後者はやさしく空から網を垂れ下げたかのように作られてゐる。

隅田川に浮く都島に大に東京情調を味つて兩國を渡れば國技館の大鐵傘が聳へてゐる、こゝは春夏の大角力はいはずもがな、秋には菊が呼物で國技館としては新しい營業科目がふへたといふものである。國技館から電車二停留場にして思ひ出も悲しい被服廠前である。こゝは震災前までは陸軍被服廠のあつたところ。二萬坪の廣場であつた。あの九月一日の震災に二萬坪の廣場が逃げ場として不適當であつたとは誰が想像し得たであらう。實に二萬六千餘人の震災犠牲者の恨みは永い場所である。巍然として聳へる震災記念堂も思へば悲しい姿であるが、

二階は今はその姿を失つたが、その代りに御待合なるものが、粹な姿を現して爪弾きの音もしめつぼく、かと思へば、活動小屋や雜間の渦巻

人々の手向ける香華にさぞや佛は浮んでゐる。とであらう。震災堂の參詣を濟せてこゝから電車へ乗つて吾妻橋で降ると、日本第一の歡樂境淺草である。

淺草に来て第一番にお賽錢をあげて御利益を願ふのは觀音堂である。御本尊は一寸八分だが十八間四方の本堂に納つて日本一の御賽錢收入があるといふから豪勢なものである。

觀音堂から左に曲れば淺草の歡樂境が眼前に展開する。

クララボウと、アンナメイウオンと、傳明と傳次郎と、入江たか子の映畫俳優の人氣が相交錯して常設館無慮二十五六、世界の盛り場として恥しくない繁昌である。こゝへ集る客は、モダンボーイ、モダンガールの手輩は餘り見られずハンティングの學生、前垂の小僧さん、店員、職人、下町商人の娘さんといったところが半數以上を占めてゐる。

映畫館と劇場に就て淺草を代表するものは飲食店である。そして、こゝの特色とするのは、  
「安くて早くてうまいこと」である。

草津、一直は一流の料亭、やゝ下つて大衆的な大増、牛の松喜、鰻の奴、天ぶらの中清など不景氣知らずの大繁昌、その他支那料理は上海亭、肉は松喜、ちんや、米久等々、壽司は金すし、都すし、そばは池の端の萬盛庵、その他等等數へ立てれば際限はあるまい。

食物の巷の裏から裏へと魔性の女の存在を忘れてはならない。淫名天下に謳はれた往年の十

### 上野へ來たら先づ石段

を上り

災犠牲者の恨みは永い場所である。巍然として  
聳へる震災記念堂も思へば悲しい姿であるが、

食物の巷の裏から裏へと魔性の女の存在を忘  
れてはならない。淫名天下に謳はれた往年の十

二階は今はその姿を失つたが、その代りに御待  
合なるものが、粹な姿を現して爪弾きの音もし  
めつぼく、かと思へば、活動小屋や雑間の渦巻  
の中に出没するは高等淫賣、一ヶ月六回人妻と  
なるとして「月六妻」などいふすごいのもある。  
歌劇女優の成れの果て、安來節のシンガーなど  
も交つてゐるといふ。

朝から晩まで歡樂、歡樂の淺草のお隣には吉  
原の遊廓、今は昔の面影なしとはいへ、三千の  
遊女が毎夜その何倍かの異性を向ふに廻してゐ  
るのだから大したもののである。

淺草の雷門から、一寸吾妻橋を渡つて

### 隅田川の堤を言問へ歩く

こゝが昔から向島、墨堤十里、十里は大袈裟だ  
が、兎に角文人墨客の雅懷を喜ばせ、春は櫻に  
都民の歡樂をこゝに集めたもの、長命寺の櫻餅、  
三國神社、言問のだんご、あれもこれも、堤と  
橋がコンクリートで固められ、江戸趣味がモダ  
ン趣味の都市美とやらになれば、もう江戸の昔  
の面影さらに無し、都鳥のやさしい姿も、モー  
ターボートの爆音に魂を消して、ゆつたりした  
情景は見られない、だが、モダン化した水の公  
園としての隅田堤、見るだけは見るべしである。  
こゝから一度雷門へ戻るか、言問橋を渡つ  
たあたり圓タクに乗つて一路上野へと進むべし  
である。圓タクも飽きたとなれば、雷門から  
金十銭の例の地下鐵道、二三分で上野公園の山  
下、上野の電車驛の前にポツカリと出られる。

### 上野へ来たなら先づ石段 を上り

西郷さんの銅像の前に立つて見る、復興の東京  
は實によく展望できるのだ。それに彰義隊の墓  
清水堂、東照宮、五重塔などは徳川將軍家時代  
の江戸の遺物、趣味も大分懐古的になるが、そ  
れでは古い、新しい趣味を求めたいならば、東  
京府の美術館、帝展、院展、二科、南畫展その  
他一年中展覽會の開かれざるはないから、こゝ  
で一つ近代的審美眼といふやつを養つて、更に  
古代の美の世界に遊ぶべく東京帝室博物館が  
あり、美術學校、音樂學校、寛永寺の徳川家廟、  
子供連れならば動物園にも一寸這入つて見る。  
それらを一巡して山を下れば、不忍の池、池の  
中央に辨財天、觀月橋を渡ればそこには博覽會  
の會場が、いつも何らかの催しをやつてゐる。  
見るものゝ次には食ふ物だが、上野は流石に  
淺草と違つてどことなく風格がある。支那料理  
の翠松園、日本料理の災福、豆腐料理の忍川な  
どは粹で高級な方、大衆的には米久、世界、だ  
るまなどがある。

廣小路に出れば、四角の一方に巍然たる松坂  
屋デパート、經營者が名古屋の豪商伊藤治郎左  
衛門氏だけに、すべてが堅實だといふ評判であ  
る。

上野もこれで済んだ、これから電車へ乗つて  
本郷三丁目、我が國最高の學府たる帝國大學、  
安田家寄附の講堂がすばらしい。

本郷から一足飛び九段へ出るもよし、神田の通りから九段へ行くもよからう。

### 神田は書店と學校

の多いことで、東京市中に異色をはなつてゐる。學校には明治大學、商科大學、中央大學、専修大學、その他私立の中學校、受験豫備校があり、書店には古書専門、法律専門、何々専門とこの街に來れば手に入らぬ書籍なしとされてゐる。駿河臺を登ればお茶の水、その昔仙臺藩主伊達侯が一切の費用を出して工事を起した堀割、小赤壁の名によつてその風景は、江戸から東京への名所である。この向ふ側が湯島の聖堂、徳川時代の最高學府であつた。こゝに架けられた橋が聖橋、橋脚の美は新東京の橋の中で代表的なものとされてゐる。

神田の街が盡きたところに、九段の坂があり、登れば高燈籠と鳥居が聳へて、護國の英靈を祀る別格官幣社靖國神社、本殿を拜して傍なる遊就館に入り各戦役の戦利品、我國の鎗刀、乃木將軍の遺物などを見る。九段の傍には近衛一聯隊の兵舎があり、宮闕守護の干城、ラツパの音もいと勇ましい。

靖國神社の参拜を終つたら、そこから電車に乗つて四谷見附に出る、見附の一方に壯麗なる建築物、一段のこうくしに首の下るを禁じ得ないのも理なり、これは東宮御所である。東宮御所を拜したら御壕に松の風情も深い紀の國坂を下つて辨慶橋、こゝだけは近代化し洋風化

東京全市が一眸の裡に俯瞰できるわけ、つい近年までは愛宕山は東京市中唯一の高い山として名所であつた。こゝから品川のお臺場を五分十

して行く東京の中でたつた一ヶ所純日本式の風致をもつてゐるところである。

橋を渡れば清水谷公園、明治の元勳大久保利通侯が暗殺されたといふ喰違はこゝである。辨慶橋の前が赤坂見附、青山行の電車に乗れば、車上から誠に恐懼の極みであるが、皇太后陛下の在す青山東御所、秩父宮殿下の御殿を拜することが出来る。青山の一丁目で降れば間近なるは、

### 明治神宮の外苑

日本青年會館、憲法記念館、明治大帝聖徳記念繪畫館、それに全日本的大なる野球場、運動場がある。外苑から信濃町の省線驛で電車に乗り、千駄ヶ谷、代々木、代々木の驛からはもう明治神宮が拜される、坦々たる参道を進めばこゝには近代日本の英主明治大帝の御靈を鎮め奉つた明治神宮の御本殿がある。恭しく帽を脱し、國士の安穩を祈つて、参道を眞つ直ぐに青山原宿に出る、こゝから青山六丁目まで一直線の大道路が有名な明治神宮表参道である。

青山六丁目から電車に乗つて新坂町、軍神乃木大將の邸宅と乃木神社がある。明治四十五年明治天皇御大葬の夜、静子夫人と共に大帝の御跡を追ひ奉つた殉死の館、今に疊の上に血痕の消へぬも將軍を偲ぶ思ひ出の種である。

こゝから

### 芝へ出て愛宕山を登れば

料たる品川のお臺場も、やがて東京の地續きになつてしまふであらう。この芝浦からやがては高輪の泉岳寺、赤坂の

得ないのも理なり。これに更なる御所を拜したら御塚に松の風情も深い紀の國坂を下つて辨慶橋、こゝだけは近代化し洋風化

### 芝へ出て愛宕山を登れば

東京全市が一眸の裡に俯瞰できるわけ、つい近年までは愛宕山は東京市中唯一の高い山として名所であつた。こゝから品川のお臺場を五分十錢の望遠鏡で眺めれば東京見物の気分は十分であつたが、モダン東京は、この愛宕山をして更に一の名所を増したといふのは、J.O.A.K.こち

料たる品川のお臺場も、やがて東京の地續きになつてしまふであらう。この芝浦からやがては高輪の泉岳寺、赤穂四十七士の義烈を弔ふも東京見物のプログラムの一であらうが、しかし、近代東京とは大分かけ離れて來た。

ら東 京 中央放送局で「近代科學文明の尖端を行くラヂオの本場である。大正十四年三月芝浦の假放送局で放送事業を開始してから僅かの間に驚くべき發展を示し、昭和四年の七月末には聴取者三十九萬八千二百五十七人、もう三十萬は突破してゐるであらうから、一ヶ月一圓で三十萬圓、これが毎月のことだから放送局は不景氣知らずの黄金卿といふことができよう。埼玉縣鳩ヶ谷の新郷放送所の十キロ放送が完成してからは、聴取距離は一段と増加して茨城、栃木、群馬、新潟、長野、静岡の各縣にまでさこえ、四十九里の浪を越えて佐渡にまで達することゝなつた。

ぐる／＼廻りの飛脚見物、これでも悠に三日はかゝる。だが、この見物ぶりでは甚だもの足りないであらう。といふのは新東京の新東京らしいところが見たいものだ。先づ京橋は木挽町の歌舞伎座で一夜を歌舞伎趣味に陶醉したい。それから若い人なら築地小劇場で左翼劇場の芝居もよからう。劇場といへばなまめかしい女と白粉とが跋扈するものと思へば大間違ひで、この左翼劇場として最も勞働者的な、眞剣な劇場である。

放送局の内部は一般に公開してゐないが、多少のつてがあれば一巡することも困難ではあるまい。愛宕の山を下つて間もなく芝公園の増上寺と御靈屋とともに上野のそれとは縁の深いものでこの邊一體の芝公園はものさびた風趣あるところである。丸山に登ればそこには東照宮と五重塔、丸山は古代人の住居の跡で貝塚もある。芝浦の東京港三千噸の巨船が横着けになるといふ東京市の大計畫も完成した。明治維新の回顧史

ちマネキン嬢、これはどこのデパートメントで見ることが出来るが、ダンスホールを見物するのは一寸勇氣を要するかも知れない。京橋の千代田ビル内にある東京舞踊研究所、人形町のユニオンダンス・ホール、赤坂溜池のフロリダ、その他にあつて入場料が五十錢、ダンス代は晝が一回十錢、夜がジャズ入りで二十錢である。まづ銀座あたりのカフェーで一杯やつて、銀座を散歩して、ダンスホールで踊らないまでもジャズに浮かれ心を抱けば、モダンなところであらう。

新東京を順序よく見物するには、どんなコースをとればよいか、試みに東京遊覧自動車のコースを記せば左の通りで二日がかりである。

◆東京驛發、三越から兩國橋、國技館を見て、兩國驛から、被服廠跡の震災記念堂を賽し吾妻橋を渡つて淺草公園を廻り下谷稻荷町通りを上野驛前に、西郷銅像、上野見晴臺、美術館、博物館、動物園、不忍池、松坂屋前を経て黒門町から須田町へ出て、日本橋白木屋、日本橋通り京橋銀座通りへ、松屋、歌舞伎座から、築地小劇場、新橋驛より、議事堂の新舊建物を見て日比谷に出て、宮城二重橋、楠公銅像、丸ビルより東京驛に至つて第一回が終る。

◆第二日は、新宿驛から四谷通りへ出て、赤坂離宮、青山御所、明治神宮外苑から神宮を参拜し、乃木神社、高輪御所、泉岳寺を経て芝公園に出て、増上寺に参詣し、御成門より放送局を見學し、日比谷公園より帝國ホテル、帝國、朝日新聞、日日新聞、丸の内より東京驛に至り、宮城内廣場を脱けて九段坂、靖國神社を参詣し、半藏門へ出て参謀本部前の坂を登り議事堂本建築を見物して、赤坂見附辨慶橋より新宿驛に至る。

◆東京遊覧自動車は一日御一名三圓五十銭、勿論乗合で、説明者がついてゐるから便利なわけであるが、時間と、費用に餘裕のある人は勝手な行動をとつた方が面白いこと限りなしである。

◆東京市の交通機關は、極く有り來りではある

が市電氣局經營の電車である。全線片道金七錢乗換は自在だし、全市にわたつて蜘蛛の巣のように通じてゐるから、これをうまく利用すれば經濟的でもあるし、上つ面でない東京の物情も見られるわけである。たゞし、一人で乗るのは迷ひ兒になる恐れ充分だが、交通圖をよく見て研究的に乗り廻らうといふ道樂氣のある人ならば結局はこの方がよいであらう。

◆早くて、乗り心地のよい乗りものに乗合自動車がある。東京市電氣局經營の圓太郎と、東京自動車會社の青バスとの二種で、共に可愛らしい女車掌さんが親切に扱つてくれる。料金は一區七錢だから電車の全線七錢に比すれば平均して三四倍の交通費になるであらうが、電車の遅々たるに較べれば早いことにかけては、お値段の高さも我慢せずばなるまい。

◆贅澤を極めこむ人は圓タクに乗るべしである自動車賃も震災後は驚くほど暴露した。一臺四五千圓、いや、それ以上の高級車に資本家らしく豪然と納つて、品川から上野まで走らせたところが僅かタツタ一圓で済むのだから、すこし財布の樂な人は圓タクを飛して、東京見物に大にブルらしい氣分を味ふべしである。最近までは怪し氣な奴が不當料金を貪つたが、現在は極く安心ができる。乗る時に「ドコまで行くが一圓だよ」と念を押して乗ればよろしい。降る時に不當な請求をする者があつたら容捨なく巡査の引渡すことである。

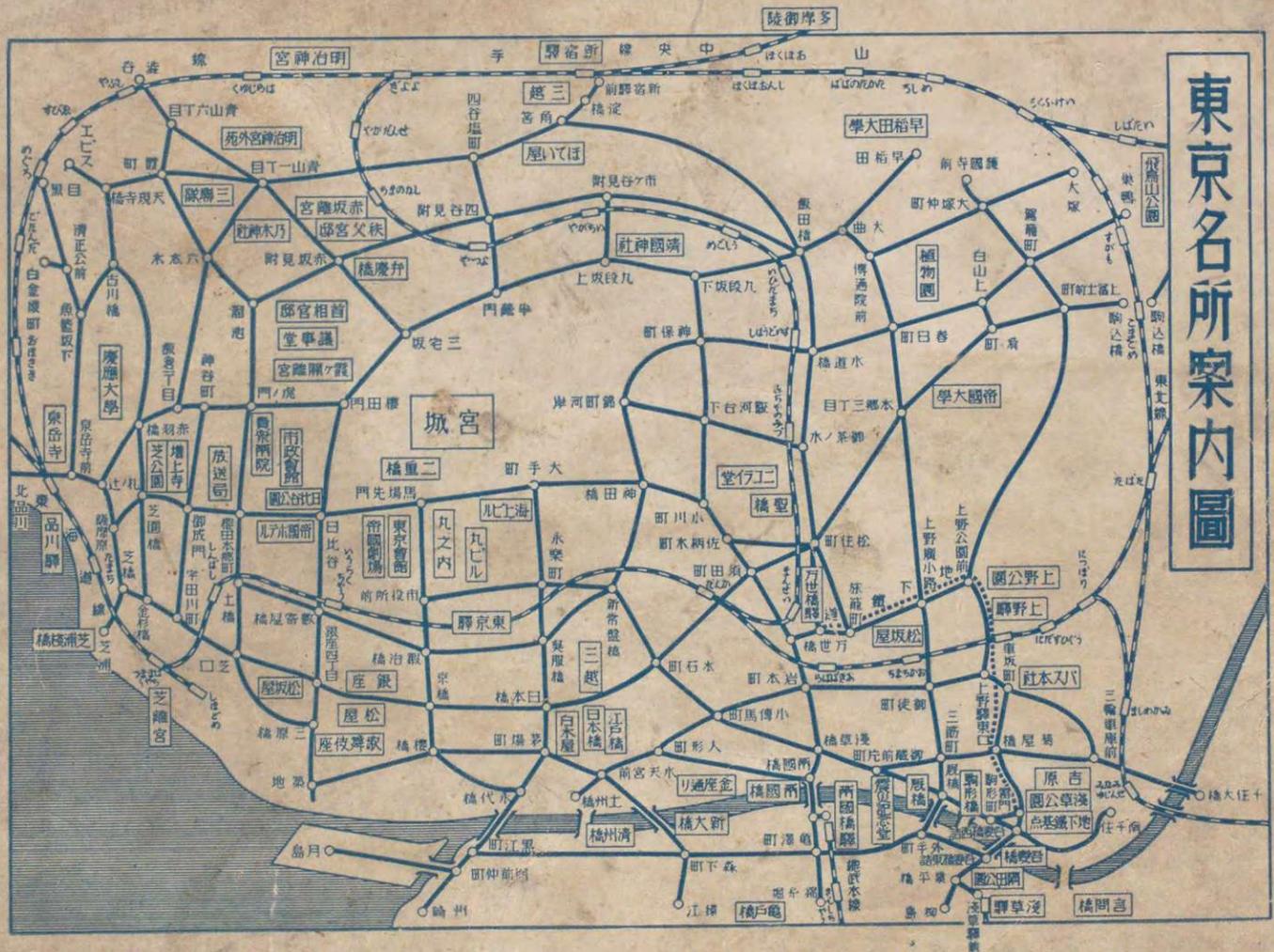
〔終〕

手な行動をとつた方が面白いこと限りなしである。  
◆東京市の交通機關は、極く有り來りではある

の引渡すことである。

〔終〕

# 東京名所案内圖

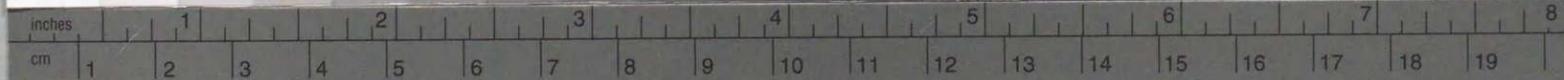


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

